

## 第2章 調査結果



# I 東京都がんに関する患者調査

## 1. 回答者の状況について

### 1) 性別・年齢

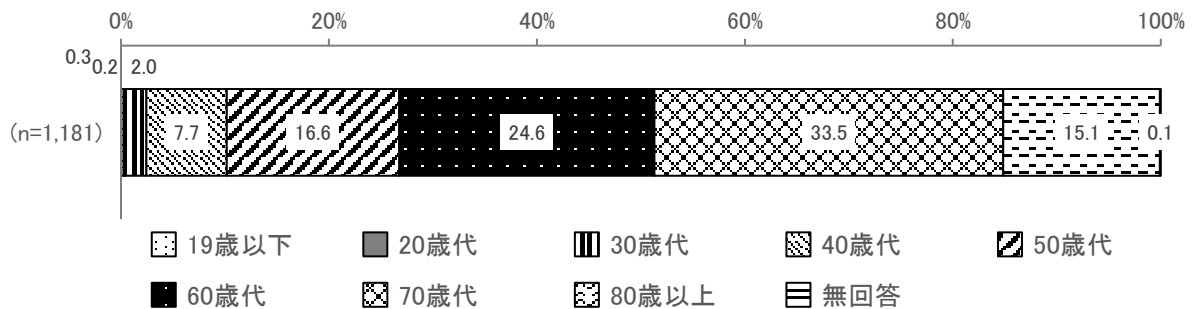
《問1》現在の年齢を教えてください。(○は1つ)

《問2》性別を教えてください。(○は1つ)

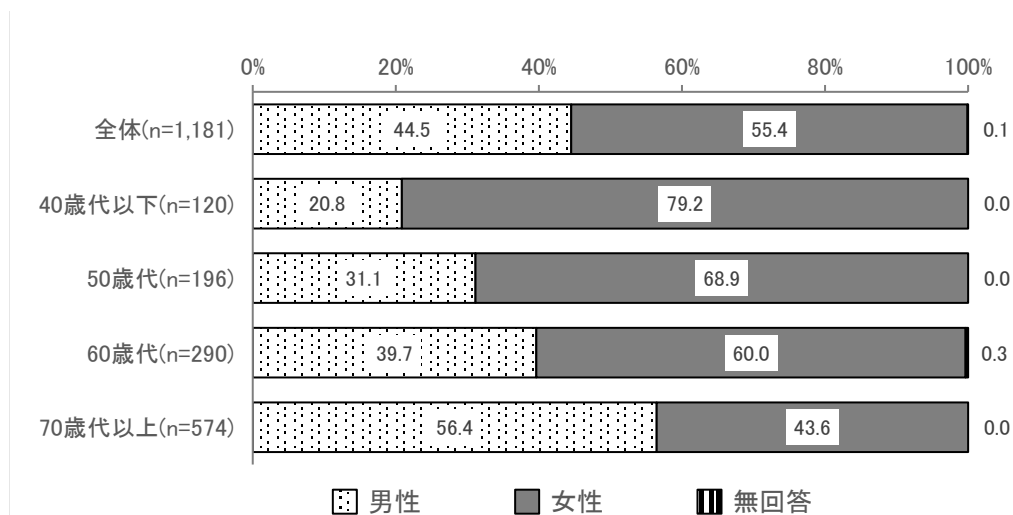
年齢階級別の構成割合を見ると、「70歳代」が33.5%、「60歳代」が24.6%であり、60歳代及び70歳代で過半数以上であった。

性別は男性と女性がそれぞれ約半数であったが、年齢階級別にみると、年齢が若いほど女性が多くなっている。

図表1 年齢階級別構成割合



図表2 性別【年齢階級別】

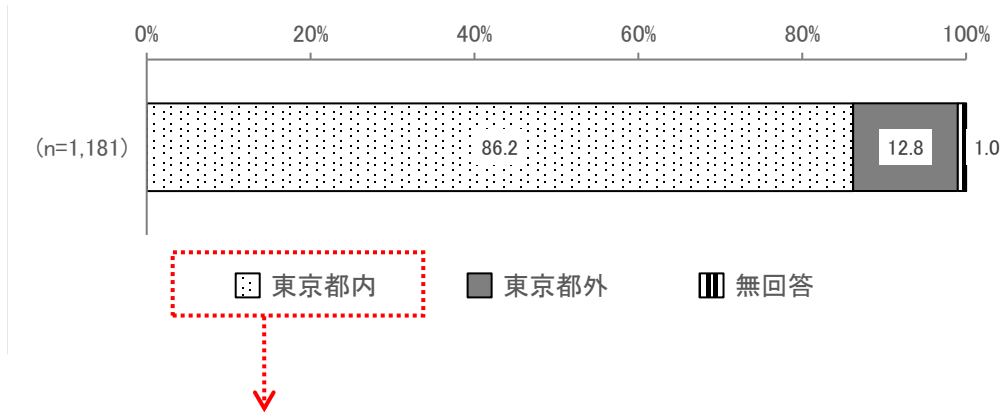


## 2) 居住地

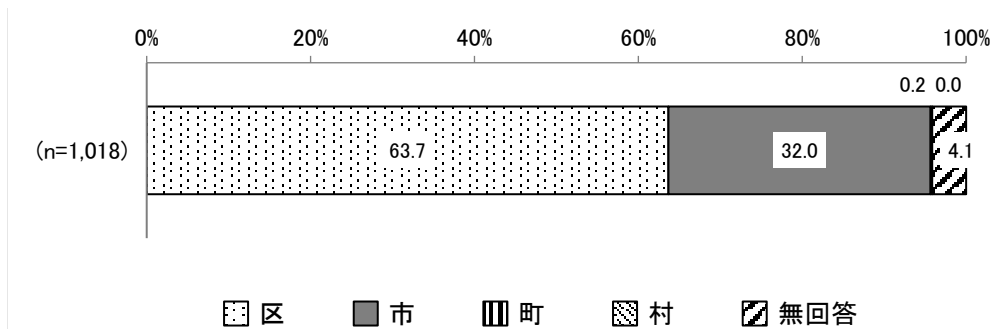
《問3》現在お住まいの都道府県、市区町村はどちらですか。(〇は1つ)

調査回答時点の居住地は「東京都内」が86.2%であり、「東京都外」は12.8%であった。

図表3 回答時点の居住地（東京都内・東京都外）



図表4 回答時点の居住地（東京都内における居住地）



### 3) 同居者の有無

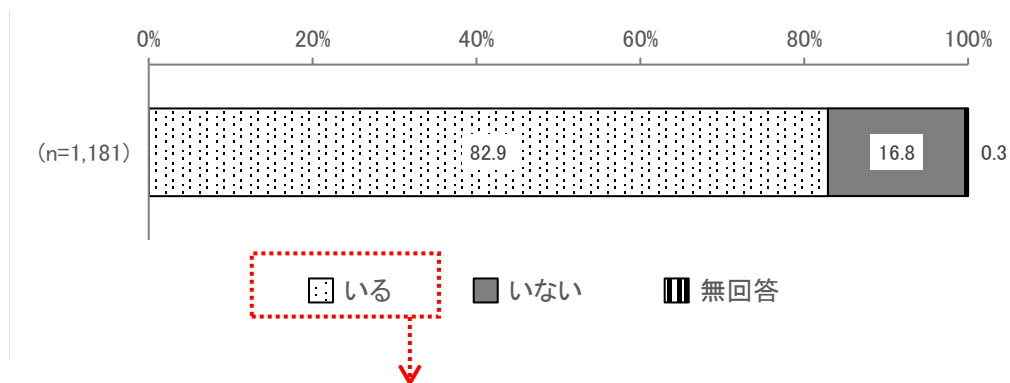
《問4》現在、同居されている方はいますか。(○は1つ)

同居されている方がいる場合は、どなたと同居しているか教えてください。

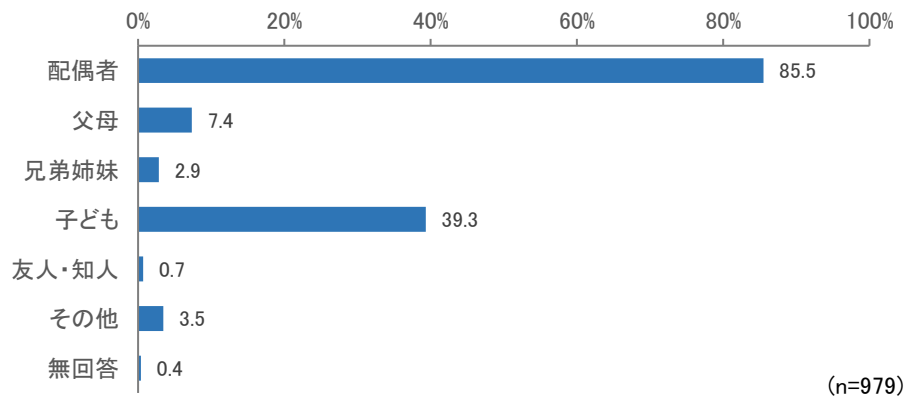
(○はいくつでも)

同居者が「いる」と回答した者が82.9%と大半を占めており、「いない」と回答した者は16.8%であった。

図表5 同居者の有無



図表6 同居者 (複数回答)

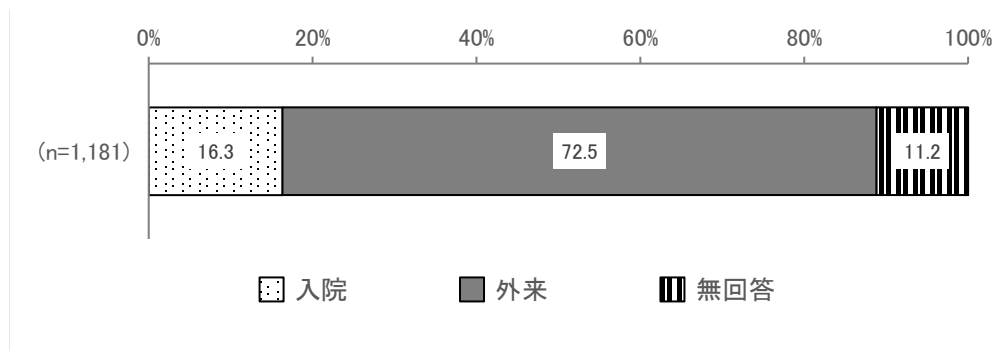


#### 4) 調査病院での入院・外来の別

《問5》現在、この調査票を受け取った病院（以下「本病院」と記します。）では、入院、外来のどちらで受診されていますか。（○は1つ）

調査票を受け取った病院（以下、「調査病院」という。）に「入院」で受診している者は16.3%であり、「外来」で受診している者は72.5%であった。

図表7 調査病院での入院・外来の別

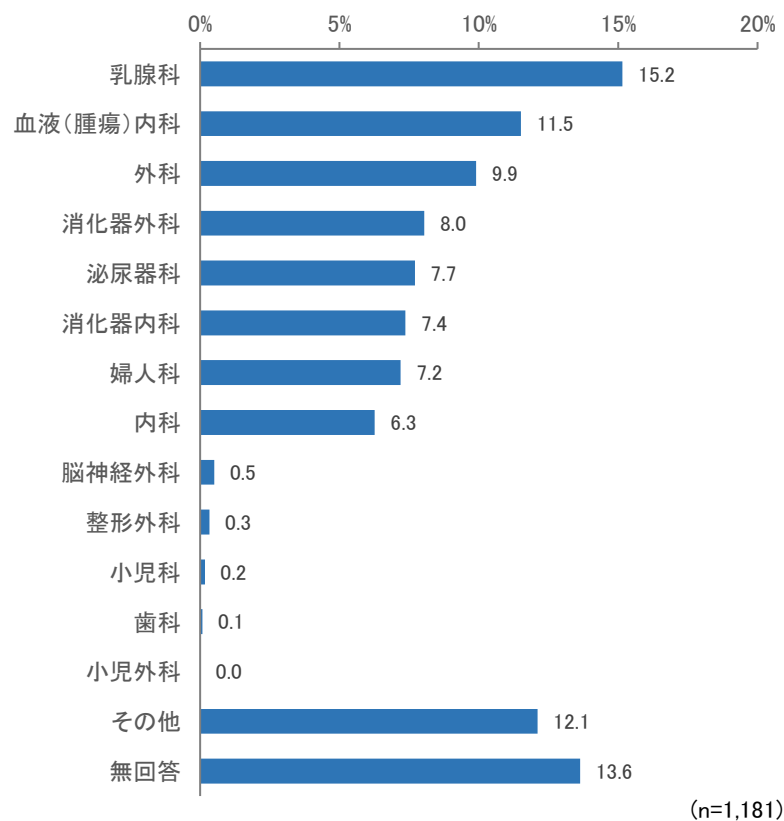


## 5) 主な受診診療科

《問6》主な受診診療科をお選びください。(○は1つ)

主な受診診療科は、「乳腺科」が最も多く15.2%、次いで「血液(腫瘍)内科」11.5%、「外科」9.9%であった。

図表8 主な受診診療科(複数回答)



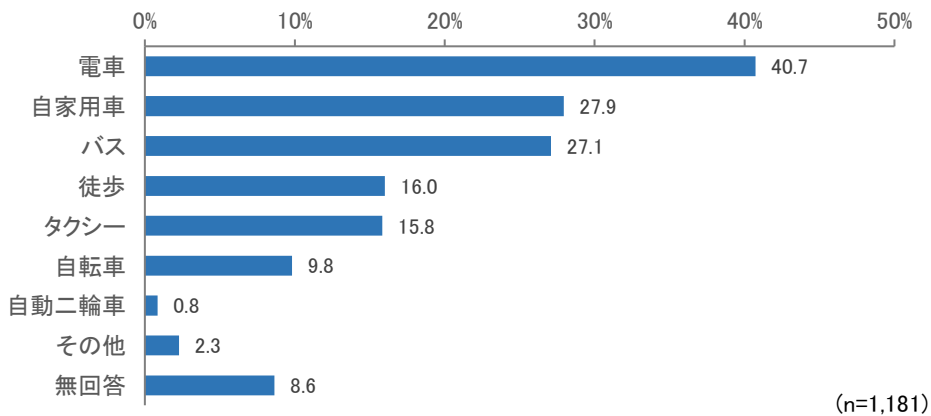
6) 自宅から調査病院までの交通手段・通院時間

- 《問7》(1) 問3でお答えいただいたご自宅から、本病院まで通院する場合の交通手段について、あてはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)  
 (2) また、おおよその通院に係る時間(片道)をご記入ください。現在、この調査票を受け取った病院(以下「本病院」と記します。)では、入院、外来のどちらで受診されていますか。(〇は1つ)

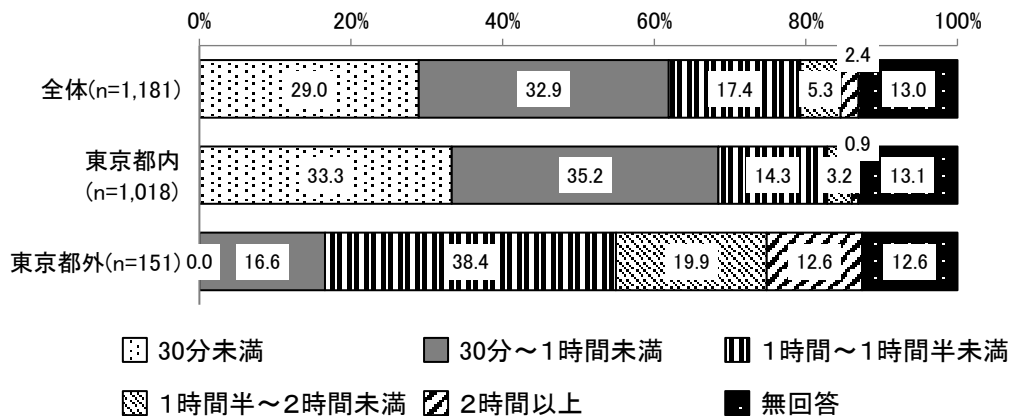
自宅から調査病院までの交通手段は「電車」が40.7%で最も多く、次いで「自家用車」27.9%、「バス」27.1%であった。

通院時間は片道平均41.4分であり、居住地が東京都内の場合は平均35.6分、東京都外の場合は平均80.9分であった。

図表9 自宅から調査病院までの交通手段(複数回答)



図表10 自宅から調査病院までの通院時間【居住地別】



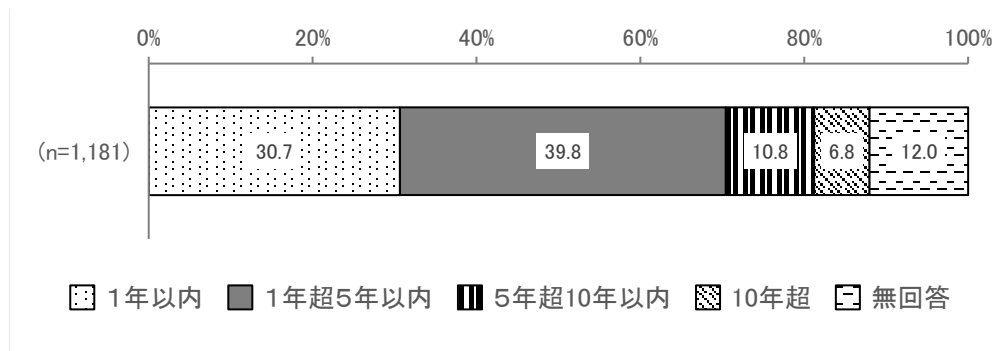


### 7) 調査病院の受診開始時期からの経過年数

《問8》本病院には、がんの検査や治療のために、いつ頃から受診されていますか。

調査病院の受診開始時期から2022年12月時点の経過年数をみると、「1年超5年以内」が39.8%で最も多く、次いで「1年以内」が30.7%と、調査病院の受診開始から5年以内の者が約7割を占めていた。

図表 11 調査病院の受診開始時期からの経過年数



## 2. がんに罹患した当初の状況について

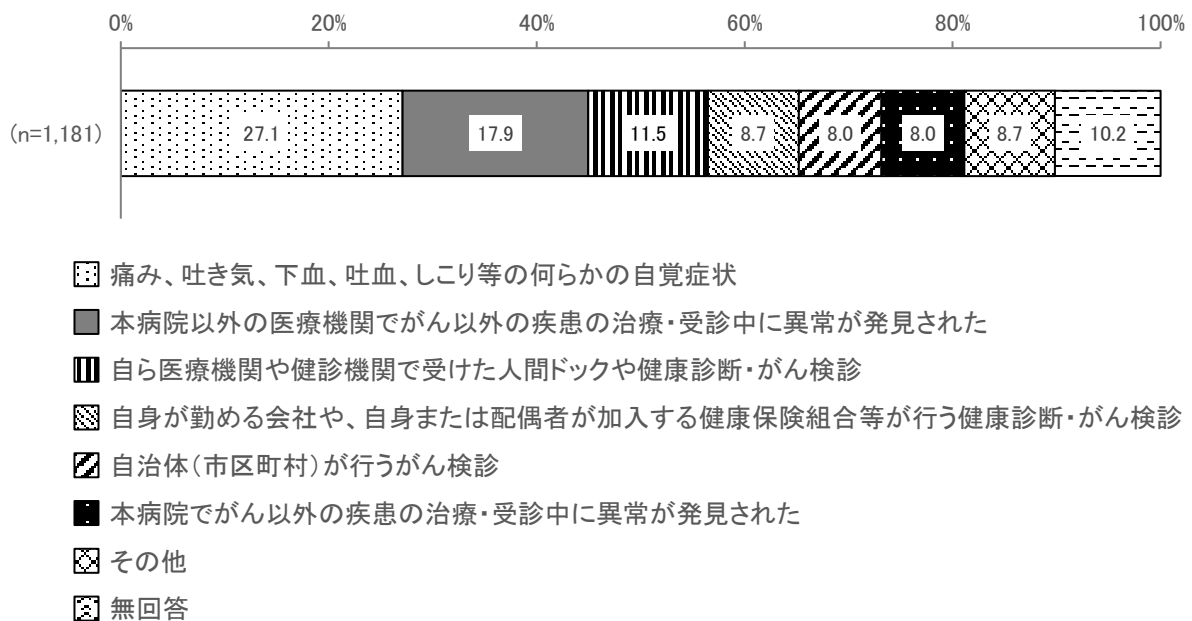
### 1) 最初に「がん」が見つかったきっかけ

《問9》現在、本病院で治療や経過観察を受けている「がん」について伺います。

最初に「がん」が見つかったきっかけは何でしたか。(○は1つ)

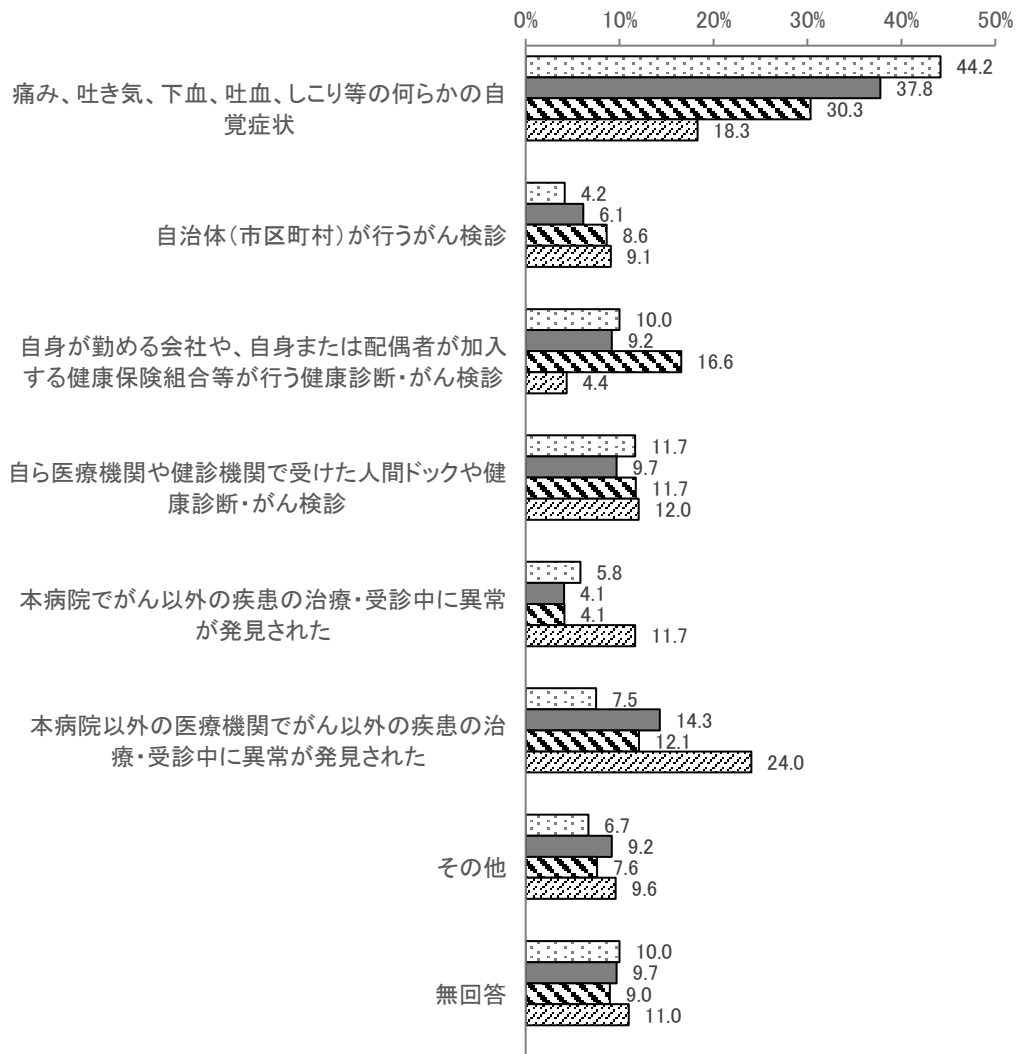
最初に「がん」が見つかったきっかけとしては「痛み、吐き気、下血、吐血、しこり等の何らかの自覚症状」が27.1%で最も多く、次いで「本病院以外の医療機関でがん以外の疾患の治療・受診中に異常が発見された」17.9%、「自ら医療機関や健診機関で受けた人間ドックや健康診断・がん検診」11.5%であった。

図表 12 最初に「がん」が見つかったきっかけ



年齢階級別にみると、40歳代以下では「痛み、吐き気、下血、吐血、しこり等の何らかの自覚症状」が44.2%で最も多く、年齢があがるにつれ、割合は低くなった。一方、「本病院（調査病院）でがん以外の疾患の治療・受診中に異常が発見された」割合及び「本病院以外の医療機関でがん以外の疾患の治療・受診中に異常が発見された」割合は、70歳代以上が他の年代より高い。

図表 13 最初に「がん」が見つかったきっかけ【年齢階級別】



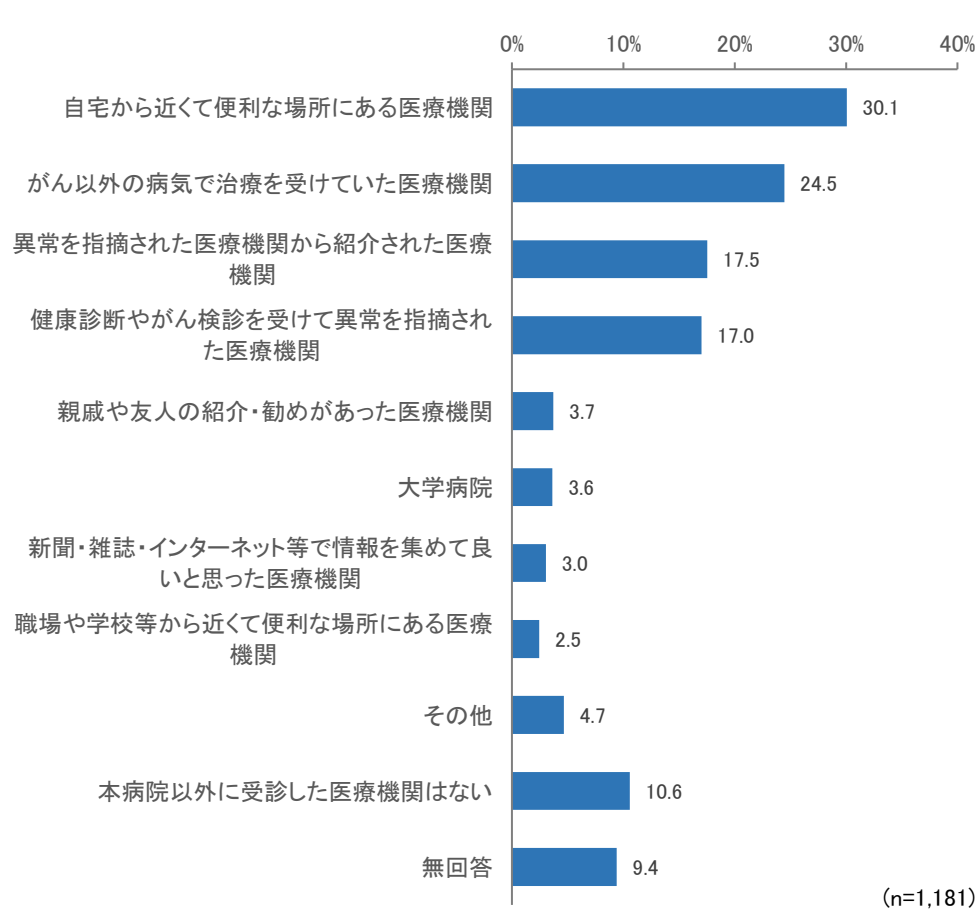
40歳代以下(n=120)
  50歳代(n=196)
  60歳代(n=290)
  70歳代以上(n=574)

## 2) 調査病院での治療に至る前に、受診した医療機関（複数回答）

《問10》本病院での治療に至る前に、受診された医療機関はどこですか。（〇はいくつでも）

調査病院での治療に至る前に、受診した医療機関は、「自宅から近くて便利な場所にある医療機関」が30.1%で最も多く、次いで「がん以外の病気で治療を受けていた医療機関」24.5%、「異常を指摘された医療機関から紹介された医療機関」17.5%であった。

図表 14 調査病院での治療に至る前に、受診された医療機関（複数回答）



### 「その他」の具体的内容

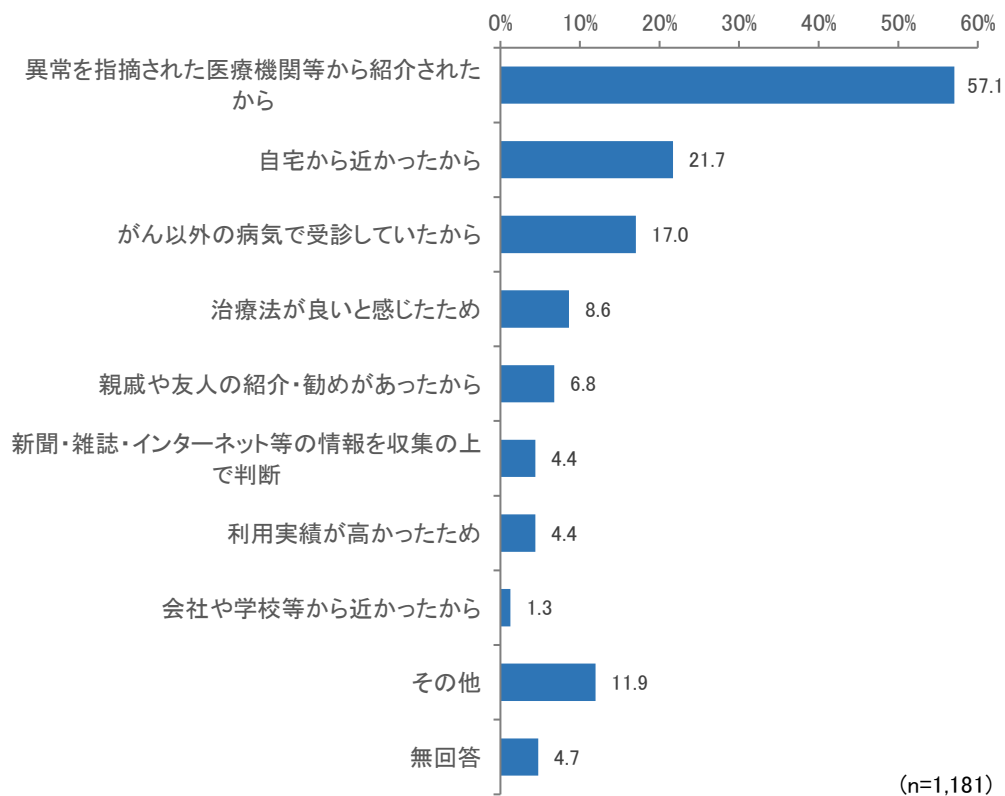
- 主治医が勤務していた病院
- 職場が病院
- 子どもを出産した婦人科
- 子供の自宅から近い 等

### 3) 最終的に調査病院を受診したきっかけ

《問11》最終的に本病院を受診したきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

最終的に調査病院を受診したきっかけとしては「異常を指摘された医療機関等から紹介されたから」が57.1%で最も多く、次いで「自宅から近かったから」21.7%、「がん以外の病気で受診していたから」17.0%であった。

図表 15 最終的に調査病院を受診したきっかけ（複数回答）

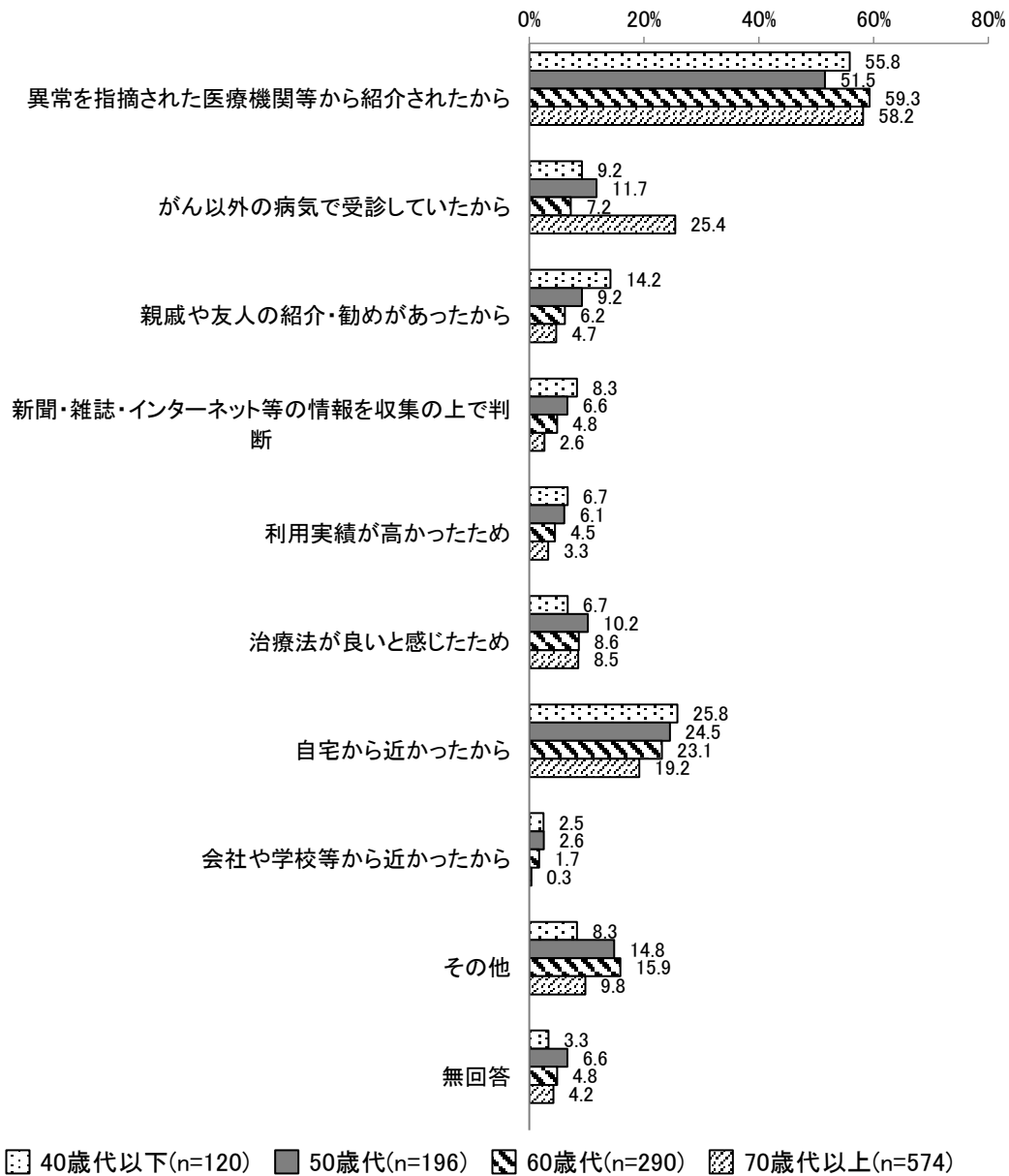


#### 「その他」の具体的内容

- 主治医のすすめ
- 夫が入院・通院している
- 勤務していた医療機関だったので
- 産業医の紹介 等

年齢階級別でみると、70歳代以上では「がん以外の病気で受診していたから」と回答する者の割合が他の年代より高い。一方で、年齢が低いほど「自宅から近かったから」と回答する者の割合が高い傾向が見られた。

図表 16 最終的に調査病院を受診したきっかけ（複数回答）【年齢階級別】



### 3. 調査病院での治療について

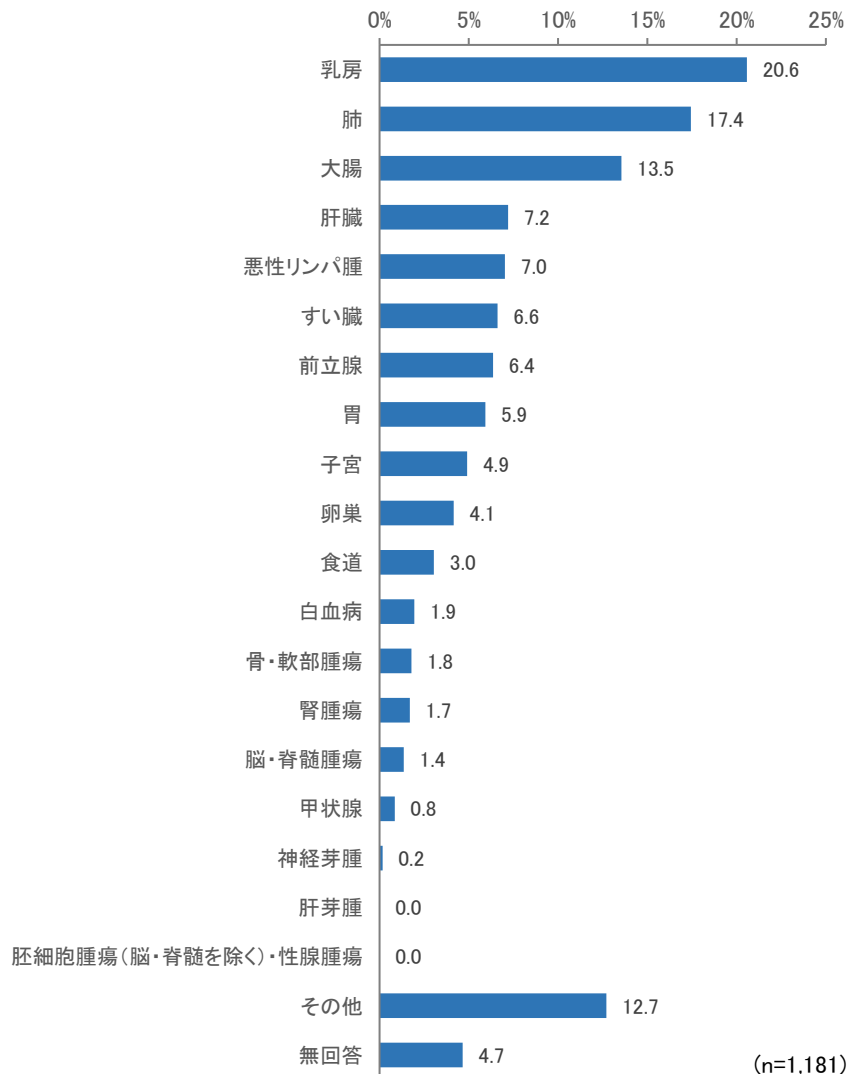
#### 1) 調査病院で治療を始めた「がん」の部位

《問12》問11で本病院の受診に至り、本病院で治療を始めた「がん」の部位・がんの種類はどれですか。(〇はいくつでも)

調査病院で治療を始めた「がん」の部位は、「乳房」が最も多く20.6%、次いで「肺」17.4%、「大腸」13.5%であった。

「その他」の内訳としては、虫垂がん、十二指腸がん、舌がん、皮膚がん、膀胱がん等が挙げられた。

図表 17 調査病院で治療を始めた「がん」の部位（複数回答）

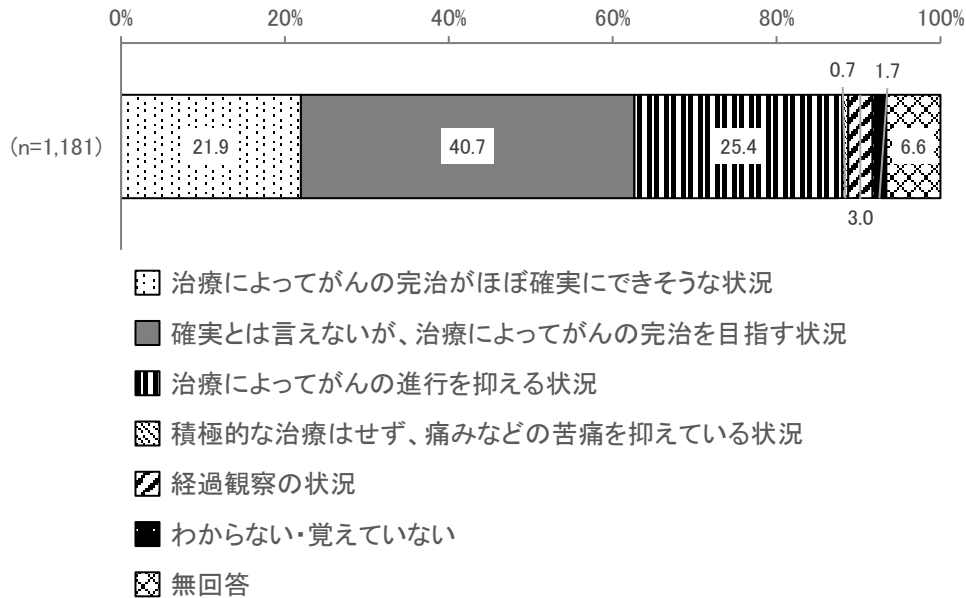


## 2) 調査病院で治療を開始した時の病状

《問13》本病院で治療を始めた「がん」について、治療を開始された時の病状はどのようなものでしたか。(〇は1つ)

調査病院で治療を始めた「がん」について、治療を開始した時の病状をみると、「確実とは言えないが、治療によってがんの完治を目指す状況」が40.7%で最も多く、次いで「治療によってがんの進行を抑える状況」25.4%、「治療によってがんの完治がほぼ確実にできそうな状況」21.9%であった。

図表 18 調査病院で治療を開始した時の病状





治療を開始した時の病状について、最初に「がん」が見つかったきっかけ別にみると、「治療によってがんの完治がほぼ確実にできそうな状況」では「自治体（市区町村）が行うがん検診」が最も高く 40.4%、次いで「自ら医療機関や健診機関で受けた人間ドックや健康診断・がん検診」で 25.0%、「自身が勤める会社や、自身または配偶者が加入する健康保険組合等が行う健康診断・がん検診」で 23.3%であった。

図表 19 調査病院で治療を開始した時の病状（複数回答）【最初に「がん」が見つかったきっかけ別】

	調査数	治療によってがんの完治がほぼ確実にできそうな状況	確実にとは言えないが、治療によってがんの完治を目指す状況	治療によってがんの進行を抑える状況	積極的な治療はせず、痛みなどの苦痛を抑えている状況	経過観察の状況	わからない・覚えていない	無回答	上段：調査数（件）
									下段：割合（%）
全体	1,181	259	481	300	8	35	20	78	
	100.0	21.9	40.7	25.4	0.7	3.0	1.7	6.6	
痛み、吐き気、下血、吐血、しこり等の何らかの自覚症状	320	55	144	85	5	6	8	17	
	100.0	17.2	45.0	26.6	1.6	1.9	2.5	5.3	
自治体（市区町村）が行うがん検診	94	38	38	11	0	3	0	4	
	100.0	40.4	40.4	11.7	0.0	3.2	0.0	4.3	
自身が勤める会社や、自身または配偶者が加入する健康保険組合等が行う健康診断・がん検診	103	24	48	22	0	2	2	5	
	100.0	23.3	46.6	21.4	0.0	1.9	1.9	4.9	
自ら医療機関や健診機関で受けた人間ドックや健康診断・がん検診	136	34	50	37	1	4	1	9	
	100.0	25.0	36.8	27.2	0.7	2.9	0.7	6.6	
本病院でがん以外の疾患の治療・受診中に異常が発見された	94	16	44	17	0	2	1	14	
	100.0	17.0	46.8	18.1	0.0	2.1	1.1	14.9	
本病院以外の医療機関でがん以外の疾患の治療・受診中に異常が発見された	211	46	73	66	2	7	2	15	
	100.0	21.8	34.6	31.3	0.9	3.3	0.9	7.1	
その他	103	23	42	23	0	6	5	4	
	100.0	22.3	40.8	22.3	0.0	5.8	4.9	3.9	

治療を開始した時の病状について、部位別にみると、部位によって傾向は様々であり、「治療によって完全にがんを取り除くことがほぼ確実にできそうな状況」は「胃」で最も高く34.3%、次いで「乳房」で34.2%、「子宮」で31.0%であった。また、「治療によってがんの進行を抑える状況」は「脳・脊髄腫瘍」で最も高く62.5%、次いで「神経芽腫」で50.0%、「肺」で44.2%であった。

図表 20 調査病院で治療を開始した時の病状：(複数回答)【部位別】

	調査数	上段：調査数 (件) 下段：割合 (%)						
		治療によってがんの完治がほぼ確実にできそうな状況	確実にとは言えないが、治療によってがんの完治を目指す状況	治療によってがんの進行を抑える状況	積極的な治療はせず、痛みなどの苦痛を抑えている状況	経過観察の状況	わからない・覚えていない	無回答
全体	1,181 100.0	259 21.9	481 40.7	300 25.4	8 0.7	35 3.0	20 1.7	78 6.6
肺	206 100.0	36 17.5	68 33.0	91 44.2	1 0.5	5 2.4	1 0.5	4 1.9
胃	70 100.0	24 34.3	27 38.6	13 18.6	1 1.4	2 2.9	2 2.9	1 1.4
肝臓	85 100.0	18 21.2	33 38.8	27 31.8	1 1.2	3 3.5	1 1.2	2 2.4
大腸	160 100.0	31 19.4	70 43.8	51 31.9	2 1.3	0 0.0	2 1.3	4 2.5
乳房	243 100.0	83 34.2	113 46.5	32 13.2	0 0.0	5 2.1	4 1.6	6 2.5
すい臓	78 100.0	7 9.0	32 41.0	34 43.6	0 0.0	3 3.8	1 1.3	1 1.3
食道	36 100.0	9 25.0	15 41.7	7 19.4	1 2.8	2 5.6	1 2.8	1 2.8
子宮	58 100.0	18 31.0	29 50.0	3 5.2	1 1.7	3 5.2	2 3.4	2 3.4
卵巣	49 100.0	8 16.3	25 51.0	11 22.4	0 0.0	3 6.1	2 4.1	0 0.0
前立腺	75 100.0	15 20.0	28 37.3	25 33.3	0 0.0	1 1.3	2 2.7	4 5.3
白血病	23 100.0	2 8.7	9 39.1	6 26.1	0 0.0	2 8.7	2 8.7	2 8.7
悪性リンパ腫	83 100.0	16 19.3	38 45.8	18 21.7	0 0.0	6 7.2	3 3.6	2 2.4
脳・脊髄腫瘍	16 100.0	1 6.3	5 31.3	10 62.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
神経芽腫	2 100.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
肝芽腫	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
腎腫瘍	20 100.0	3 15.0	8 40.0	6 30.0	0 0.0	1 5.0	0 0.0	2 10.0
胚細胞腫瘍(脳・脊髄を除く)・性腺腫瘍	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
骨・軟部腫瘍	21 100.0	2 9.5	8 38.1	8 38.1	1 4.8	1 4.8	1 4.8	0 0.0
甲状腺	10 100.0	2 20.0	6 60.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0
その他	150 100.0	25 16.7	55 36.7	57 38.0	2 1.3	6 4.0	2 1.3	3 2.0

治療を開始した時の病状について、最初に「がん」が見つかったきっかけが「痛み、吐き気、下血、吐血、しこり等の何らかの自覚症状」であった320件に限定して部位別にみると、部位によって傾向は様々であり、「治療によってがんの完治がほぼ確実にできそうな状況」は「胃」で最も高く37.5%、次いで「悪性リンパ腫」で28.6%、「子宮」で26.9%であった。また、「治療によってがんの進行を抑える状況」は「前立腺」で最も高く75.0%、次いで「腎腫瘍」で66.7%、「すい臓」で57.1%であった。

図表 21 調査病院で治療を開始した時の病状（複数回答）

【最初に「がん」が見つかったきっかけが「痛み、吐き気、下血、吐血、しこり等の何らかの自覚症状」であった者・部位別】

上段：調査数（件）  
下段：割合（%）

	調査数	治療によってがんの完治がほぼ確実にできそうな状況	確実にとは言えないが、治療によってがんの完治を目指す状況	治療によってがんの進行を抑える状況	積極的な治療はせず、痛みなどの苦痛を抑えている状況	経過観察の状況	わからない・覚えていない	無回答
全体	320 100.0	55 17.2	144 45.0	85 26.6	5 1.6	6 1.9	8 2.5	17 5.3
肺	32 100.0	1 3.1	12 37.5	18 56.3	1 3.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
胃	16 100.0	6 37.5	6 37.5	2 12.5	0 0.0	1 6.3	1 6.3	0 0.0
肝臓	16 100.0	1 6.3	10 62.5	4 25.0	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
大腸	44 100.0	4 9.1	22 50.0	16 36.4	2 4.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
乳房	105 100.0	24 22.9	55 52.4	20 19.0	0 0.0	3 2.9	1 1.0	2 1.9
すい臓	14 100.0	0 0.0	5 35.7	8 57.1	0 0.0	1 7.1	0 0.0	0 0.0
食道	7 100.0	0 0.0	2 28.6	3 42.9	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0
子宮	26 100.0	7 26.9	16 61.5	0 0.0	1 3.8	1 3.8	1 3.8	0 0.0
卵巣	15 100.0	2 13.3	8 53.3	2 13.3	0 0.0	2 13.3	1 6.7	0 0.0
前立腺	4 100.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0
白血病	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
悪性リンパ腫	21 100.0	6 28.6	8 38.1	6 28.6	0 0.0	0 0.0	1 4.8	0 0.0
脳・脊髄腫瘍	7 100.0	0 0.0	4 57.1	3 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
神経芽腫	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
肝芽腫	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
腎腫瘍	3 100.0	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
胚細胞腫瘍(脳・脊髄を除く)・性腺腫瘍	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
骨・軟部腫瘍	10 100.0	1 10.0	4 40.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0
甲状腺	3 100.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
その他	47 100.0	8 17.0	20 42.6	16 34.0	0 0.0	0 0.0	2 4.3	1 2.1

治療を開始した時の病状について、最初に「がん」が見つかったきっかけが「自治体（市区町村）が行うがん検診」又は「自身が勤める会社や、自身または配偶者が加入する健康保険組合等が行う健康診断・がん検診」、「自ら医療機関や健診機関で受けた人間ドックや健康診断・がん検診」であった333件に限定して部位別にみると、部位によって傾向は様々であり、「治療によって完全にがんを取り除くことがほぼ確実にできそうな状況」は「乳房」で最も高く47.6%、次いで「食道」で46.2%、「胃」で41.7%であった。

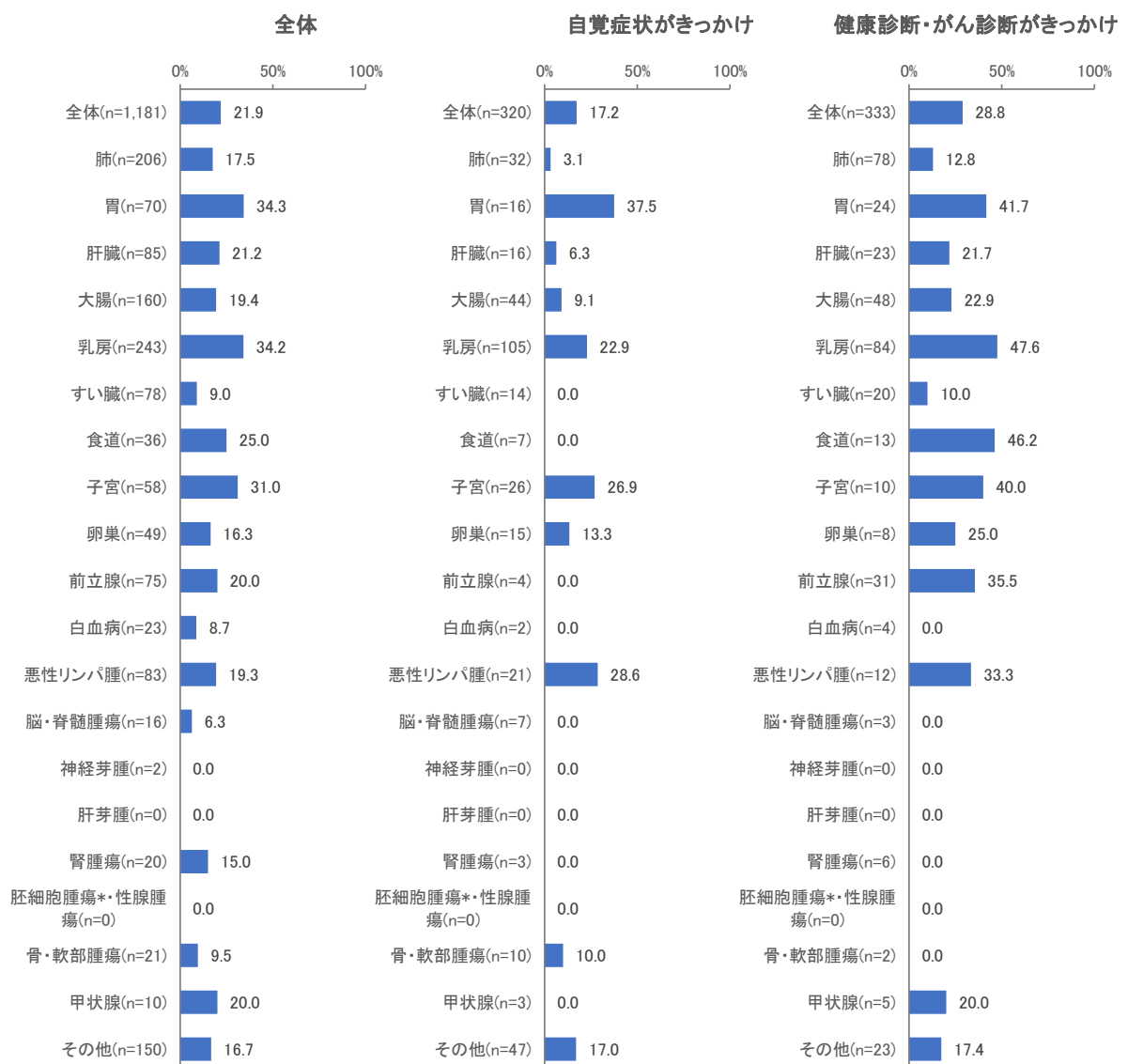
図表 22 調査病院で治療を開始した時の病状（複数回答）

【最初に「がん」が見つかったきっかけが健康診断やがん検診であった者・部位別】

	調査数	治療によってがんの完治がほぼ確実にできそうな状況	確実とは言えないが、治療によってがんの完治を目指す状況	治療によってがんの進行を抑える状況	積極的な治療はせず、痛みなどの苦痛を抑えている状況	経過観察の状況	わからない・覚えていない	無回答	上段：調査数（件）
									下段：割合（%）
全体	333	96	136	70	1	9	3	18	
	100.0	28.8	40.8	21.0	0.3	2.7	0.9	5.4	
肺	78	10	32	32	0	2	0	2	
	100.0	12.8	41.0	41.0	0.0	2.6	0.0	2.6	
胃	24	10	10	3	0	0	0	1	
	100.0	41.7	41.7	12.5	0.0	0.0	0.0	4.2	
肝臓	23	5	10	8	0	0	0	0	
	100.0	21.7	43.5	34.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
大腸	48	11	24	11	0	0	0	2	
	100.0	22.9	50.0	22.9	0.0	0.0	0.0	4.2	
乳房	84	40	33	7	0	1	1	2	
	100.0	47.6	39.3	8.3	0.0	1.2	1.2	2.4	
すい臓	20	2	5	11	0	0	1	1	
	100.0	10.0	25.0	55.0	0.0	0.0	5.0	5.0	
食道	13	6	6	0	0	0	0	1	
	100.0	46.2	46.2	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	
子宮	10	4	5	0	0	0	1	0	
	100.0	40.0	50.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	
卵巣	8	2	3	2	0	1	0	0	
	100.0	25.0	37.5	25.0	0.0	12.5	0.0	0.0	
前立腺	31	11	12	5	0	1	1	1	
	100.0	35.5	38.7	16.1	0.0	3.2	3.2	3.2	
白血病	4	0	3	0	0	1	0	0	
	100.0	0.0	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	
悪性リンパ腫	12	4	3	3	0	2	0	0	
	100.0	33.3	25.0	25.0	0.0	16.7	0.0	0.0	
脳・脊髄腫瘍	3	0	1	2	0	0	0	0	
	100.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
神経芽腫	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
肝芽腫	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
腎腫瘍	6	0	2	2	0	1	0	1	
	100.0	0.0	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0	16.7	
胚細胞腫瘍(脳・脊髄を除く)・性腺腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
骨・軟部腫瘍	2	0	1	1	0	0	0	0	
	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
甲状腺	5	1	4	0	0	0	0	0	
	100.0	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他	23	4	8	7	1	3	0	0	
	100.0	17.4	34.8	30.4	4.3	13.0	0.0	0.0	

治療を開始した時の病状について、最初に「がん」が見つかったきっかけが「痛み、吐き気、下血、吐血、しこり等の何らかの自覚症状」（以下、「自覚症状」という。）であった場合と、「自治体（市区町村）が行うがん検診」又は「自身が勤める会社や、自身または配偶者が加入する健康保険組合等が行う健康診断・がん検診」、「自ら医療機関や健診機関で受けた人間ドックや健康診断・がん検診」（以下、「健康診断・がん検診等」という。）であった場合とで比較してみると、「骨・軟部腫瘍」を除くすべての部位で、「健康診断・がん検診等」のほうが「自覚症状」の場合よりも「治療によって完全にがんを取り除くことがほぼ確実にできそうな状況」である者の割合が高かった。

**図表 23 調査病院で治療を開始した時の病状が「治療によって完全にがんを取り除くことがほぼ確実にできそうな状況」であった者の割合（複数回答）**  
**【部位別・がんが見つかったきっかけ別】（再掲）**

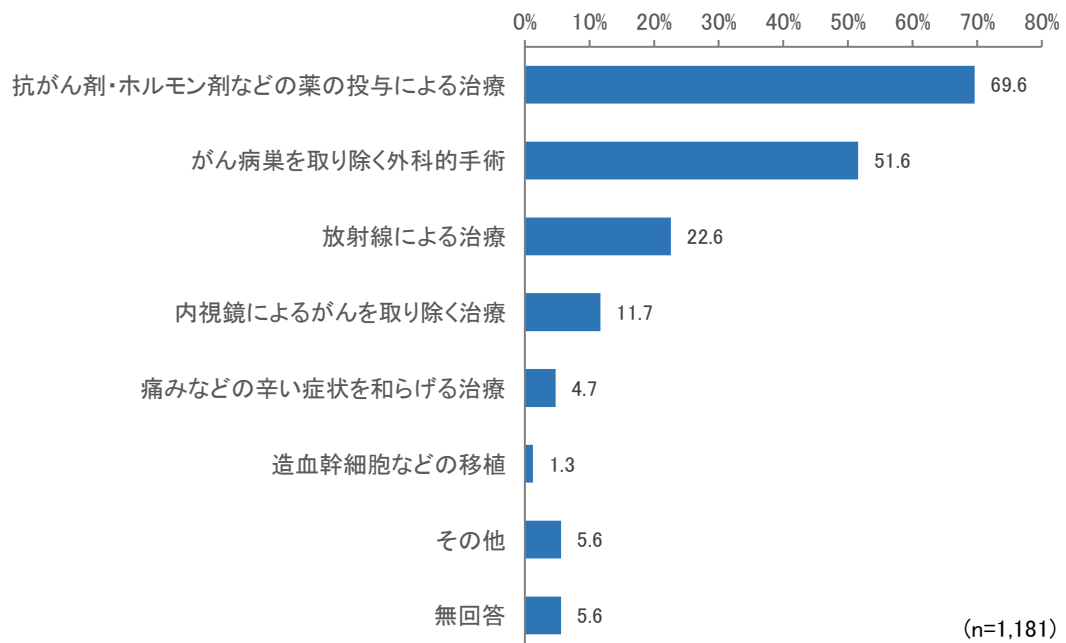


### 3) 調査病院で受けた治療の種類

《問14》本病院でこれまでどのような治療を受けられましたか。(〇はいくつでも)

調査病院で受けた治療としては「抗がん剤・ホルモン剤などの薬の投与による治療」が69.6%で最も多く、次いで「がん病巣を取り除く外科的手術」51.6%、「放射線による治療」22.6%であった。

図表 24 調査病院で受けた治療の種類（複数回答）

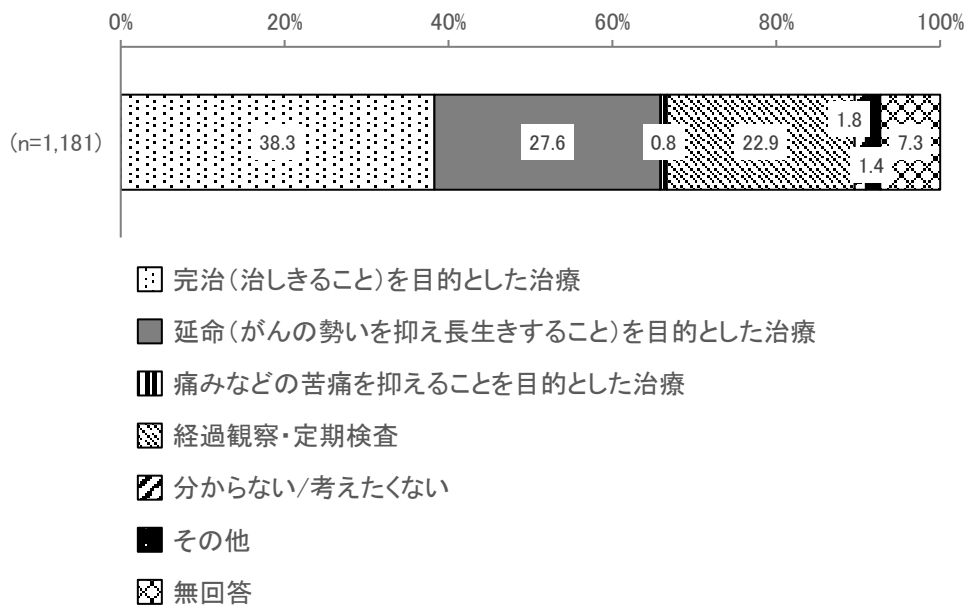


#### 4) 現在の治療状況

《問15》今現在の治療状況を教えてください。(○は1つ)

現在の治療状況としては「完治（治しきることを目的とした治療）」が38.3%で最も多く、次いで「延命（がんの勢いを抑え長生きすることを目的とした治療）」27.6%、「経過観察・定期検査」22.9%であった。

図表 25 現在の治療状況



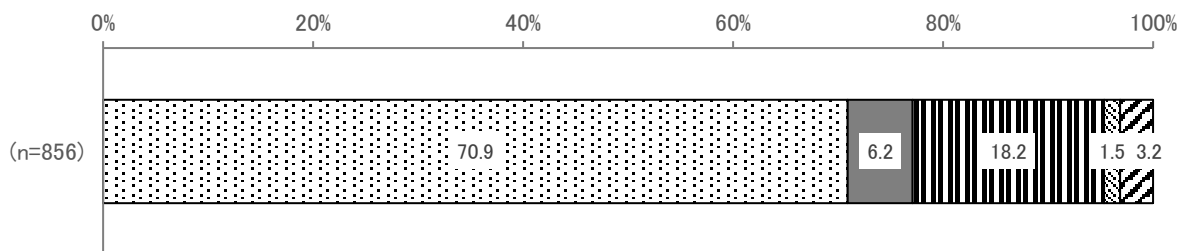
### 5) 他の医療機関でのがん治療や健康管理の状況

《問16》本病院の外来を受診されている方に伺います。

現在、本病院に定期的に通院しながら、本病院以外の医療機関で、がんの治療や日頃の健康管理などを受けていますか。(○は1つ)

調査病院の外来を受診している 856 人に、調査病院以外の医療機関でのがん治療や健康管理などを受けているかどうか尋ねたところ、「受けていない」が 70.9%で最も多く、次いで「本病院に定期的に通院し、専門的な検査や治療を受けながら、日頃の健康管理はかかりつけ医で受けている」18.2%であり、「本病院に定期的に通院し、経過観察を受けながら、一部の治療を他の医療機関で受けている」と回答した者は 6.2%であった。

図表 26 他の医療機関でのがん治療や健康管理の状況



☐ 受けていない(本病院での治療のみ)

■ 本病院に定期的に通院し、経過観察を受けながら、一部の治療を他の医療機関で受けている

▨ 本病院に定期的に通院し、専門的な検査や治療を受けながら、日頃の健康管理はかかりつけ医で受けている

▩ その他

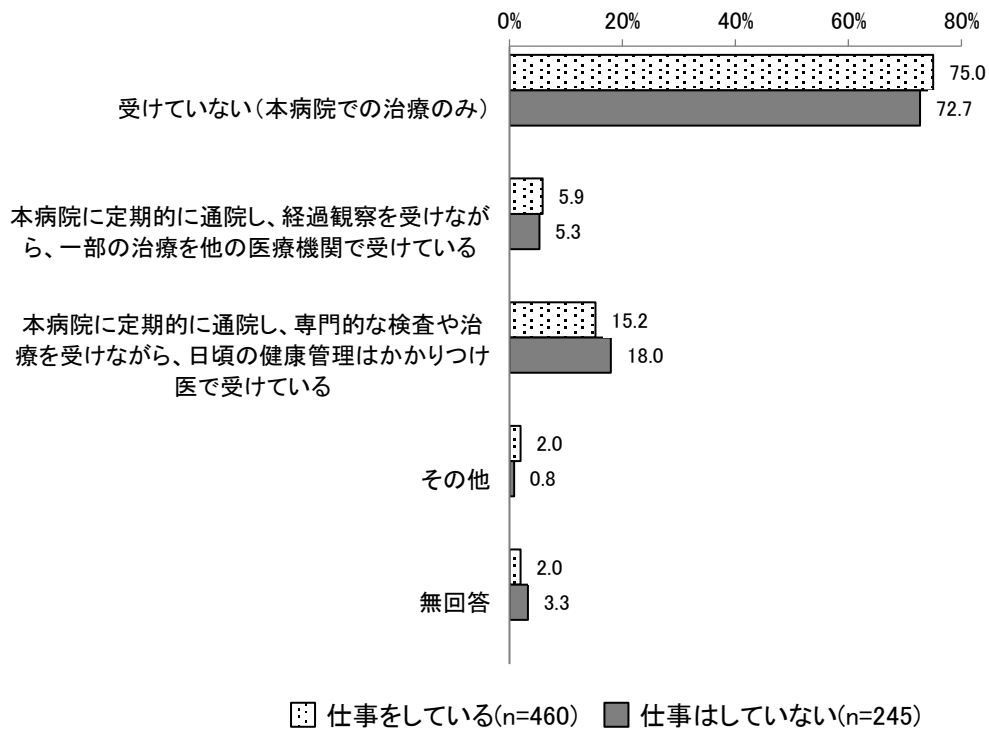
▧ 無回答

→ 図表 29 へ



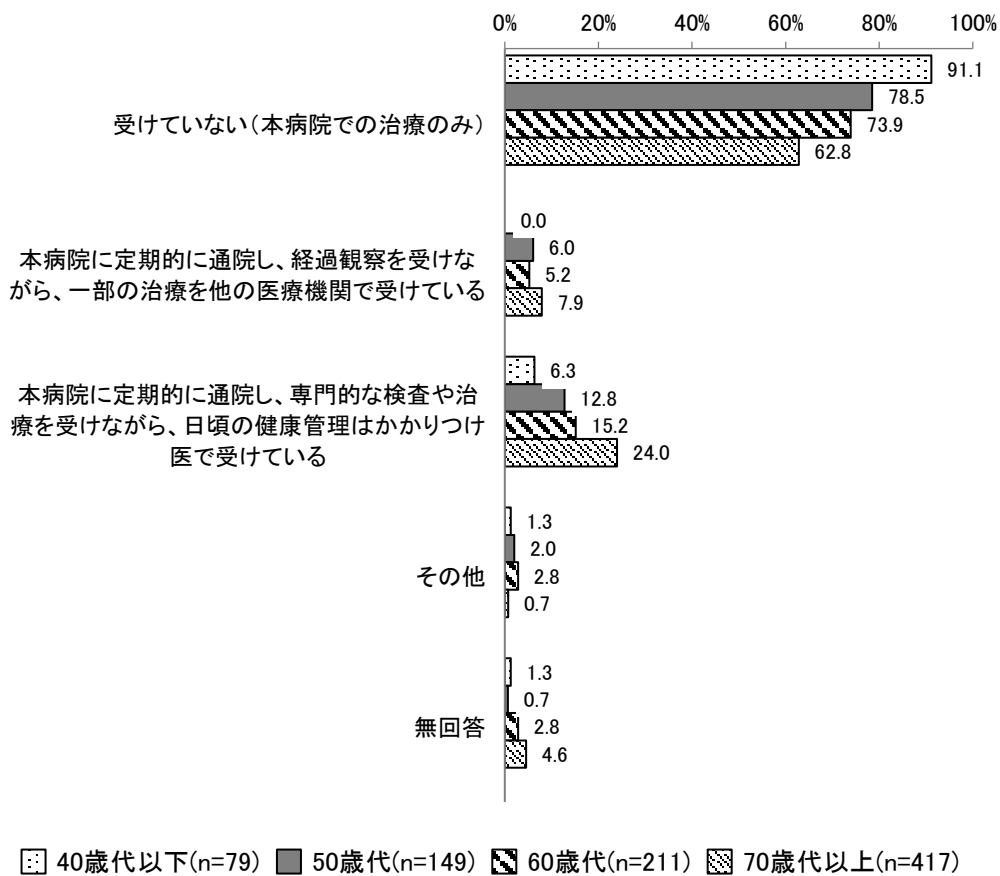
がん診断時の就労状況別にみると、「受けていない（本病院での治療のみ）」がともに7割を超えて最も多かった。

図表 27 他の医療機関でのがん治療や健康管理の状況【がん診断時の就労状況別】



年齢階級別にみると、年齢が高いほど「受けていない（本病院での治療のみ）」と回答する者の割合は低い傾向があり、70歳代以上では2割以上が「本病院に定期的に通院し、専門的な検査や治療を受けながら、日頃の健康管理はかかりつけ医で受けている」と回答した。

図表 28 他の医療機関でのがん治療や健康管理の状況【年齢階級別】



### 6) 他の医療機関での治療の状況

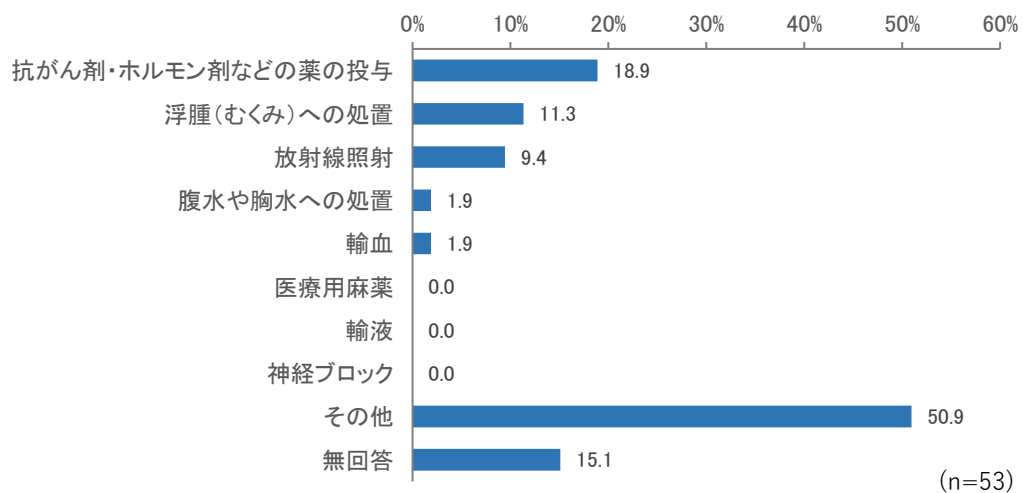
《問17》問16で「2. 本病院に定期的に通院し、経過観察を受けながら、一部の治療を他の医療機関で受けている」と回答された方に伺います。

(1) 他の医療機関では、どのような治療・処置を受けていますか。(〇はいくつでも)

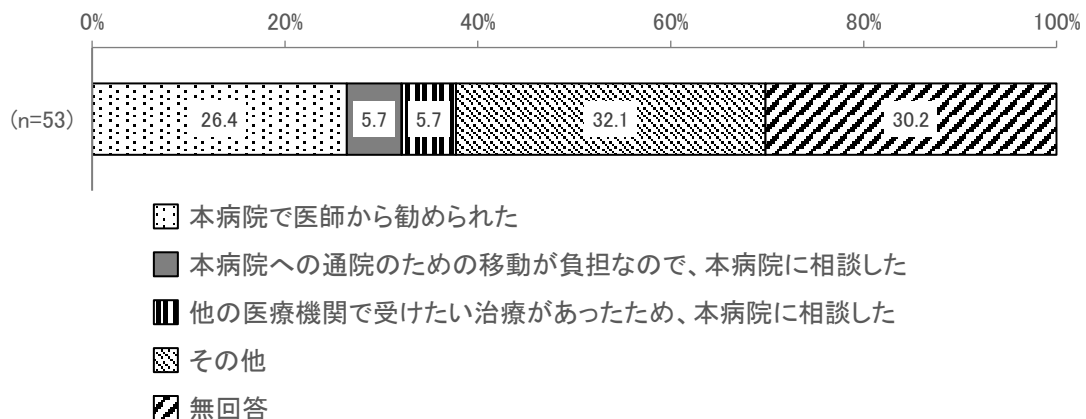
(2) また、他の医療機関での治療を始めた理由は何ですか。(〇は1つ)

「本病院に定期的に通院し、経過観察を受けながら、一部の治療を他の医療機関で受けている」と回答した53人に、他の医療機関での治療の状況について尋ねたところ、「抗がん剤・ホルモン剤などの薬の投与」が18.9%で最も多く、次いで「浮腫(むくみ)への処置」11.3%であった。

図表 29 他の医療機関での治療内容 (複数回答)



図表 30 他の医療機関での治療を始めた理由



「その他」の具体的な内容

- 重粒子照射、降圧剤、抗不動態剤の内服治療 等

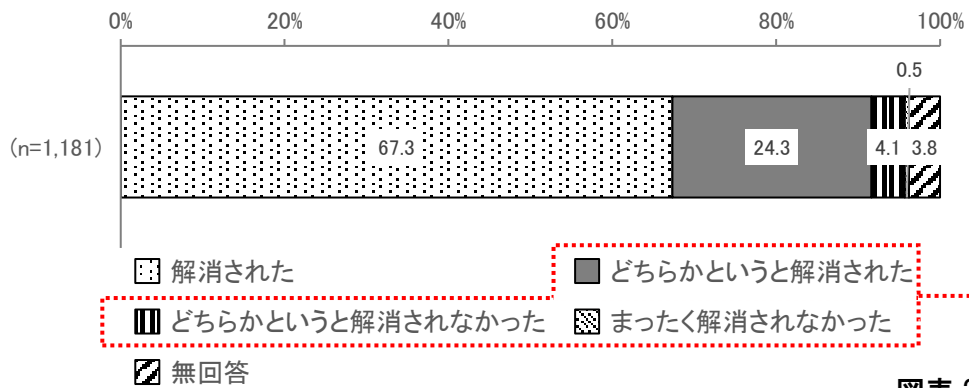
## 4. 治療方針について

### 1) 主治医等からの説明により、疑問や不安は解消されたか

《問18》主治医等からの説明により、治療内容に対する疑問や不安は解消されましたか。(○は1つ)

治療内容を決定する際、主治医等からの説明により疑問や不安が解消されたかどうかについて尋ねたところ、「解消された」が67.3%で最も多く、「どちらかというと解消された」24.3%と合わせて9割以上の者が疑問や不安が解消されたと回答した。

図表 31 主治医等からの説明による疑問や不安の解消状況



図表 32 へ

## 2) 疑問や不安が解消されなかったと思った理由

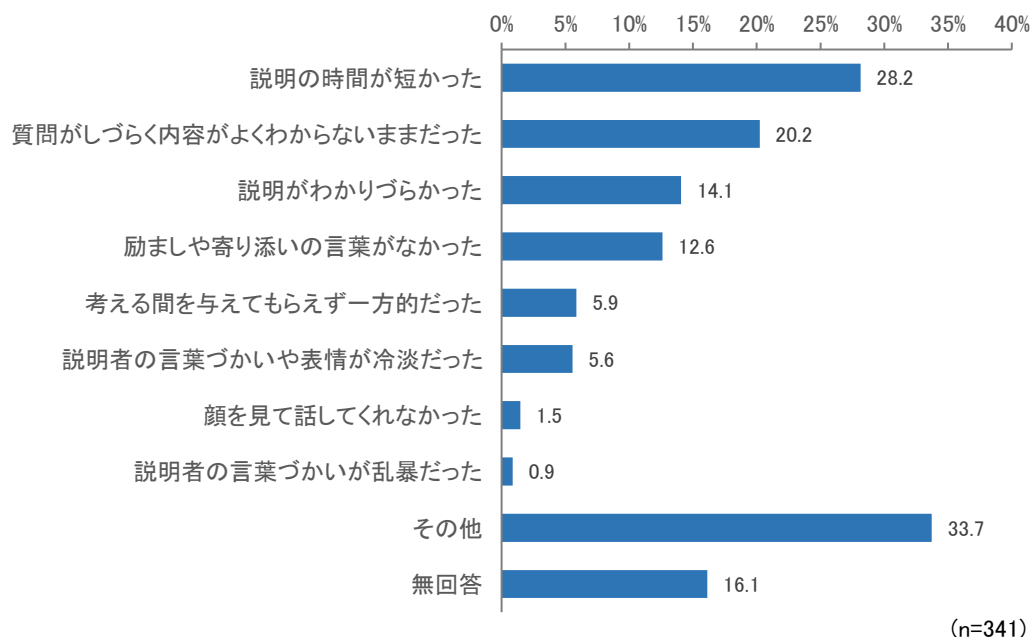
《問19》問18で「1. 解消された」以外を選ばれた方に伺います。

疑問や不安が解消されなかったと思った理由は何ですか。(〇はいくつでも)

治療内容を決定する際、主治医等からの説明により疑問や不安が「どちらかというと解消された」「どちらかというと解消されなかった」または「まったく解消されなかった」と回答した341人に、その理由を尋ねたところ、「説明の時間が短かった」が28.2%で最も多く、次いで「質問がしづらく内容がよくわからないままだった」20.2%、「説明がわかりづらかった」14.1%であった。

なお、選択肢の中では「その他」が最も多く、その内訳としては、「完全に不安は解消されない」が大半であった。

図表 32 疑問や不安が解消されなかったと思った理由（複数回答）



### 「その他」の具体的内容

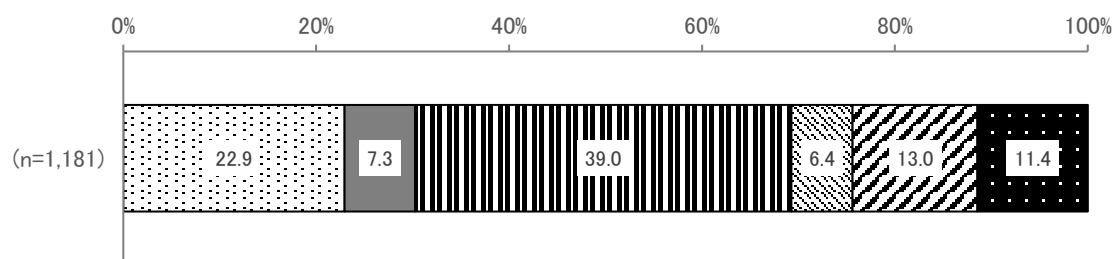
- 自分が精神的に受け入れられる状態ではなかった
- 自分の中の不安があったから
- 病状を自分で分っているから
- 説明は受けたが心の準備が出来ず不安であった
- 専門用語が不明 等

### 3) 調査病院医師からのセカンドオピニオンの取得に関する説明の有無

《問20》セカンドオピニオンについて本病院の医師からはどのように説明されましたか。(○は1つ)

調査病院医師からのセカンドオピニオン<sup>1</sup>に関する説明については、「セカンドオピニオンについては説明されなかった」が39.0%で最も多く、次いで「セカンドオピニオンを受けるとい選択肢について医師から提示があった」22.9%であった。

図表 33 調査病院医師からのセカンドオピニオンの取得に関する説明の有無



- ☐ セカンドオピニオンを受けるとい選択肢について医師から提示があった
- セカンドオピニオンを受けるとい選択肢について、医師から提示はなかったが、尋ねたら説明された
- ▨ セカンドオピニオンについては説明されなかった
- ▩ その他
- ▧ わからない・覚えていない
- 無回答

#### 「その他」の具体的内容

- セカンドオピニオンを求めて調査病院を訪れた
- セカンドオピニオンを受けると自分から言った 等

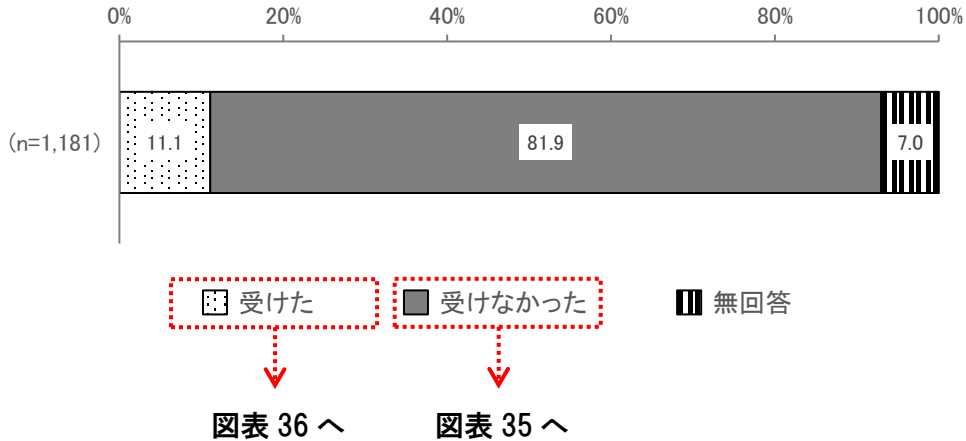
<sup>1</sup> セカンドオピニオンとは、診断や治療方針などについて、他の病院の医師の意見を求めるため診断を受けることを指す。

#### 4) セカンドオピニオンの取得の有無

《問21》セカンドオピニオンを受けましたか。(○は1つ)

セカンドオピニオンについて、「受けなかった」と回答した者は81.9%であり、「受けた」と回答した者は11.1%であった。

図表 34 セカンドオピニオンの取得の有無

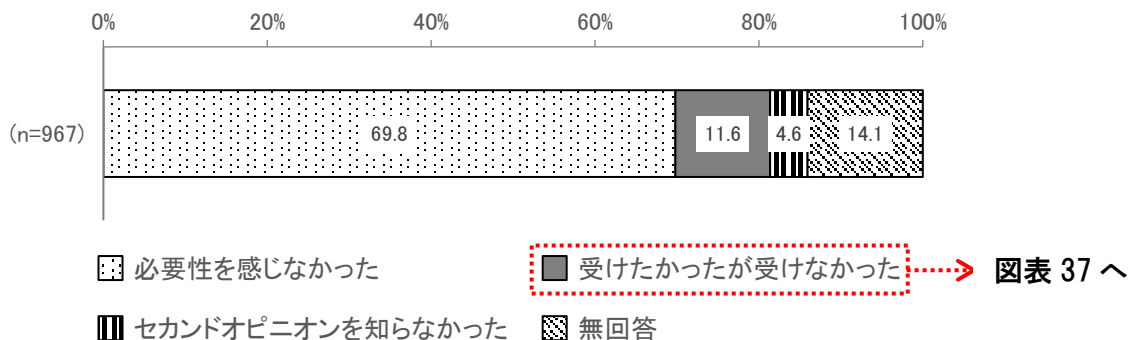


#### 5) セカンドオピニオンを受けなかった理由

《問21》セカンドオピニオンを受けなかった理由。(○は1つ)

セカンドオピニオンを「受けなかった」と回答した967人に、セカンドオピニオンを受けなかった理由について尋ねたところ、「必要性を感じなかった」が69.8%で最も多く、次いで「受けたかったが受けなかった」11.6%、「セカンドオピニオンを知らなかった」4.6%であった。

図表 35 セカンドオピニオンを受けなかった理由



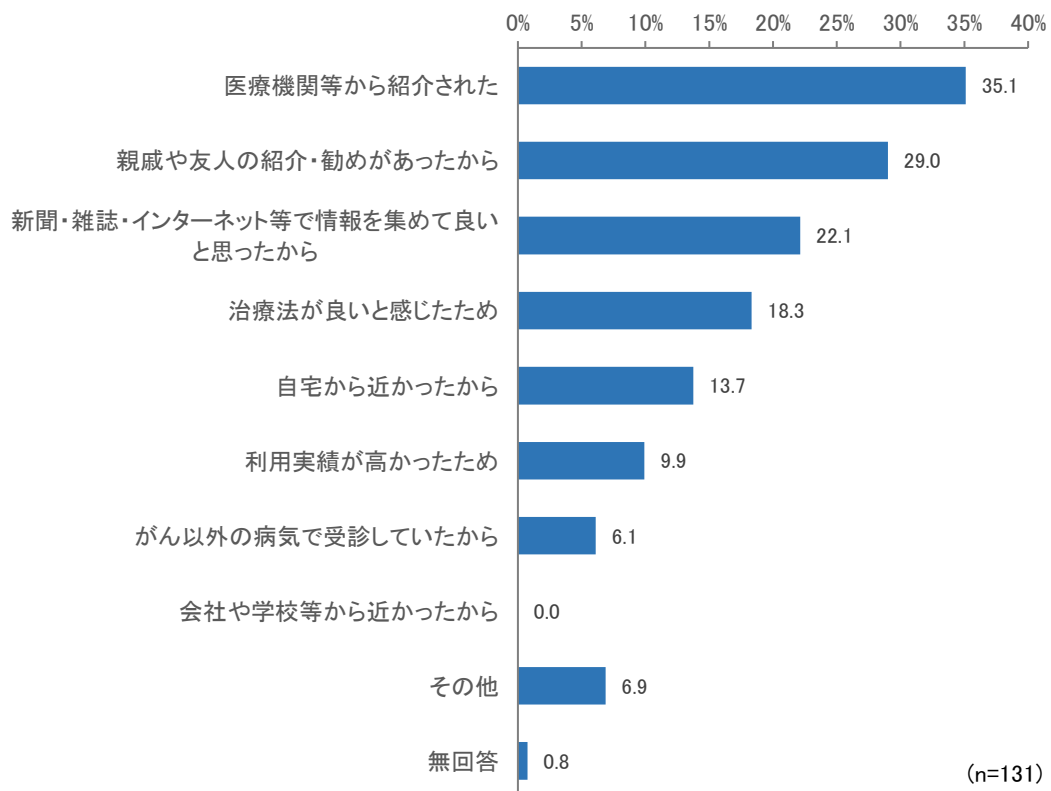
## 6) セカンドオピニオン先の選定

《問22》問21で「1. 受けた」と回答された方に伺います。

セカンドオピニオン先はどのように選定しましたか。(〇はいくつでも)

セカンドオピニオンを「受けた」と回答した131人に、セカンドオピニオン先の選定について尋ねたところ、「医療機関等から紹介された」が35.1%で最も多く、次いで「親戚や友人の紹介・勧めがあったから」29.0%であり、「新聞・雑誌・インターネット等で情報を集めて良いと思ったから」と回答した者は22.1%であった。

図表 36 セカンドオピニオン先の選定（複数回答）





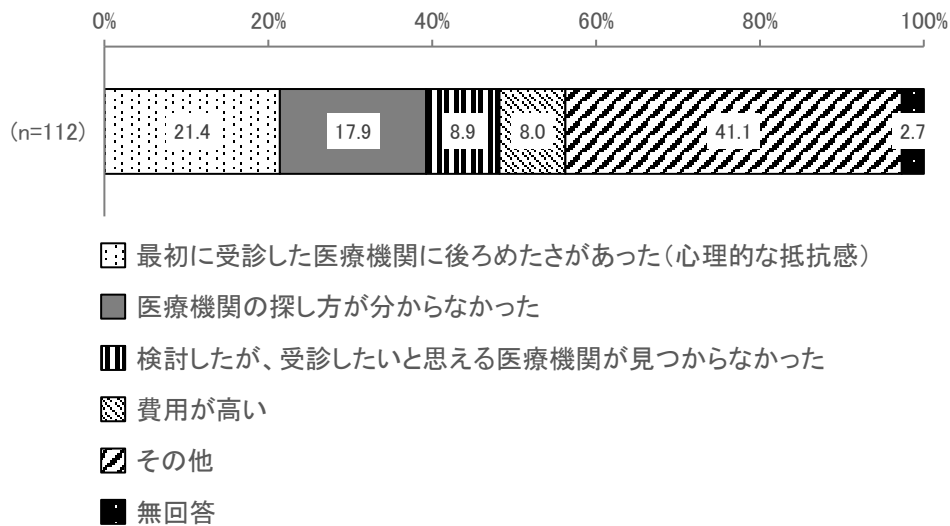
## 7) セカンドオピニオンを受けなかった理由

《問23》問21で「2. (2) 受けたかったが受けなかった」と回答された方に伺います。

セカンドオピニオンを受けなかった理由を教えてください。(〇は1つ)

セカンドオピニオンを「受けたかったが受けなかった」と回答した112人に、理由について尋ねたところ、「最初に受診した医療機関に後ろめたさがあった(心理的な抵抗感)」が21.4%で最も多く、次いで「医療機関の探し方が分からなかった」17.9%であった。

図表 37 セカンドオピニオンを受けなかった理由



### 「その他」の具体的内容

- 時間がなかった
- 電車に乗って行く体力がなかった
- 手術までの期間を優先した 等

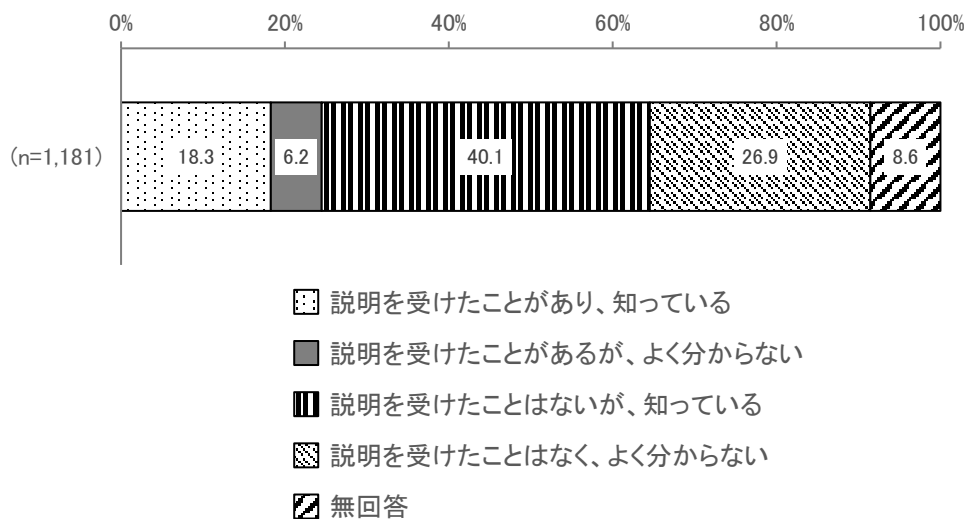
## 5. 緩和ケアについて

### 1) 緩和ケアの内容や範囲についての説明

《問24》緩和ケアの内容や範囲について説明を受けたことはありますか、知っていますか。(○は1つ)

緩和ケアの内容や範囲についての説明について尋ねたところ、「説明を受けたことはないが、知っている」が40.1%で最も多く、次いで「説明を受けたことはなく、よく分からない」26.9%であり、「説明を受けたことがあり、知っている」と回答した者は18.3%であった。

図表 38 緩和ケアの内容や範囲についての説明



## 2) 「がんの緩和ケア」のイメージ

《問25》「がんの緩和ケア」と聞いて、どのようなイメージをお持ちですか。

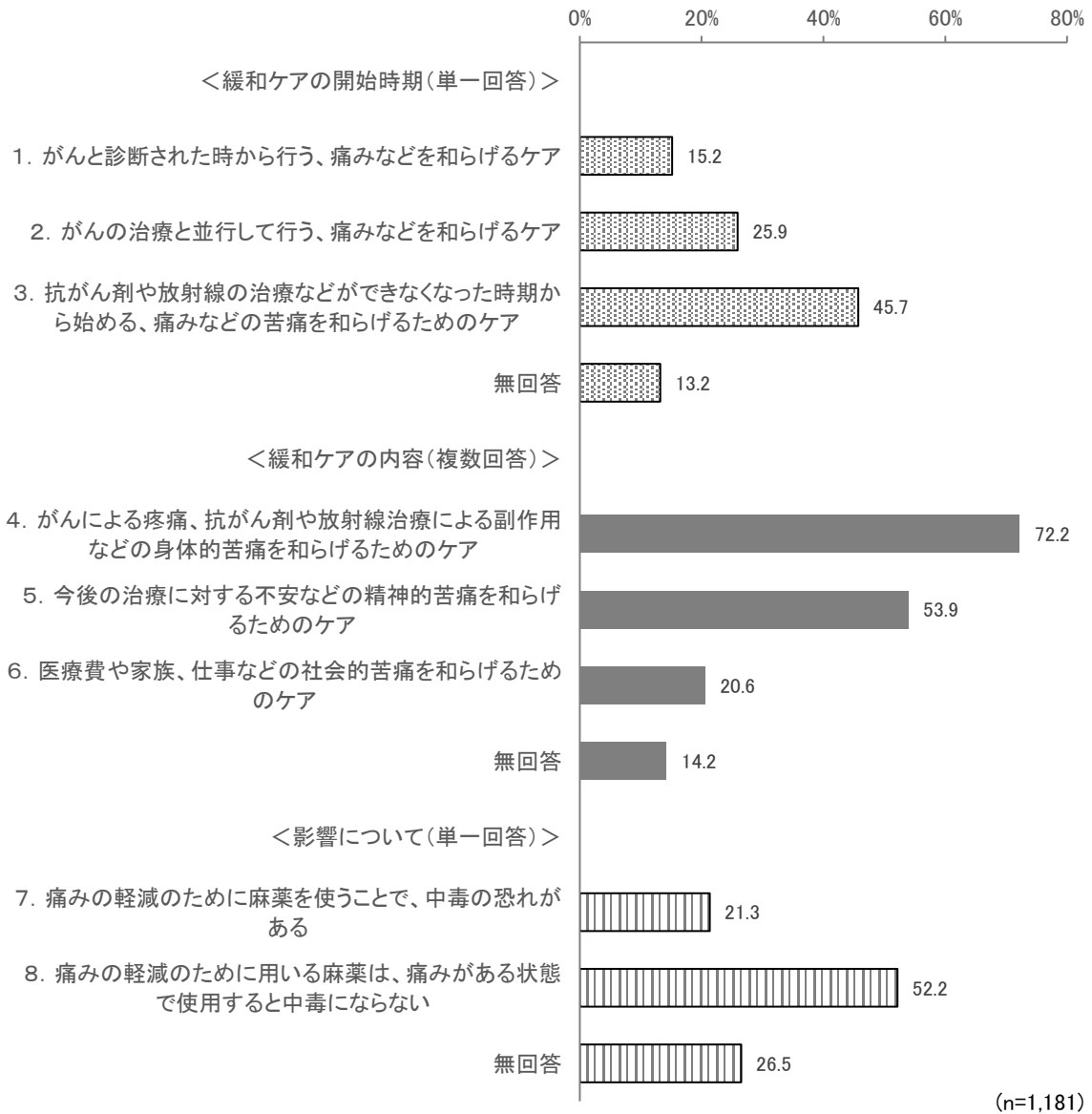
1～3からあてはまる選択肢を1つ、4～6からあてはまる選択肢を複数、7～8からあてはまる選択肢を1つ選んでください。

「がんの緩和ケア」の開始時期のイメージとしては、「抗がん剤や放射線の治療などができなくなった時期から始める、痛みなどの苦痛を和らげるためのケア」が45.7%で最も多く、次いで「がんの治療と並行して行う、痛みなどを和らげるケア」25.9%、「がんと診断された時から行う、痛みなどを和らげるケア」15.2%であった。

緩和ケアの内容としては、「がんによる疼痛、抗がん剤や放射線治療による副作用などの身体的苦痛を和らげるためのケア」が72.2%で最も多く、次いで「今後の治療に対する不安などの精神的苦痛を和らげるためのケア」53.9%、「医療費や家族、仕事などの社会的苦痛を和らげるためのケア」20.6%であった。

緩和ケアの影響については、「痛みの軽減のために用いる麻薬は、痛みがある状態で使用すると中毒にならない」が52.2%で最も多く、次いで「痛みの軽減のために麻薬を使うことで、中毒の恐れがある」21.3%であった。

図表 39 「がんの緩和ケア」のイメージ

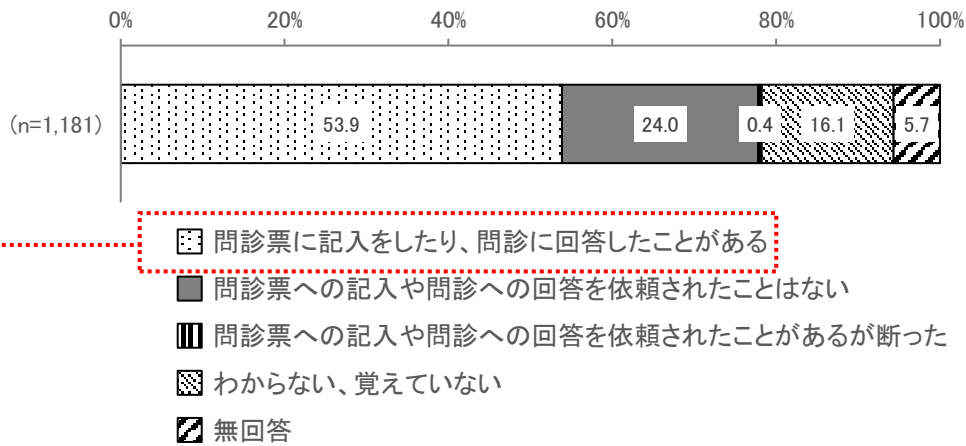


### 3) 調査病院において身体的な痛みや精神的な辛さなどを把握するための問診を受けた経験の有無

《問26》あなたは、本病院での入院または外来の際に、あなたの身体的な痛みや精神的な辛さなどの状態を把握するための問診票に記入をしたり、問診に回答したことがありますか。(〇は1つ)

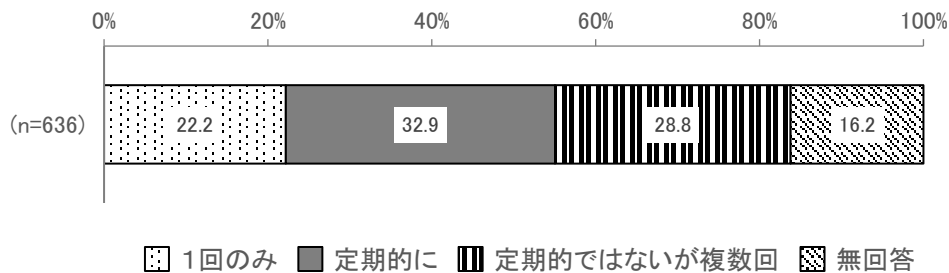
身体的な痛みや精神的な辛さなどを把握するための問診については、「問診票に記入をしたり、問診に回答したことがある」が53.9%で最も多かったが、「問診票への記入や問診への回答を依頼されたことはない」と回答した者も24.0%と一定程度存在した。

図表 40 身体的な痛みや精神的な辛さなどに関する問診を受けた経験の有無



身体的な痛みや精神的な辛さなどを把握するための問診について「問診票に記入をしたり、問診に回答したことがある」と回答した636人に、問診頻度を尋ねたところ、「定期的に」が32.9%で最も多く、次いで「定期的ではないが複数回」28.8%、「1回のみ」22.2%であった。

図表 41 身体的な痛みや精神的な辛さなどに関する問診頻度



図表 42 へ

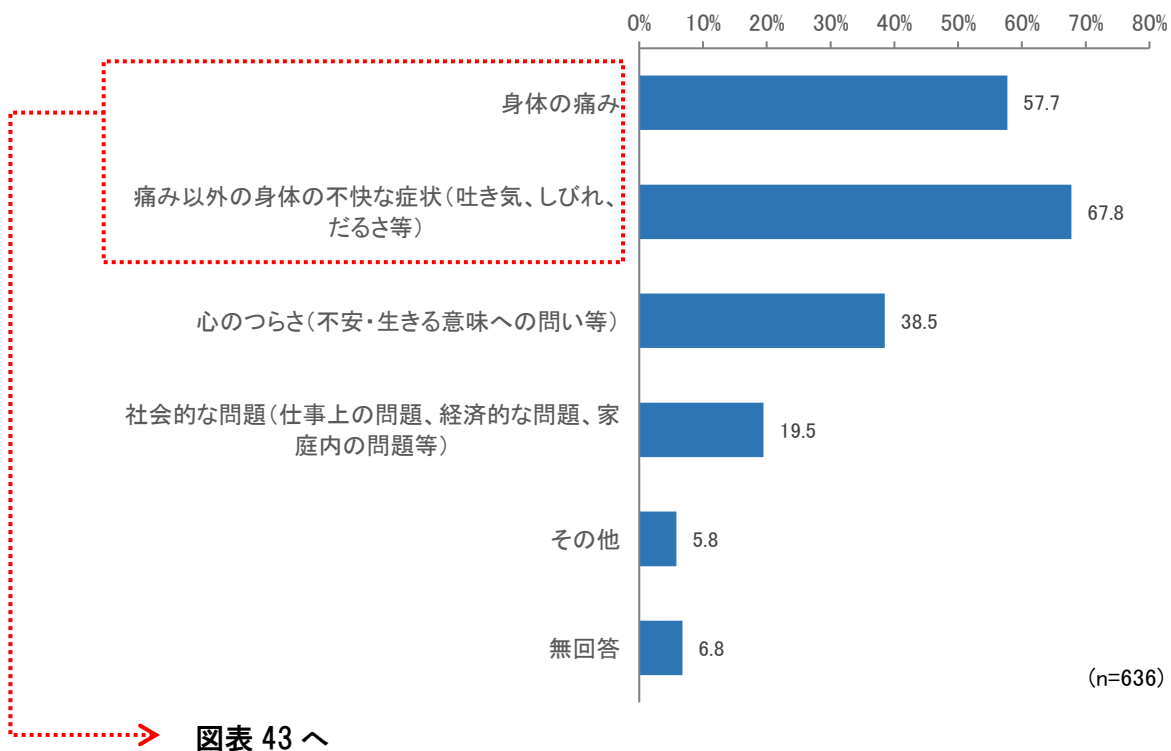
#### 4) 問診内容

《問27》問26で「1. 問診票に記入をしたり、問診に回答したことがある」と回答された方に伺います。

問診内容について教えてください。(〇はいくつでも)

身体的な痛みや精神的な辛さなどを把握するための問診について「問診票に記入をしたり、問診に回答したことがある」と回答した636人に、問診内容を尋ねたところ、「痛み以外の身体の不快な症状(吐き気、しびれ、だるさ等)」が67.8%で最も多く、次いで「身体の痛み」57.7%、「心のつらさ(不安・生きる意味への問い等)」38.5%であった。

図表 42 問診内容 (複数回答)



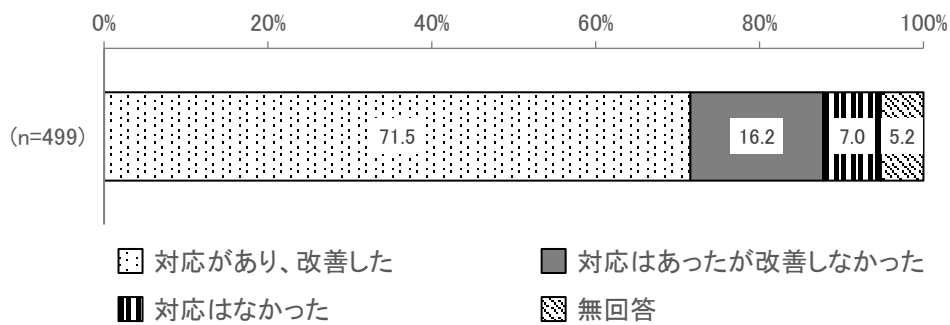
### 5) 身体の痛みや不快な症状の対応や改善

《問28》問27で「1. 身体の痛み」「2. 痛み以外の身体の不快な症状」と回答した方に伺います。

医療従事者に伝えた後、対応や改善はみられましたか。(○は1つ)

「身体の痛み」「痛み以外の身体の不快な症状」についての問診に回答した499人に、医療従事者に伝えた後、対応や改善は見られたかを尋ねたところ「対応があり、改善した」と回答した者は71.5%と最も多かった。一方で、「対応はなかった」と回答した者が7.0%と、一定数存在した。

図表 43 身体の痛みや不快な症状の対応や改善



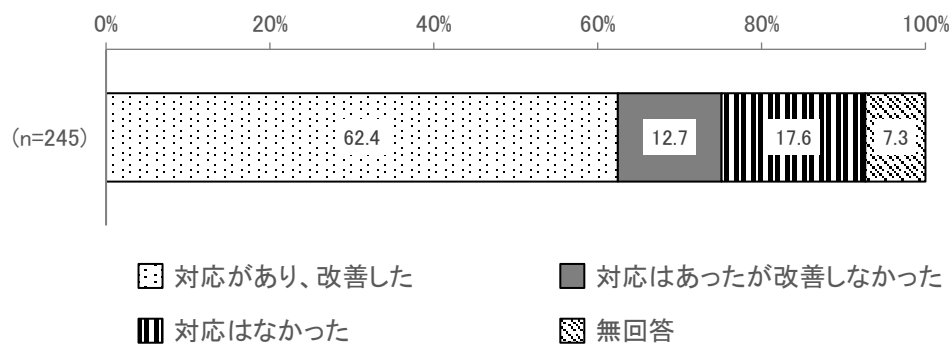
## 6) 心のつらさの対応や改善

《問29》問27で「3. 心のつらさ」と回答した方に伺います。

医療従事者に伝えた後、対応や改善はみられましたか。(○は1つ)

「心のつらさ」についての問診に回答した245人に、医療従事者に伝えた後、対応や改善は見られたかを尋ねたところ「対応があり、改善した」と回答した者は62.4%と最も多かった。一方で、「対応はなかった」と回答した者が17.6%と、一定数存在した。

図表 44 心のつらさの対応や改善





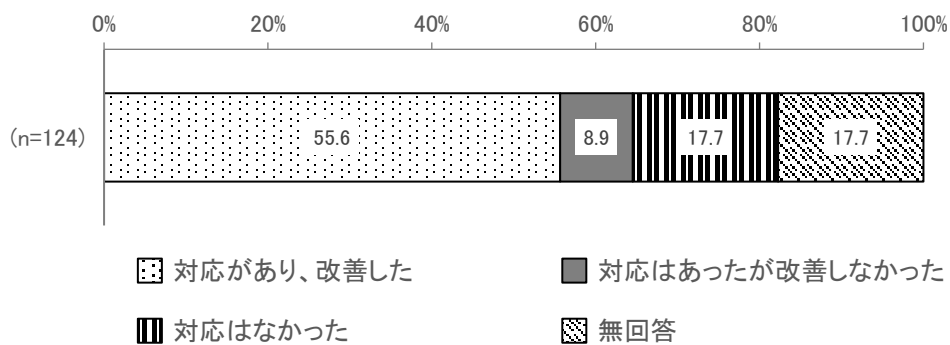
## 7) 社会的な問題の対応や改善

《問30》問27で「4. 社会的な問題」と回答した方に伺います。

医療従事者に伝えた後、対応や改善はみられましたか。(○は1つ)

「社会的な問題」についての問診に回答した124人に、医療従事者に伝えた後、対応や改善は見られたかを尋ねたところ「対応があり、改善した」と回答した者は55.6%と最も多かった。一方で、「対応はなかった」と回答した者が17.7%と、一定数存在した。

図表 45 社会的な問題の対応や改善



## 8) 今、日常生活をがんにかかる前と同じように過ごすことができているか

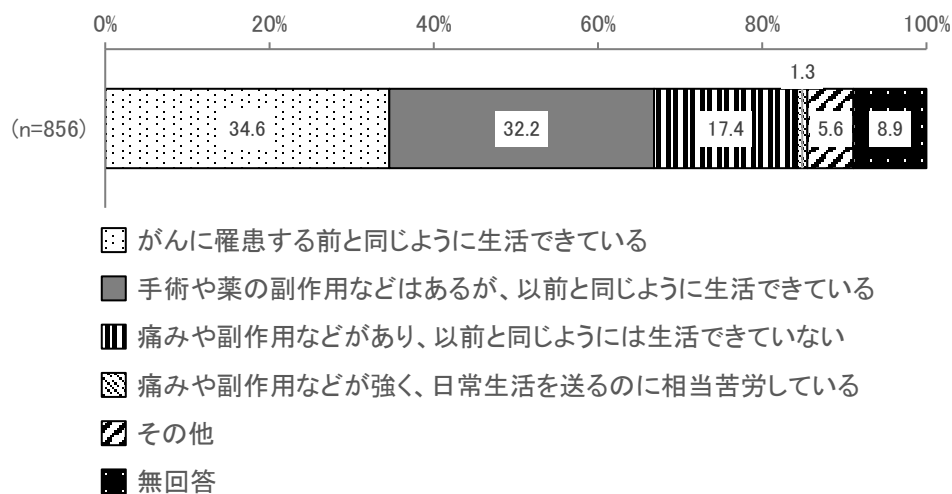
《問31》本病院の外来を受診されている方に伺います。

あなたは今、日常生活をがんにかかると同じように過ごすことができますか。(○は1つ)

調査病院の外来を受診している856人に、今、日常生活をがんにかかる前と同じように過ごすことができているかどうか尋ねたところ、「がんにかかると同じように生活できている」が34.6%で最も多く、次いで「手術や薬の副作用などはあるが、以前と同じように生活できている」が32.2%であった。

一方、「痛みや副作用などがあり、以前と同じようには生活できていない」または「痛みや副作用などが強く、日常生活を送るのに相当苦勞している」と回答した者はそれぞれ17.4%、1.3%であり、約19%が以前と同じように生活することが困難な状況であった。

図表 46 今、日常生活をがんにかかる前と同じように過ごすことができているか



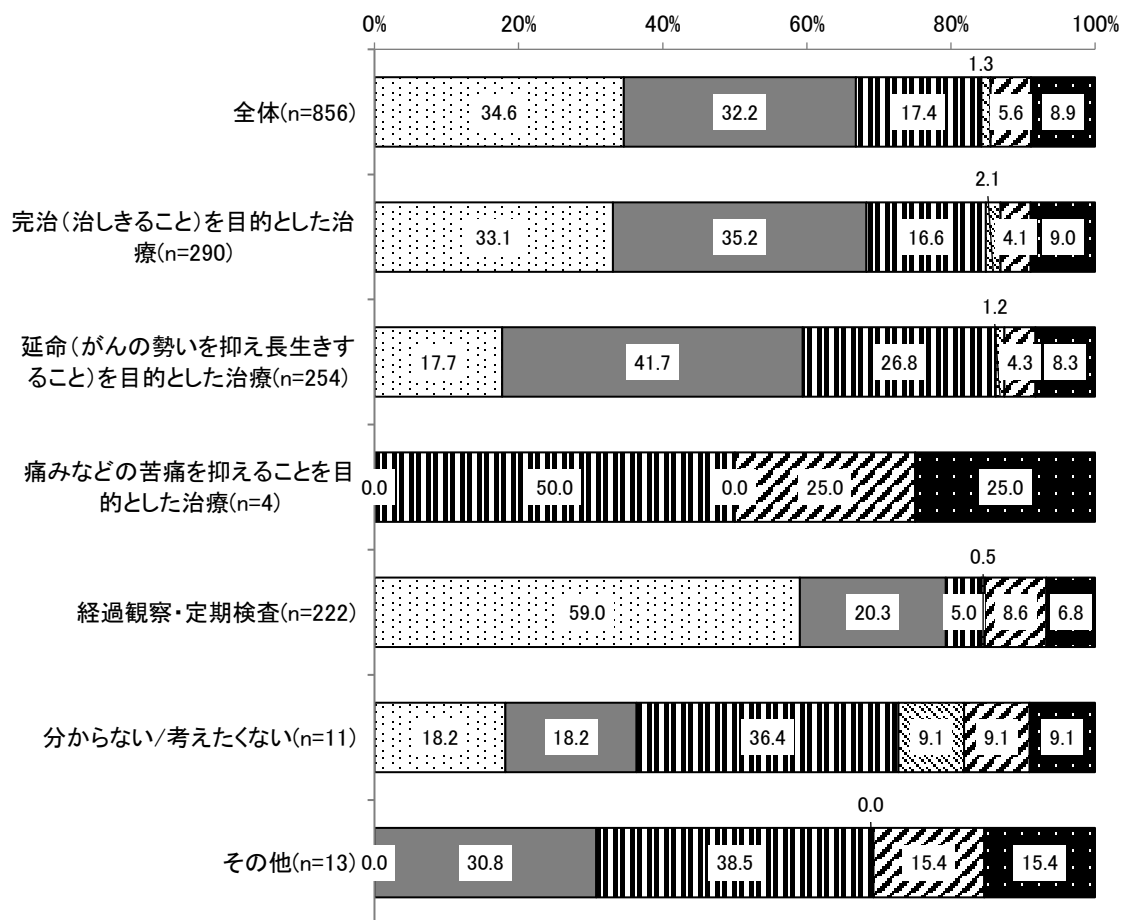
### 「その他」の具体的内容

- 呼吸能力低下で階段など辛い
- 身動きに支障があり行動に制限がある
- 前と同じように食事を取ることができなくなった 等

現在の治療状況別にみると、治療状況によって傾向は様々であった。「完治（治しきることを目的とした治療）または「延命（がんの勢いを抑え長生きすることを目的とした治療）」している者においては、「手術や薬の副作用などはあるが、以前と同じように生活できている」がそれぞれ35.2%、41.7%と最も高く、「経過観察・定期検査」の場合では、「がんに罹患する前と同じように生活できている」が59.0%と特に高かった。

図表 47 今、日常生活をがんにかかる前と同じように過ごすことができているか

【現在の治療の状況別】



- ☐ がんに罹患する前と同じように生活できている
- 手術や薬の副作用などはあるが、以前と同じように生活できている
- ▨ 痛みや副作用などがあり、以前と同じようには生活できていない
- ▩ 痛みや副作用などが強く、日常生活を送るのに相当苦勞している
- ▧ その他
- 無回答

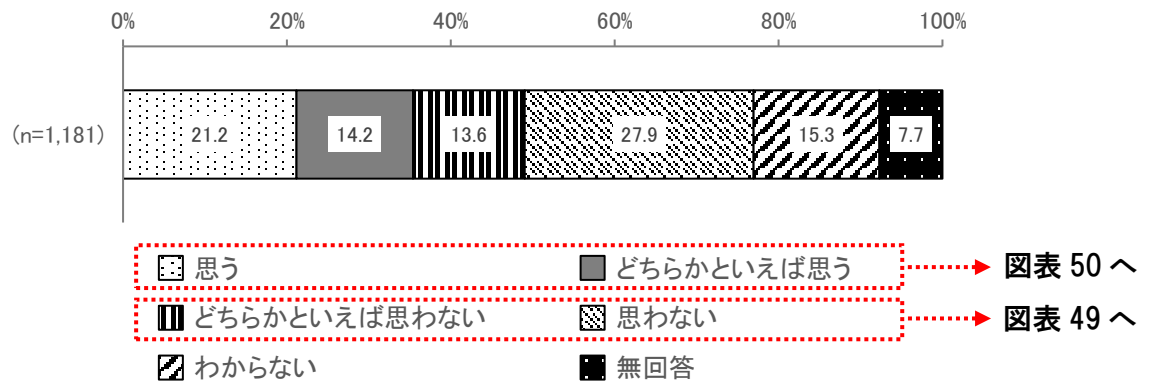
### 9) 自宅近くの医療機関でがんによる身体の痛みや不快な症状を和らげる処置を受けたいか

《問32》自宅近くの医療機関で、がんによる身体の痛みや不快な症状を和らげる処置が受けられるのであれば、受診したいと思いますか。(○は1つ)

自宅近くの医療機関でがんによる身体の痛みや不快な症状を和らげる処置を受けたいと思うかについて尋ねたところ、「思う」が21.2%、「どちらかといえば思う」が14.2%と合わせて約35%の者が『受診したい』と回答した。

一方、「どちらかといえば思わない」が13.6%、「思わない」が27.9%と合わせて約4割の者が『受診したくない』と回答し、『受診したい』の割合を上回った。

図表 48 自宅近くの医療機関でがんによる身体の痛みや不快な症状を和らげる処置を受けたいか



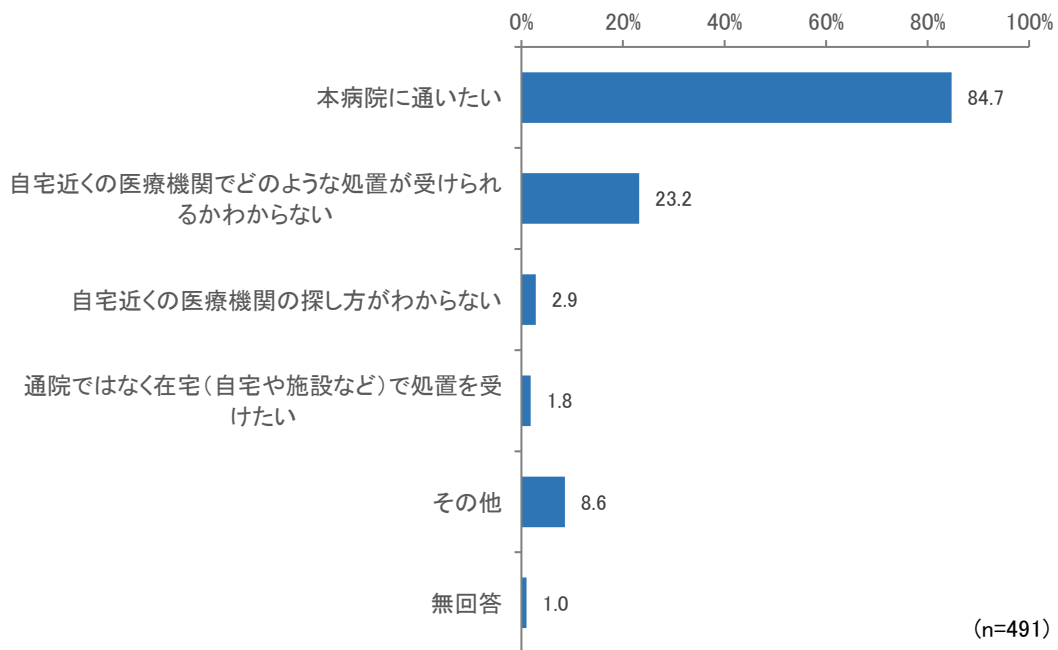
### 10) 自宅近くの医療機関でがんによる身体の痛みや不快な症状を和らげる処置を受けたくない理由

《問33》問32で「3. どちらかといえば思わない」「4. 思わない」と回答した方に伺います。

理由を教えてください。(〇はいくつでも)

自宅近くの医療機関でがんによる身体の痛みや不快な症状を和らげる処置を受けたいと思うかについて、「どちらかといえば思わない」「思わない」と回答した491人に、その理由を尋ねたところ、「本病院に通いたい」が84.7%で最も多く、次いで「自宅近くの医療機関でどのような処置が受けられるかわからない」23.2%であった。

図表 49 自宅近くの医療機関でがんによる身体の痛みや不快な症状を和らげる処置を受けたくない理由（複数回答）



#### 「その他」の具体的内容

- 多数の症例がある大きな病院で治療を受けたい
- 技術的に信頼不足
- 信頼できる医療者に会えるかわからないため 等

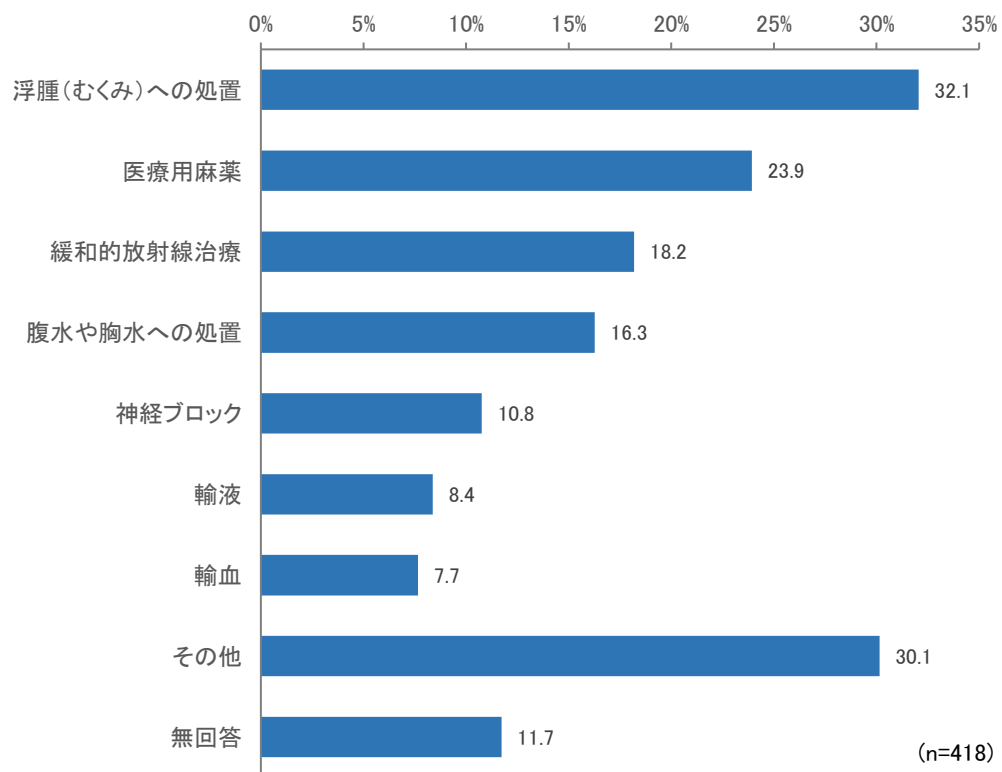
### 11) 自宅近くの医療機関で受たい処置の内容

《問34》問32で、「1. 思う」「2. どちらかといえば思う」と回答した方に伺います。

どのような処置を受たいですか。(〇はいくつでも)

自宅近くの医療機関でがんによる身体の痛みや不快な症状を和らげる処置を受けたいと思うかについて、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した418人に、どのような処置を受けたいか尋ねたところ、「浮腫（むくみ）への処置」が32.1%で最も多く、次いで「医療用麻薬」23.9%、「緩和的放射線治療」18.2%であった。

図表 50 自宅近くの医療機関で受たい処置の内容（複数回答）



#### 「その他」の具体的内容

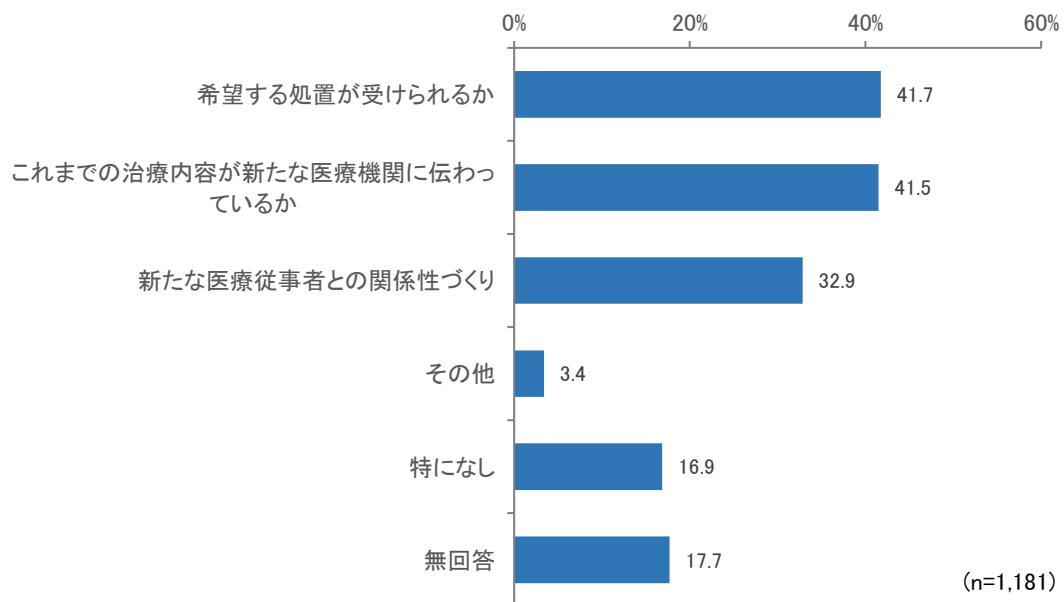
- 痛みや不快な症状の全てについて和らげる処置を受けたい
- 尿もれ対策
- 体調の変化などの相談 等

## 12) 自宅近くの医療機関で処置を受ける場合の不安

《問35》自宅近くの医療機関で、がんによる身体の痛みや不快な症状を和らげる処置を受ける場合の不安は何ですか。(〇はいくつでも)

自宅近くの医療機関でがんによる身体の痛みや不快な症状を和らげる処置を受ける場合の不安を尋ねたところ、「希望する処置が受けられるか」が41.7%で最も多く、次いで「これまでの治療内容が新たな医療機関に伝わっているか」41.5%、「新たな医療従事者との関係性づくり」32.9%であった。

図表 51 自宅近くの医療機関で処置を受ける場合の不安（複数回答）



「その他」の具体的内容

- 医師やスタッフの能力
- 費用面 等

## 6. 人生の最終段階(終末期)の過ごし方について

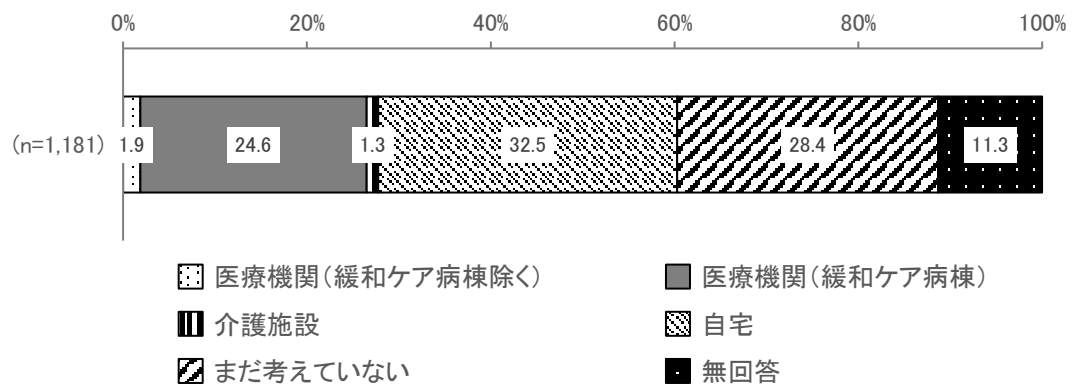
このパートは、がんを取り除くことが困難で、治療が難しい状態となる段階のことについて、可能な範囲での回答を依頼したものである。

### 1) 人生の最終段階をどこで過ごしたいか

《問36》もしもあなたが人生の最終段階を迎えた場合、どこで過ごしたいと思えますか。(○は1つ)

人生の最終段階をどこで過ごしたいか尋ねたところ、「自宅」が32.5%で最も多く、次いで「まだ考えていない」28.4%、「医療機関(緩和ケア病棟)」24.6%であった。

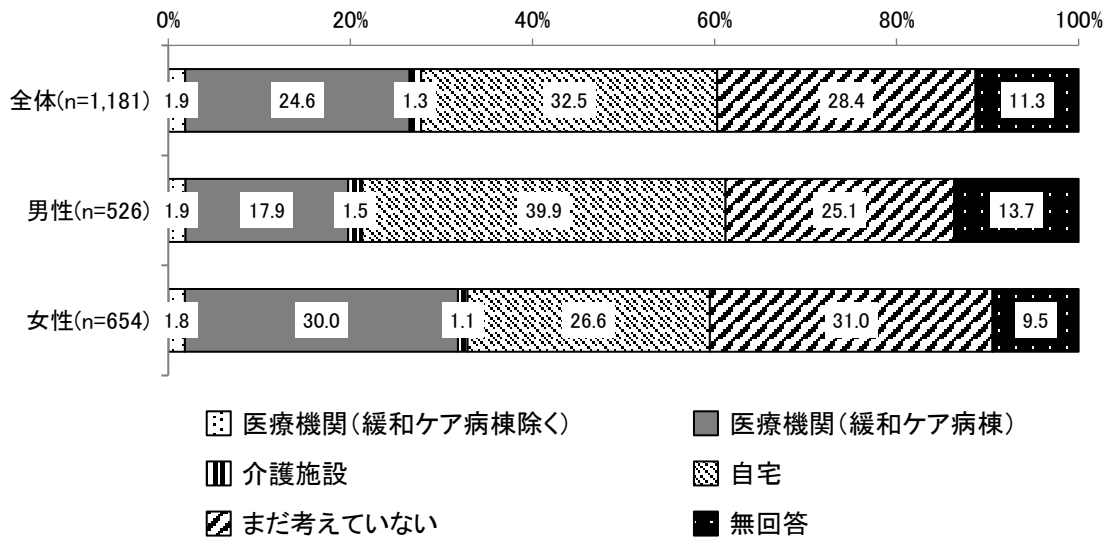
図表 52 人生の最終段階を過ごす場所に関する希望





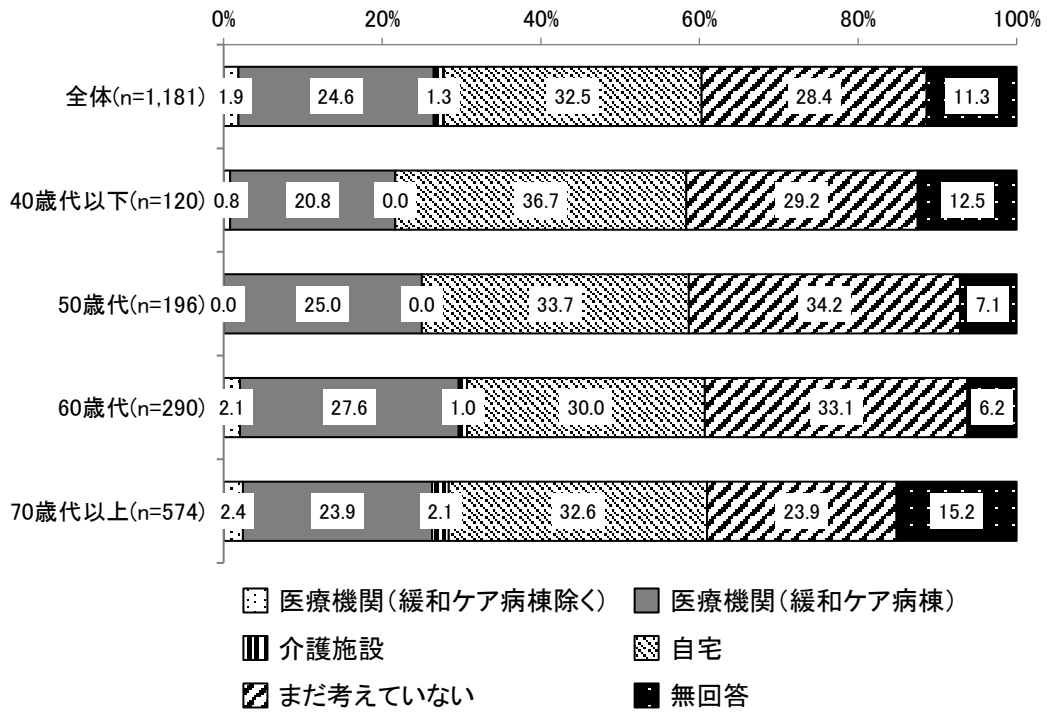
人生の最終段階をどこで過ごしたいかについて、性別にみると「自宅」と回答した者の割合は男性で39.9%と、女性の26.6%に比べて高い傾向が見られた。

図表 53 人生の最終段階を過ごす場所に関する希望【性別】



年齢階級別にみると、「医療機関（緩和ケア病棟）」と回答した者の割合は40歳代以下から60歳代にかけて増加傾向であり「自宅」と回答した者の割合は40歳代以下から60歳代にかけて減少傾向であった。

図表 54 人生の最終段階を過ごす場所に関する希望【年齢階級別】

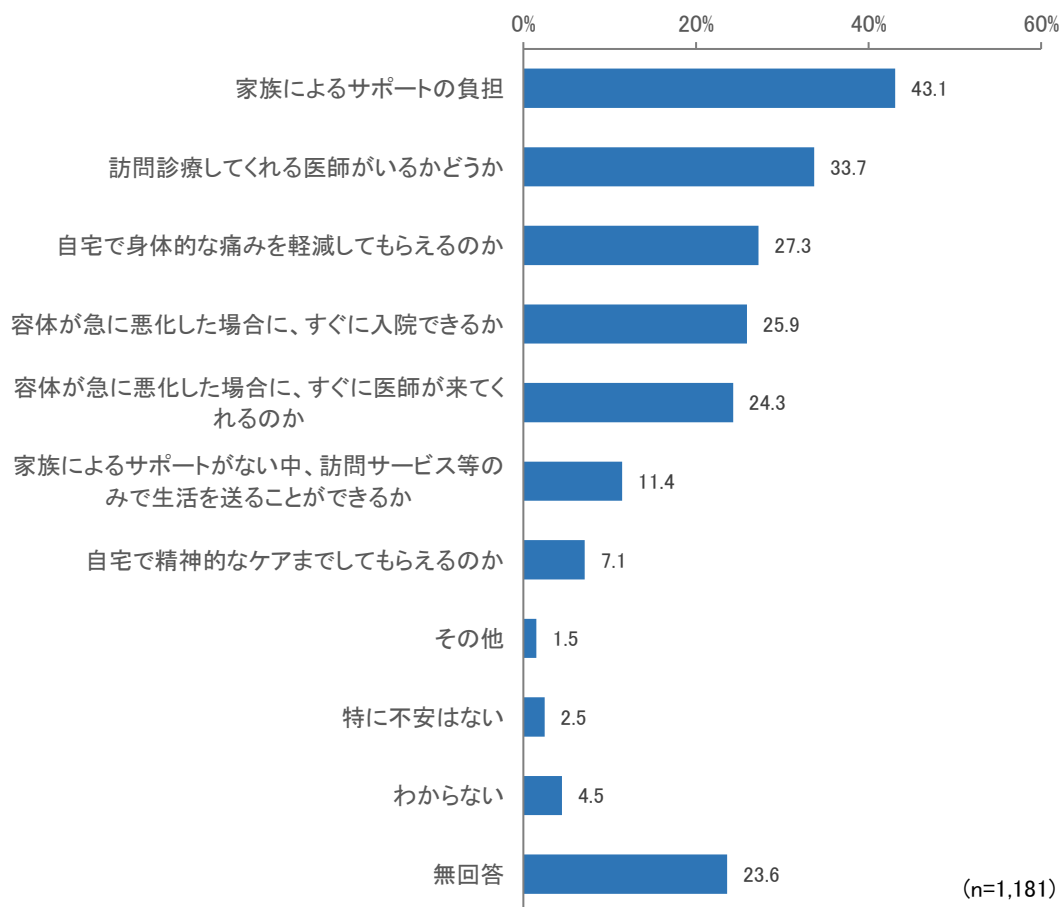


## 2) 人生の最終段階を「自宅で過ごす」場合、不安に思うことはあるか

《問37》もしもあなたが人生の最終段階を「自宅で過ごす」とした場合、不安に思うことはありますか。(〇は3つまで)

人生の最終段階を「自宅で過ごす」場合、不安に思うことはあるか尋ねたところ、「家族によるサポートの負担」が43.1%で最も多く、次いで「訪問診療してくれる医師がいるかどうか」33.7%、「自宅で身体的な痛みを軽減してもらえるのか」27.3%であった。

図表 55 人生の最終段階を「自宅で過ごす」場合に不安に思うこと（複数回答）

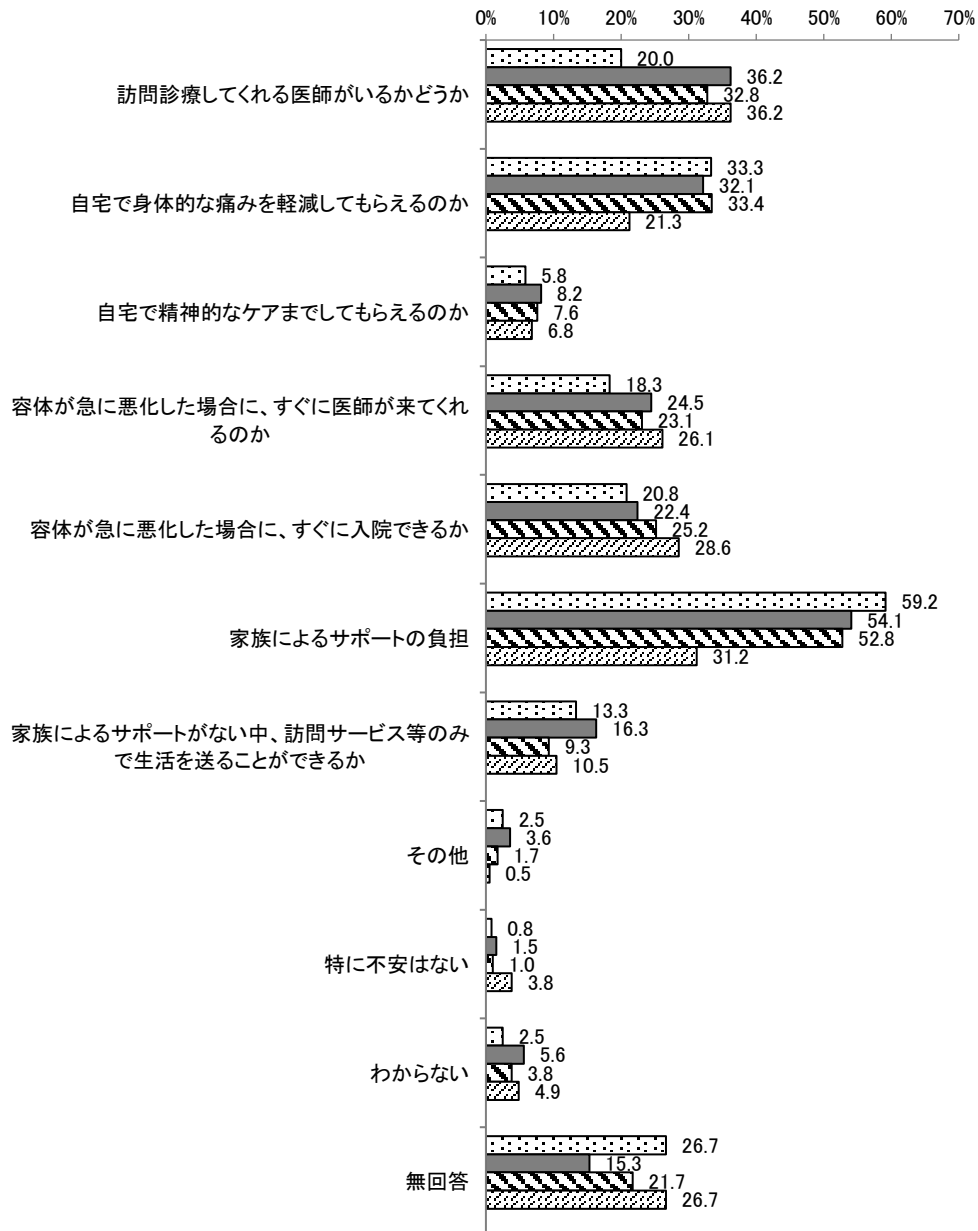


### 「その他」の具体的内容

- 生活費が足りるかどうか不安
- 死んだ後の自宅の整理、処分をどうするか
- 痛みや、容体の悪さを子供に見せてしまう事
- 独りなので何もかも不安
- 何もかも未だわからない所が不安 等

人生の最終段階を「自宅で過ごす」場合、不安に思うことはあるかどうかについて、年齢階級別にみると、年齢が低いほど「家族によるサポートの負担」の割合が高く、40歳代以下では59.2%と最も高かった。

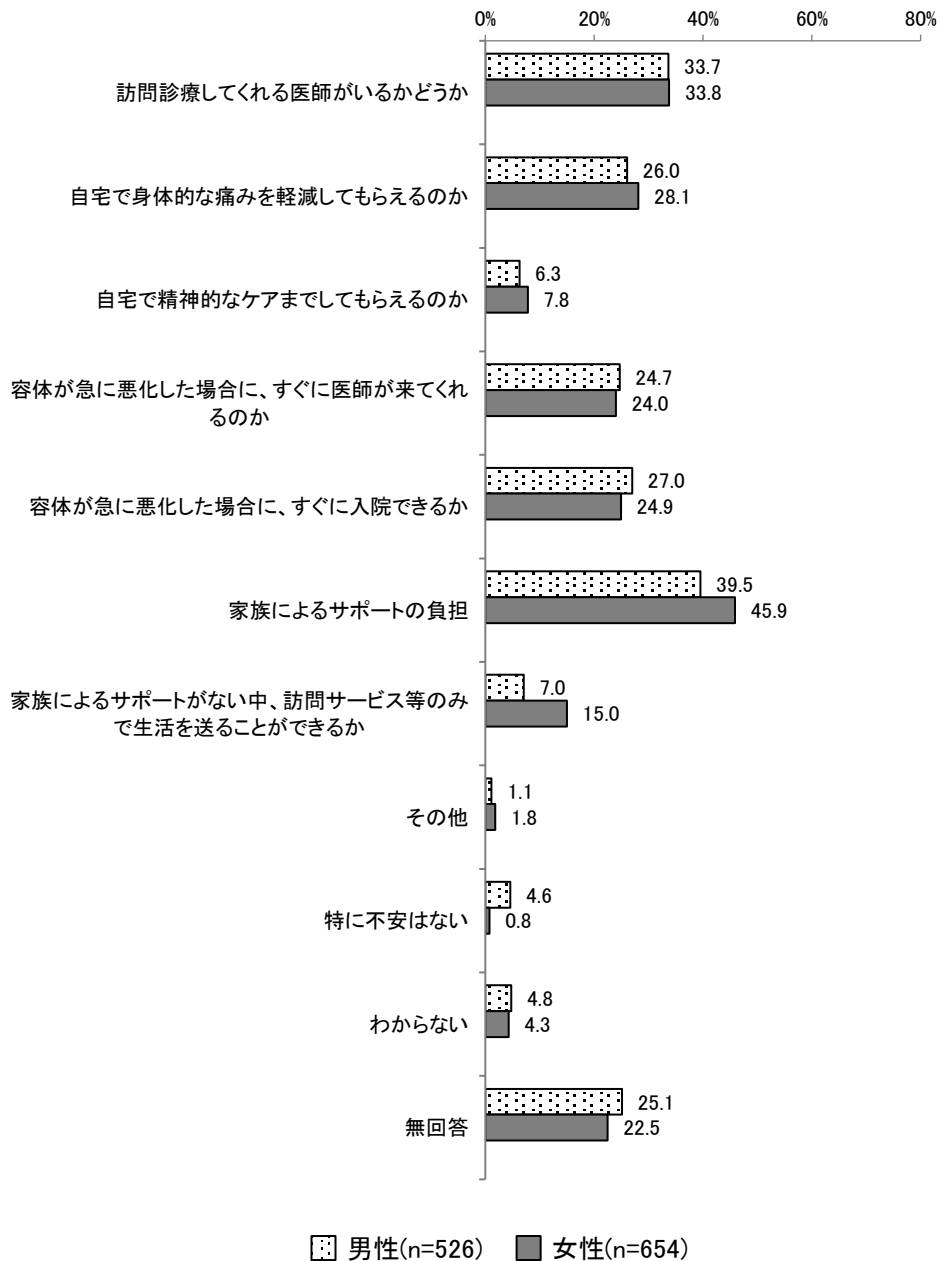
図表 56 人生の最終段階を「自宅で過ごす」場合に不安に思うこと（複数回答）【年齢階級別】



■ 40歳代以下(n=120) ■ 50歳代(n=196) ▨ 60歳代(n=290) ▩ 70歳代以上(n=574)

人生の最終段階を「自宅で過ごす」場合、不安に思うことはあるかどうかについて、性別にみると、性別によって大きな違いは見られず、男女ともに「家族によるサポートの負担」の割合が最も高かった。

図表 57 人生の最終段階を「自宅で過ごす」場合に不安に思うこと（複数回答）【性別】



## 7. 相談や困りごとについて

### 1) 自身の病状や療養に関することを誰かに相談できたか

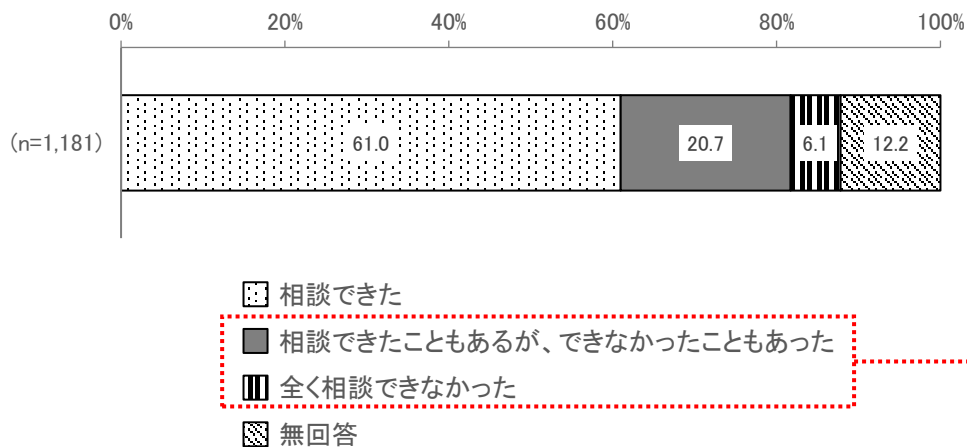
《問38》困りごとや悩みに対する相談状況についてお聞きします。

ご自身の病状や療養に関することについて、誰かに相談できましたか。

(○は1つ)

自身の病状や療養に関することを誰かに相談できたかについては、「相談できた」が61.0%と最も多く、次いで「相談できたこともあるが、できなかったこともあった」20.7%、「全く相談できなかった」が6.1%であった。

図表 58 自身の病状や療養に関することを誰かに相談できたか



図表 59へ

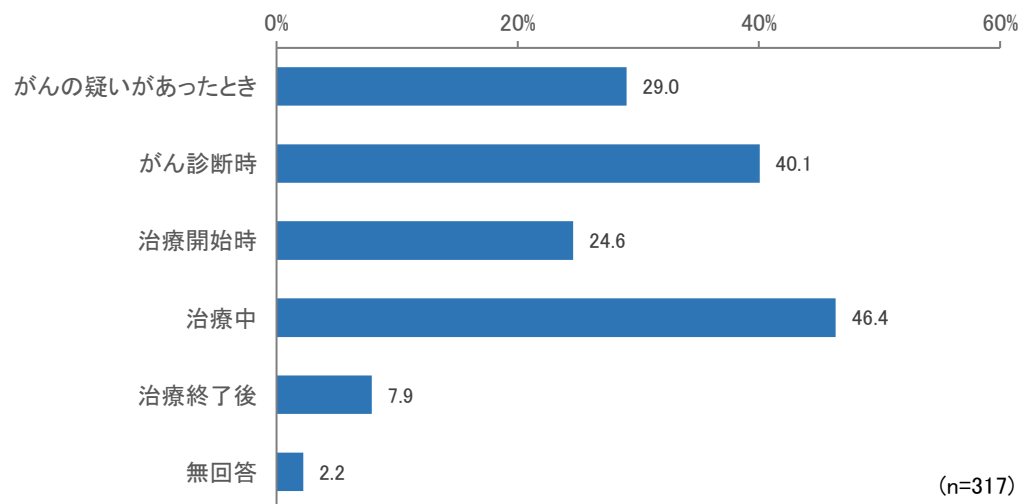
## 2) 自身の病状や療養に関することを誰かに相談したかった時期

《問39》問38で「2. 相談できたこともあるが、できなかったこともあった」または「3. 全く相談できなかった」と回答した方に伺います。

ご自身の病状や療養に関することについて、誰かに相談したかった時期はいつですか。該当するものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

自身の病状や療養に関することを誰かに相談できたかについて、「相談できたこともあるが、できなかったものもあった」または「全く相談できなかった」と回答した317人に、相談したかった時期を尋ねたところ、「治療中」が46.4%で最も多く、次いで「がん診断時」40.1%、「がんの疑いがあったとき」29.0%であった。

図表 59 自身の病状や療養に関することを誰かに相談したかった時期（複数回答）

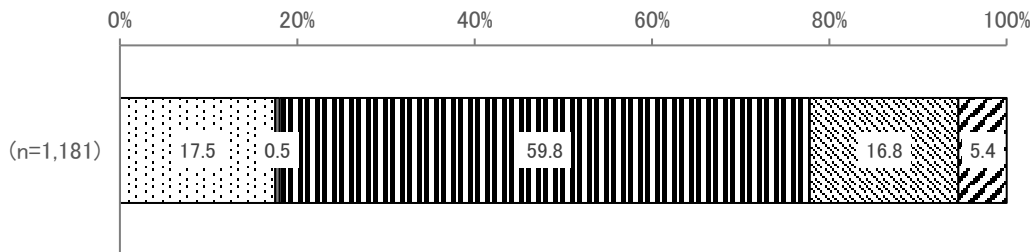


### 3) がん相談支援センターの認知度

《問40》本病院には「がん相談支援センター」が設置され、看護師やソーシャルワーカーが、がんに関する様々な相談を受け付けています。がん相談支援センターを知っていますか。(○は1つ)

調査病院にあるがん相談支援センターについて、「病院内にあることを知っており、利用したことがある」と回答した者は17.5%に留まり、「病院内にあることは知っているが、利用したことはない」が59.8%で最も多く、「がん相談支援センターがあることを知らない」は16.8%であった。

図表 60 がん相談支援センターの認知度



■ 病院内にあることを知っており、利用したことがある

■ 病院内にあることを知っていたが、本病院ではなく別病院のがん相談支援センターを利用したことがある

■ 病院内にあることは知っているが、利用したことはない

■ がん相談支援センターがあることを知らない

■ 無回答

図表 66 へ

図表 67 へ

図表 61・63・64 へ

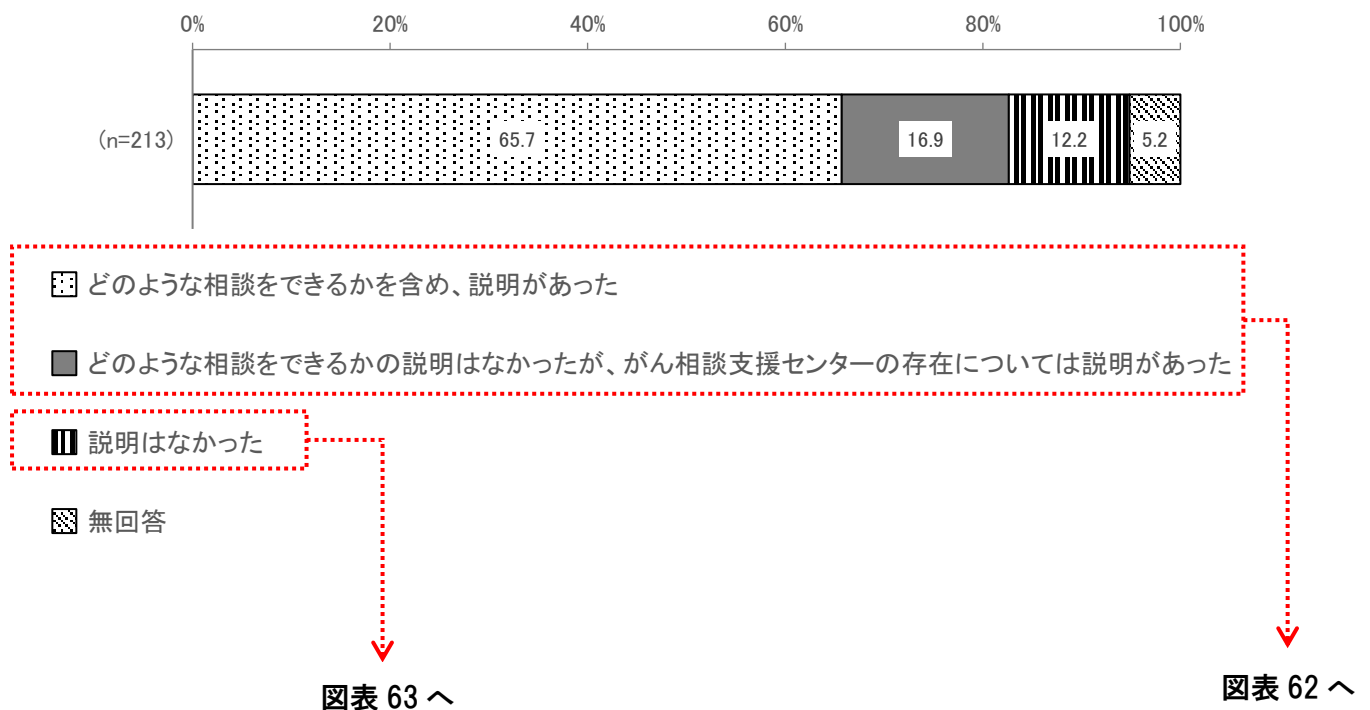


#### 4) がん相談支援センターについての医療従事者からの説明

《問41》問40で「1. 病院内にあることを知っており、利用したことがある」または「2. 病院内にあることを知っていたが、本病院ではなく別病院のがん相談支援センターを利用したことがある」と回答した方に伺います。  
がん相談支援センターについて、医療従事者から説明はありましたか。  
(○は1つ)

がん相談支援センターについて、「病院内にあることを知っており、利用したことがある」または「病院内にあることを知っていたが、本病院ではなく別病院のがん相談支援センターを利用したことがある」と回答した213人に、がん相談支援センターについて医療従事者からの説明があったかを尋ねたところ、「どのような相談をできるかを含め、説明があった」が65.7%で最も多く、次いで「どのような相談をできるかの説明はなかったが、がん相談支援センターの存在については説明があった」16.9%、「説明はなかった」12.2%、「説明はなかった」が12.2%であった。

図表 61 がん相談支援センターについての医療従事者からの説明

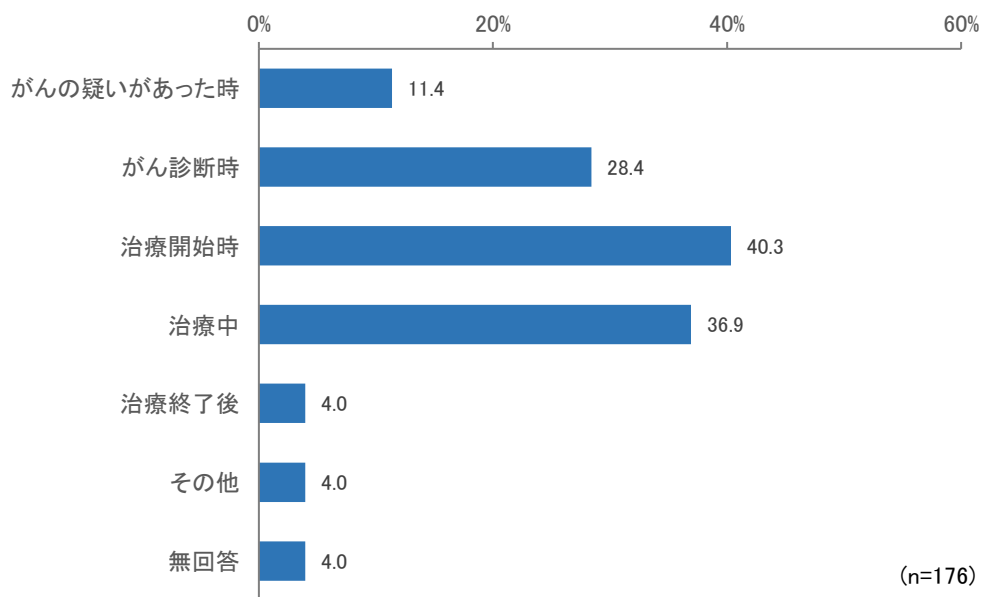


### 5) がん相談支援センターについての説明があった時期

《問42》問41で「1. どのような相談をできるかを含め、説明があった」または「2. どのような相談をできるかの説明はなかったが、がん相談支援センターの存在については説明があった」と回答された方に伺います。説明があったのはいつですか。(〇はいくつでも)

がん相談支援センターについて医療従事者から、「どのような相談をできるかを含め、説明があった」または「どのような相談をできるかの説明はなかったが、がん相談支援センターの存在については説明があった」と回答した176人に、説明があった時期を尋ねたところ、「治療開始時」が40.3%で最も多く、次いで「治療中」36.9%、「がん診断時」28.4%であった。

図表 62 がん相談支援センターについての説明があった時期（複数回答）

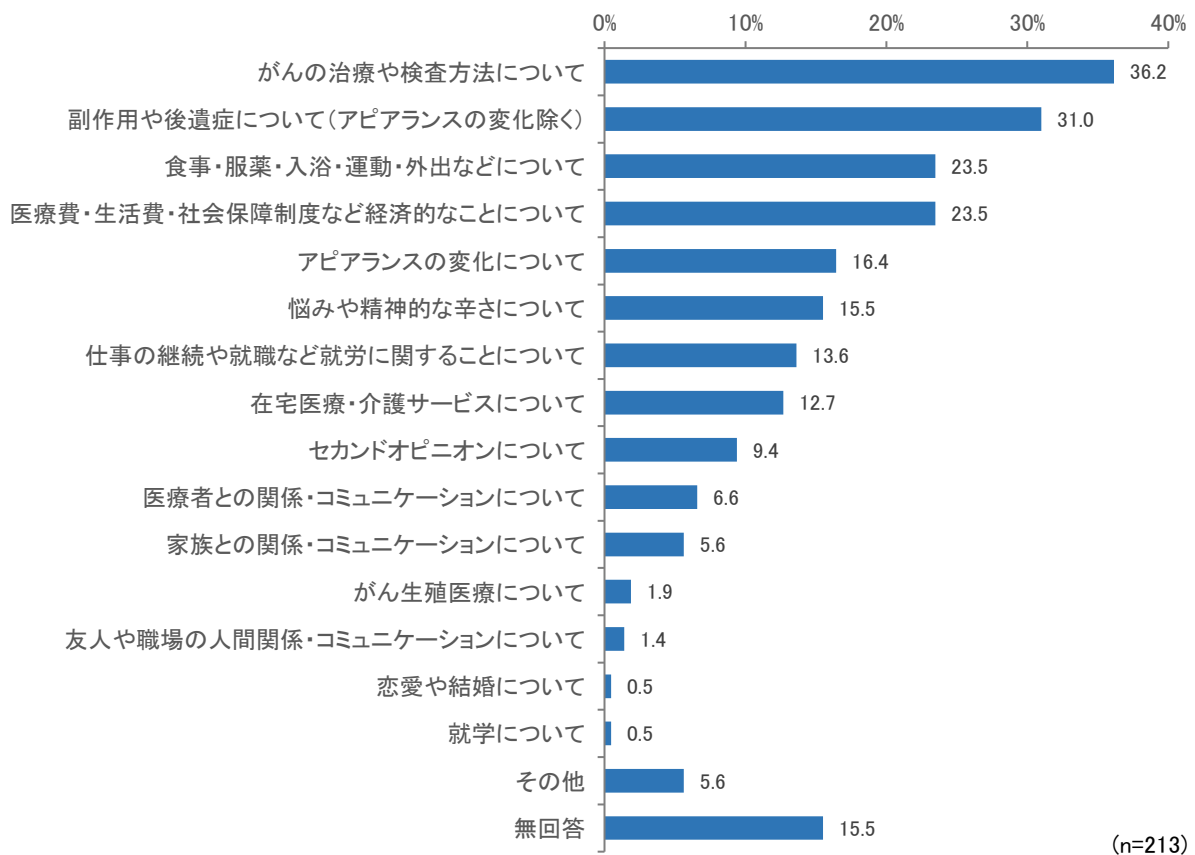


## 6) がん相談支援センターで相談した内容

《問43》問40で「1. 病院内にあることを知っており、利用したことがある」または「2. 病院内にあることを知っていたが、本病院ではなく別病院のがん相談支援センターを利用したことがある」と回答された方に伺います。がん相談支援センターでは、どのようなことを相談されましたか。(〇はいくつでも)

がん相談支援センターについて、「病院内にあることを知っており、利用したことがある」または「病院内にあることを知っていたが、本病院ではなく別病院のがん相談支援センターを利用したことがある」と回答した213人に、相談した内容を尋ねたところ、「がんの治療や検査方法について」が36.2%で最も多く、次いで「副作用や後遺症について(アピランスの変化<sup>2</sup>除く)」が31.0%、「食事・服薬・入浴・運動・外出などについて」と「医療費・生活費・社会保障制度など経済的なことについて」が23.5%であった。その他の意見としては、退院後の家庭での生活、家族のケア、術後の合併症などがあった。

図表 63 がん相談支援センターでの相談内容（複数回答）



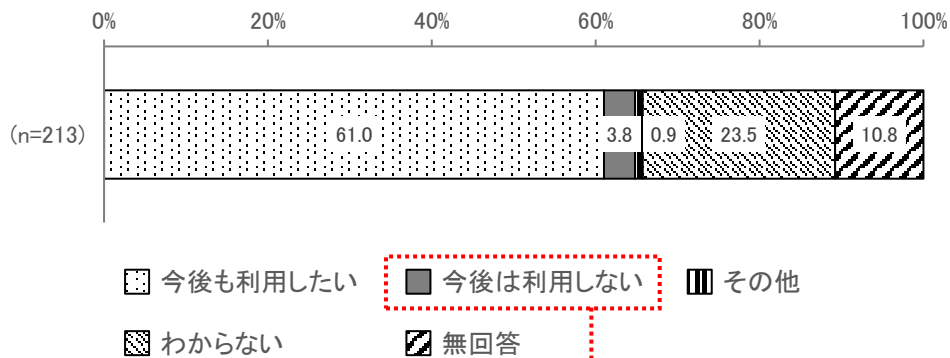
<sup>2</sup> アピランスの変化：「がん治療による、脱毛、皮膚障害、爪の変化等の外見の変化」のこと

## 7) がん相談支援センター利用経験者における今後の利用意向

《問44》問40で「1. 病院内にあることを知っており、利用したことがある」または「2. 病院内にあることを知っていたが、本病院ではなく別病院のがん相談支援センターを利用したことがある」と回答された方に伺います。がん相談支援センターを、今後も利用したいですか。(○は1つ)

がん相談支援センターについて、「病院内にあることを知っており、利用したことがある」または「病院内にあることを知っていたが、本病院ではなく別病院のがん相談支援センターを利用したことがある」と回答した213人に、がん相談支援センターを今後も利用したいかを尋ねたところ、「今後も利用したい」と回答した者が61.0%であり、「今後は利用しない」と回答した者は3.8%であった。一方、「わからない」の回答は23.5%と、一定数見られた。

図表 64 がん相談支援センター利用経験者における今後の利用意向



図表 65 へ

## 8) がん相談支援センターを今後は利用しないと考える理由

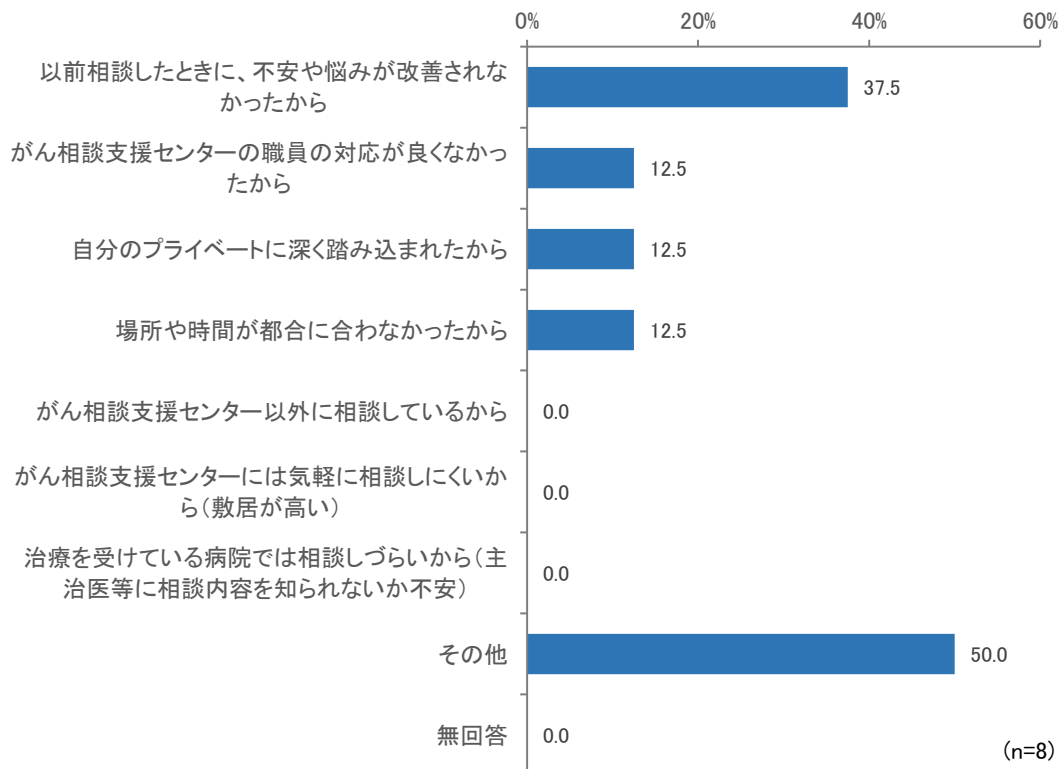
《問45》問44で「2. 今後は利用しない」を回答された方に伺います。

その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

がん相談支援センターについて、「今後は利用しない」と回答した8人に、理由を尋ねたところ、「以前相談したときに、不安や悩みが改善されなかったから」が37.5%で最も多く、次いで「がん相談支援センターの職員の対応が良くなかったから」、「自分のプライベートに深く踏み込まれたから」及び「場所や時間が都合に合わなかったから」がともに12.5%であった。

ただし、回答者数が少ない点に留意が必要である。

図表 65 今後は利用しないと考える理由（複数回答）



### 「その他」の具体的内容

- 聞きたい事は聞いたから
- 不慣れ、経験知識不足のような方だったから
- 治療が終了したから 等

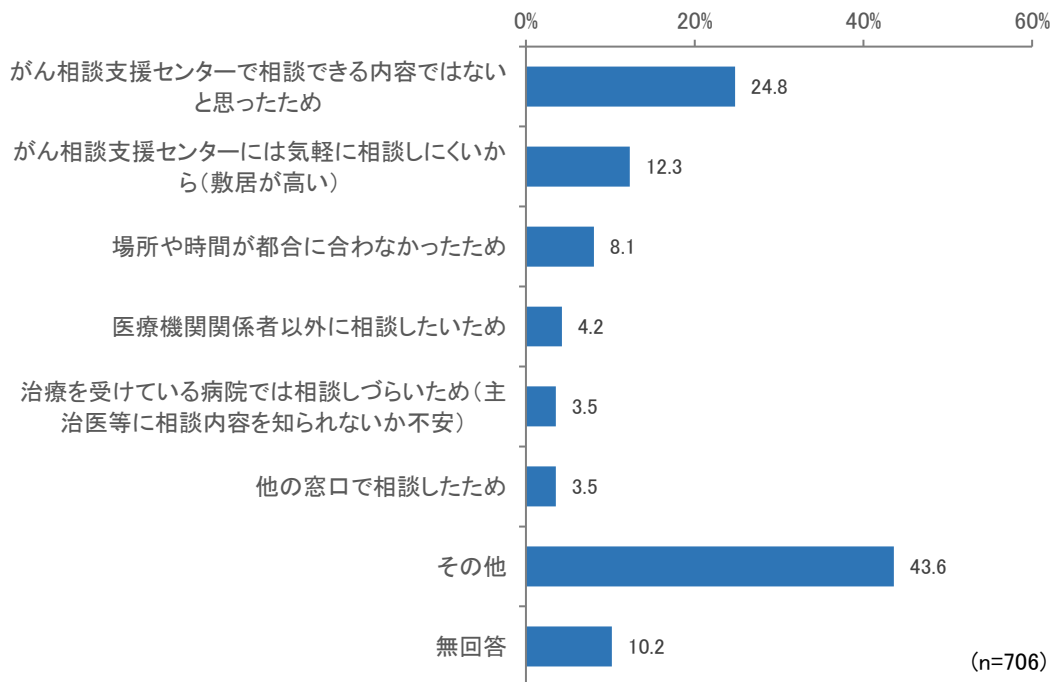
### 9) がん相談支援センターを認知しているが利用していない理由

《問46》問40で「3. 病院内にあることは知っているが、利用したことはない」と回答された方に伺います。

利用していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

がん相談支援センターについて、「病院内にあることは知っているが、利用したことはない」と回答した706人に、利用していない理由を尋ねたところ、「がん相談支援センターで相談できる内容ではないと思ったため」が24.8%で最も多く、次いで「がん相談支援センターには気軽に相談しにくいから(敷居が高い)」12.3%、「場所や時間が都合に合わなかったため」8.1%であった。

図表 66 がん相談支援センターを認知しているが利用していない理由 (複数回答)



#### 「その他」の具体的内容

- 主治医、家族に相談できている
- 自分で解決できたから
- 相談する事柄がなかったから
- 予約が難しい 等

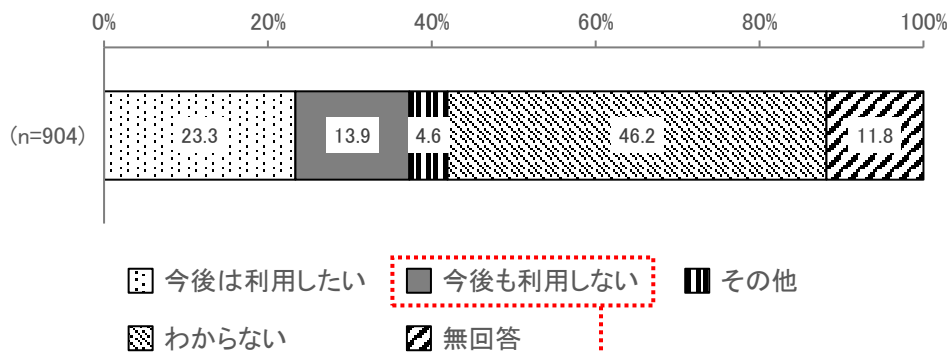
### 10) がん相談支援センターを利用したことがない者の今後の利用意向

《問47》問40で「3. 病院内にあることは知っているが、利用したことはない」または「4. がん相談支援センターがあることを知らない」と回答された方に伺います。

今後、がん相談支援センターを利用してみたいと思いますか。(○は1つ)

がん相談支援センターについて、「病院内にあることは知っているが、利用したことはない」または「がん相談支援センターがあることを知らない」と回答した904人に、今後の利用意向を尋ねたところ、「今後は利用したい」と回答した者が23.3%であり、「今後も利用しない」と回答した者は13.9%であった。一方で、「わからない」が46.2%と半数近く存在した。

図表 67 がん相談支援センターを利用したことがない者の今後の利用意向



図表 68 へ

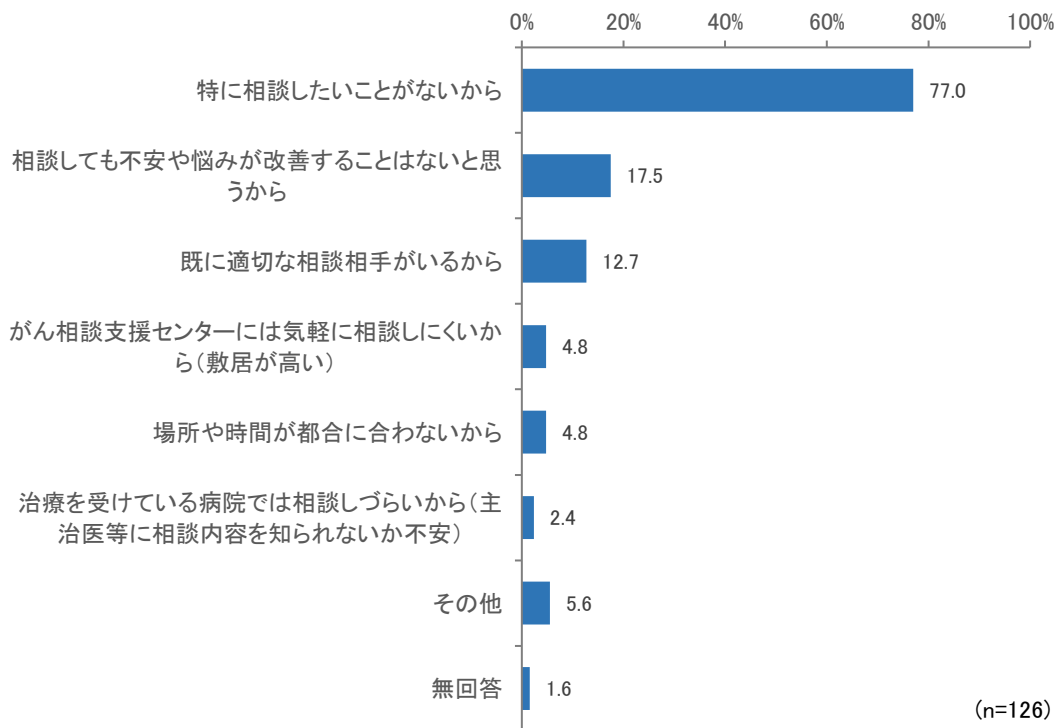
## 11) がん相談支援センターを今後も利用しない理由

《問48》問47で「2. 今後も利用しない」を回答された方に伺います。

その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

がん相談支援センターを利用したことがない者のうち「今後も利用しない」と回答した126人に、その理由を尋ねたところ、「特に相談したいことがないから」が77.0%で最も多く、次いで「相談しても不安や悩みが改善することはないと思うから」17.5%、「既に適切な相談相手がいるから」12.7%であった。

図表 68 がん相談支援センターを今後も利用しない理由（複数回答）



「その他」の具体的内容

- 主治医や担当医師に十分相談できている
- 自分が医療従事者だから 等

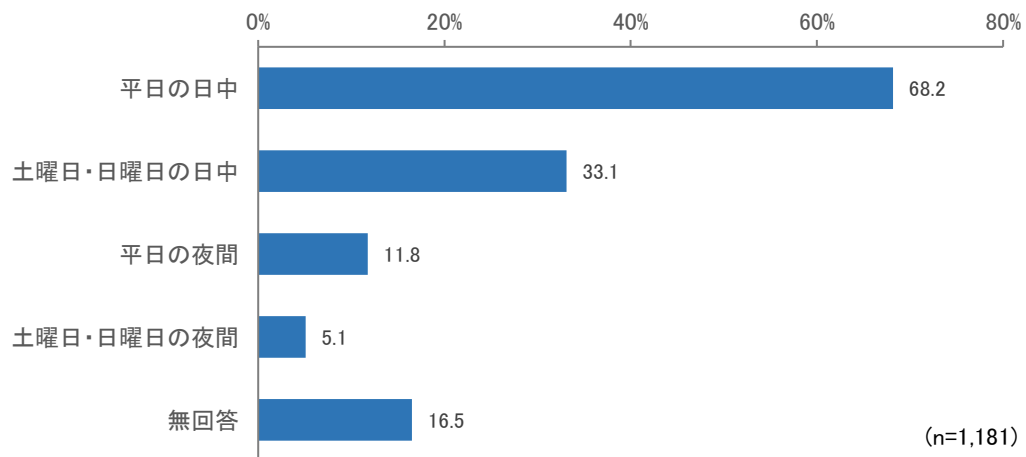


## 12) がん相談支援センターを利用しやすい時間帯

《問49》がん相談支援センターに相談する場合、どのような時間帯、方法であれば相談しやすいと思いますか。(〇はいくつでも)

がん相談支援センターを利用しやすい時間帯を尋ねたところ、「平日の日中」が68.2%で最も多く、次いで「土曜日・日曜日の日中」が33.1%、「平日の夜間」11.8%であった。

図表 69 がん相談支援センターを利用しやすい時間帯（複数回答）

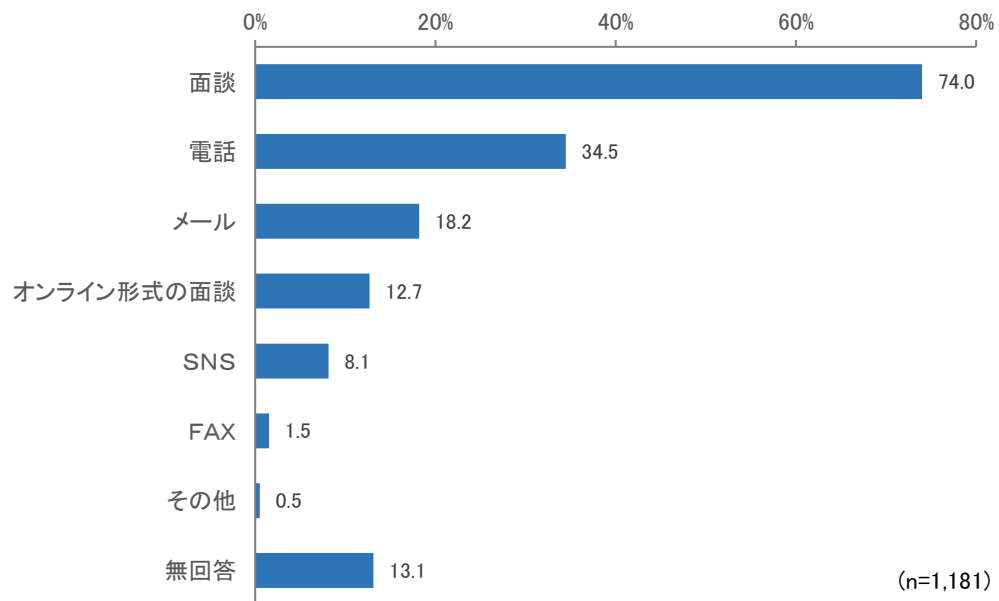


### 13) がん相談支援センターを相談しやすい方法

《問50》がん相談支援センターに相談する場合、どのような方法であれば相談しやすいと思いますか。(〇はいくつでも)

がん相談支援センターに相談しやすい方法を尋ねたところ、「面談」が74.0%で最も多く、次いで「電話」が34.5%、「メール」が18.2%であった。

図表 70 がん相談支援センターを相談しやすい方法（複数回答）



### 14) 患者サロンの参加経験

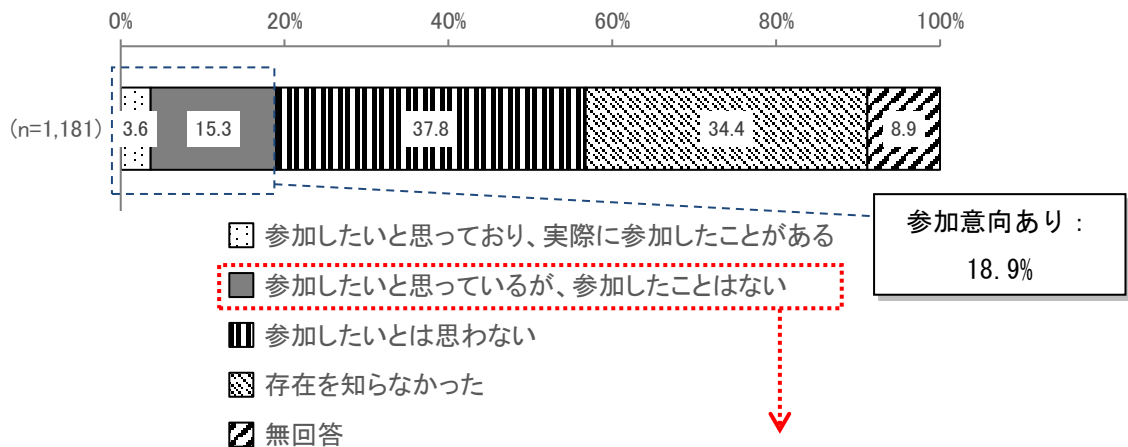
《問51》がん患者や経験者など、同じ立場の人が自由に集いがんについて気軽に語り合える交流の場を「患者サロン」といいます。

あなたはこれまで、患者サロンに参加したことはありますか。(○は1つ)

患者サロンの参加経験について尋ねたところ、「参加したいと思っており、実際に参加したことがある」と回答した者は3.6%に留まっていたが、「参加したいと思っているが、参加したことはない」が15.3%と一定数存在した。

一方、「参加したいとは思わない」が37.8%と、特に参加の意向がない回答も一定数見られた。

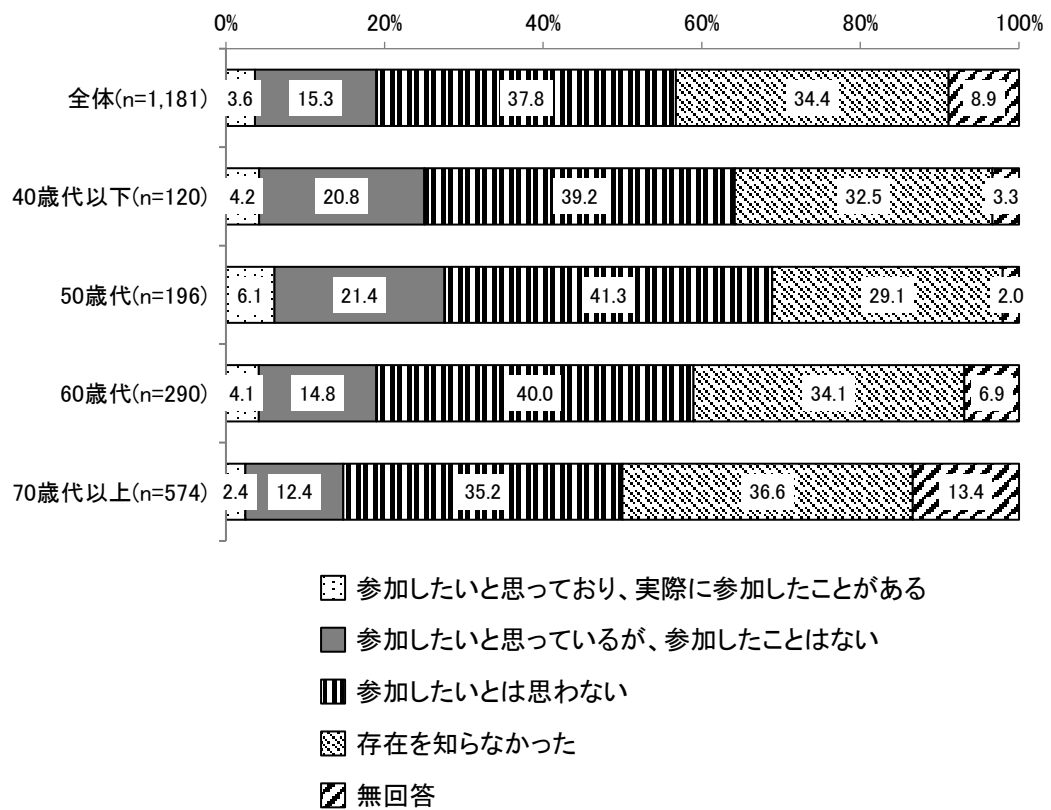
図表 71 患者サロンの参加経験



図表 73 へ

年齢階級別にみると、「参加したいと思っているが、参加したことはない」、「参加したいとは思わない」は、50歳代がそれぞれ21.4%、41.3%と最も高かった。また、50歳代以上は、年代が上がるにつれて「存在を知らなかった」の割合が高くなる傾向であった。

図表 72 患者サロンの参加意向【年齢階級別】



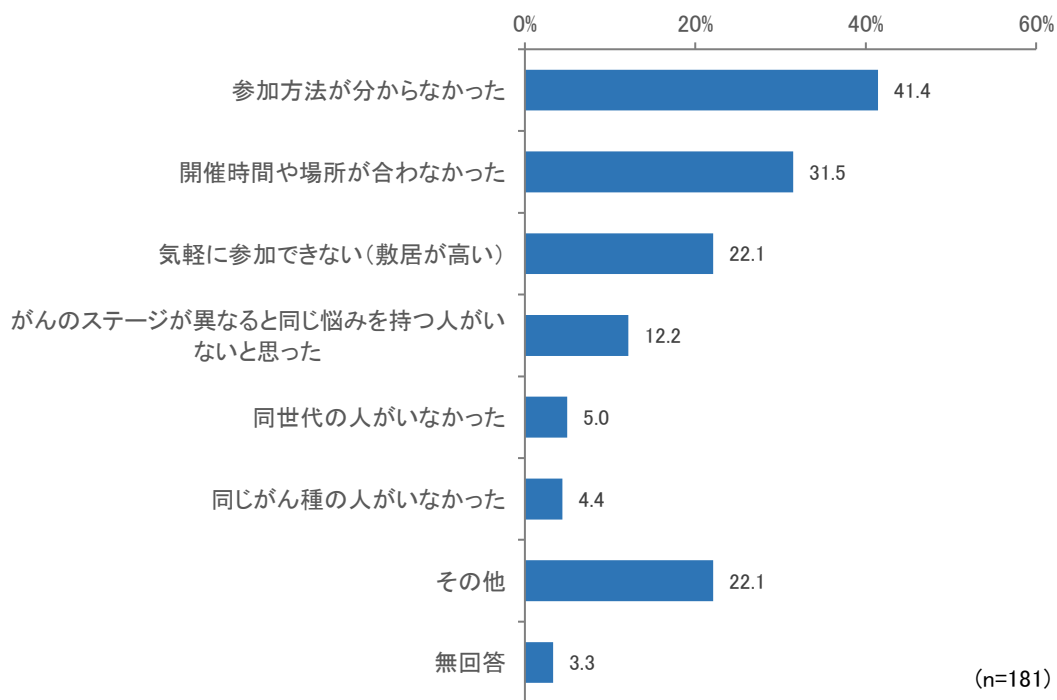
## 15) 患者サロン自体は知っているが参加したことがない理由

《問52》問51で「2. 参加したいと思っているが、参加したことはない」と回答された方に伺います。

患者サロンに参加したことがない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

患者サロンについて、「参加したいと思っているが、参加したことはない」と回答した181人に、参加したことがない理由を尋ねたところ、「参加方法が分からなかった」が41.4%で最も多く、次いで「開催時間や場所が合わなかった」が31.5%、「気軽に参加できない(敷居が高い)」が22.1%であった。

図表 73 患者サロン自体は知っているが参加したことがない理由(複数回答)



「その他」の具体的内容

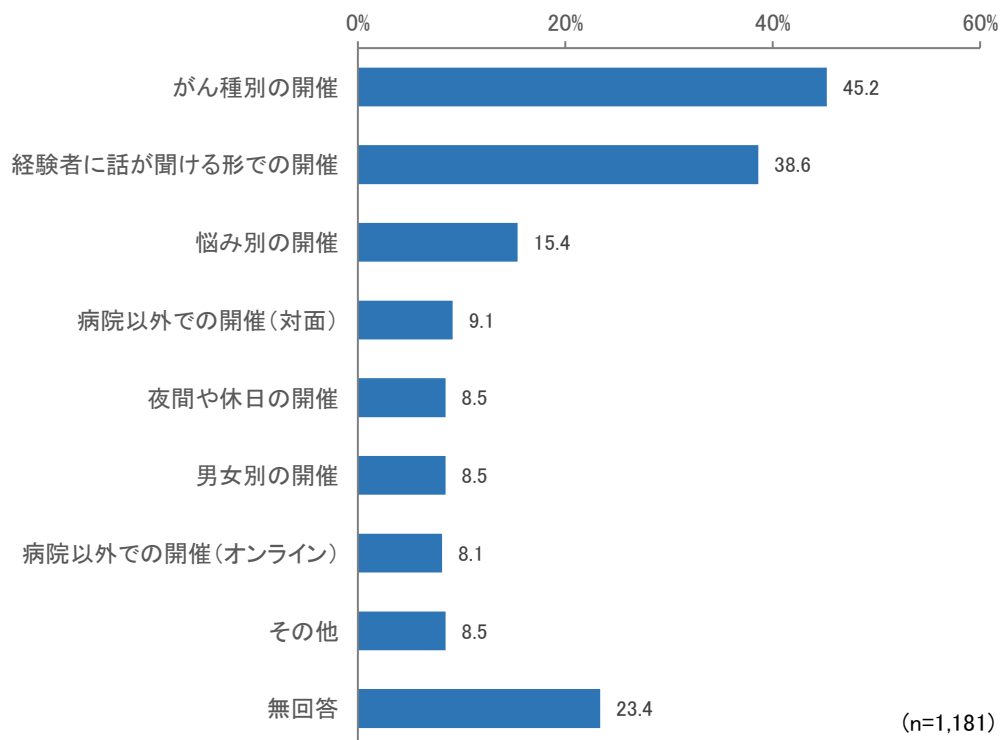
- コロナで開催がなかった
- 面倒だから 等

### 16) 患者サロンへ参加しやすい開催方法

《問53》患者サロンに参加するにあたり、どのような開催方法であれば、参加しやすいですか（興味を持てますか）。（〇はいくつでも）

患者サロンへ参加しやすい開催方法については、「がん種別の開催」が45.2%で最も多く、次いで「経験者に話が聞ける形での開催」が38.6%であった。

図表 74 患者サロンへ参加しやすい開催方法（複数回答）



#### 「その他」の具体的内容

- 年代別
- がんのステージ別
- SNS 等

### 17) ピアサポートを受ける意向

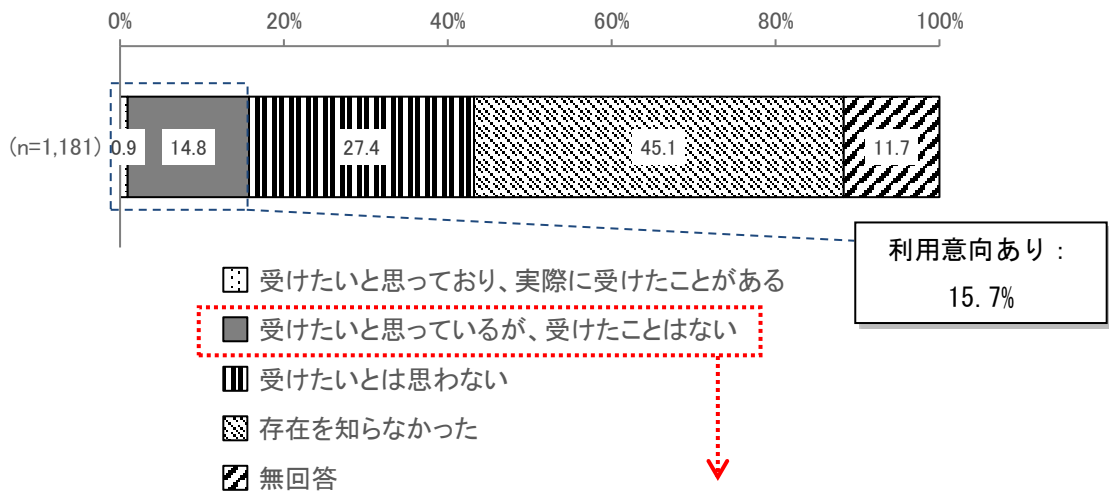
《問54》がん患者や家族の悩みに対して、がんサバイバー（がん経験者）等が、同じ経験を持つ仲間（ピア）として自分の経験を生かしながら相談や支援を行う取組のことを「ピアサポート」といいます。

あなたは、ピアサポートを受けたいと思いますか。（○は1つ）

ピアサポートを受けたいか尋ねたところ、「受けたいと思っており、実際に受けたことがある」と回答した者は0.9%に留まっていたが、「受けたいと思っているが、受けたことはない」が14.8%と一定数存在した。

一方、「受けたいとは思わない」が27.4%と、特に利用の意向がない回答も一定数見られた。

図表 75 ピアサポートに関する意向



図表 76 へ

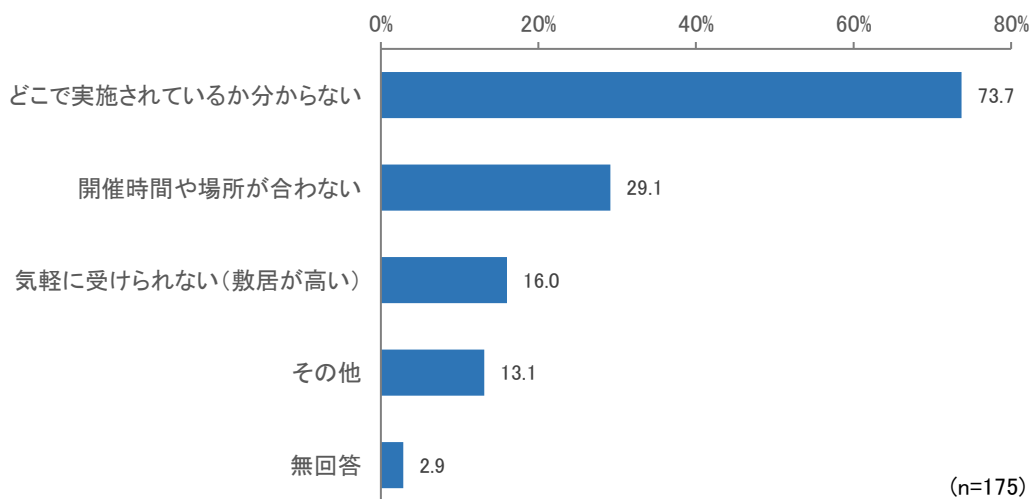
## 18) ピアサポート自体を知っているが受けたことはない理由

《問55》問54で「2. 受けたいと思っているが、受けたことはない」と回答された方に伺います。

受けたことがない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

ピアサポートについて、「受けたいと思っているが、受けたことはない」と回答した175人について、受けたことがない理由を尋ねたところ、「どこで実施されているか分からない」が73.7%で最も多かった。

図表 76 ピアサポート自体を知っているが受けたことがない理由（複数回答）



「その他」の具体的内容

- より深刻になった場合は受けたい
- 仕事等で時間が取れない
- どんな人達がいるのか不安がある 等



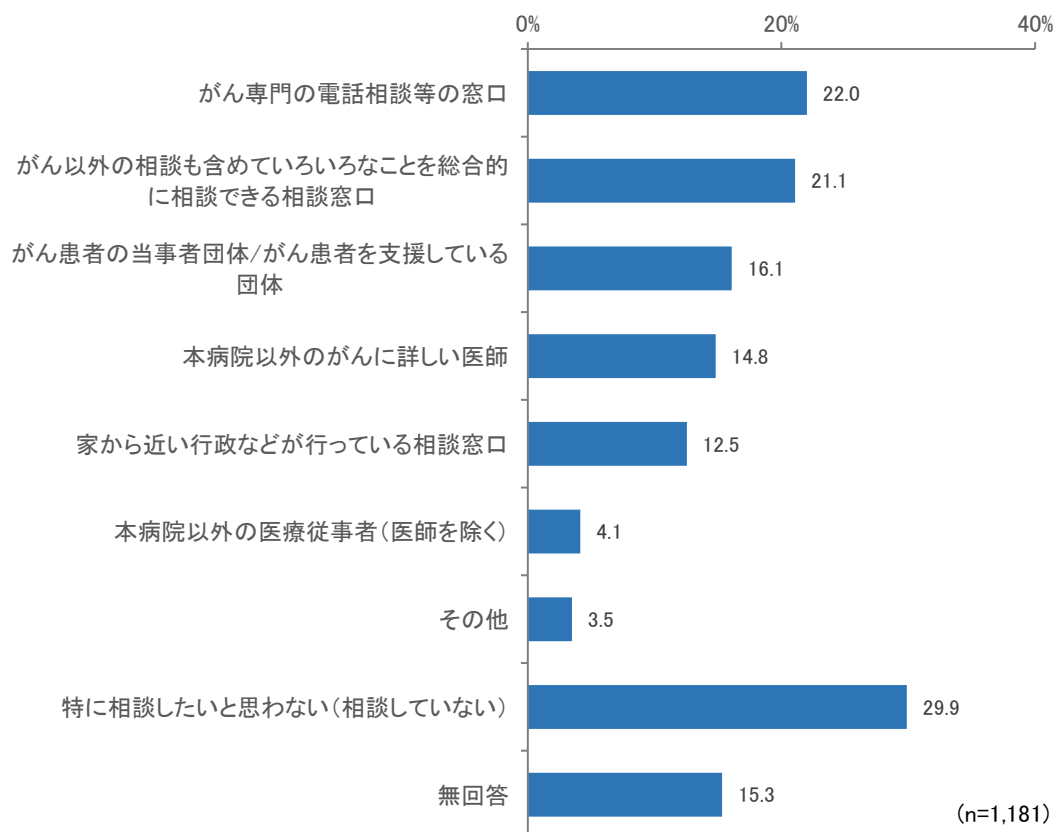
## 19) 「がん相談支援センター」「患者サロン」「ピアサポート」以外の相談先

《問56》あなたは、「がん相談支援センター」や「患者サロン」「ピアサポート」以外に専門職や相談窓口等に相談されるとしたら、どこに相談したいですか。または普段相談されていますか。(〇はいくつでも)

「がん相談支援センター」や「患者サロン」「ピアサポート」以外に希望する相談先、あるいは普段相談している先としては、「がん専門の電話相談等の窓口」が22.0%で最も多く、次いで「がん以外の相談も含めていろいろなことを総合的に相談できる相談窓口」21.1%、「がん患者の当事者団体/がん患者を支援している団体」16.1%であった。

なお、「特に相談したいと思わない(相談していない)」と回答した者は29.9%であった。

図表 77 「がん相談支援センター」「患者サロン」「ピアサポート」以外の相談先（複数回答）



## 「その他」の具体的内容

- 医師仲間の先輩、後輩へ相談する
- ネット上の体験談や知り合い
- 看護師の友人に相談していた 等

## 8. 就職前にかん罹患が判明した患者の就労について

### 1) 現在の就労状況

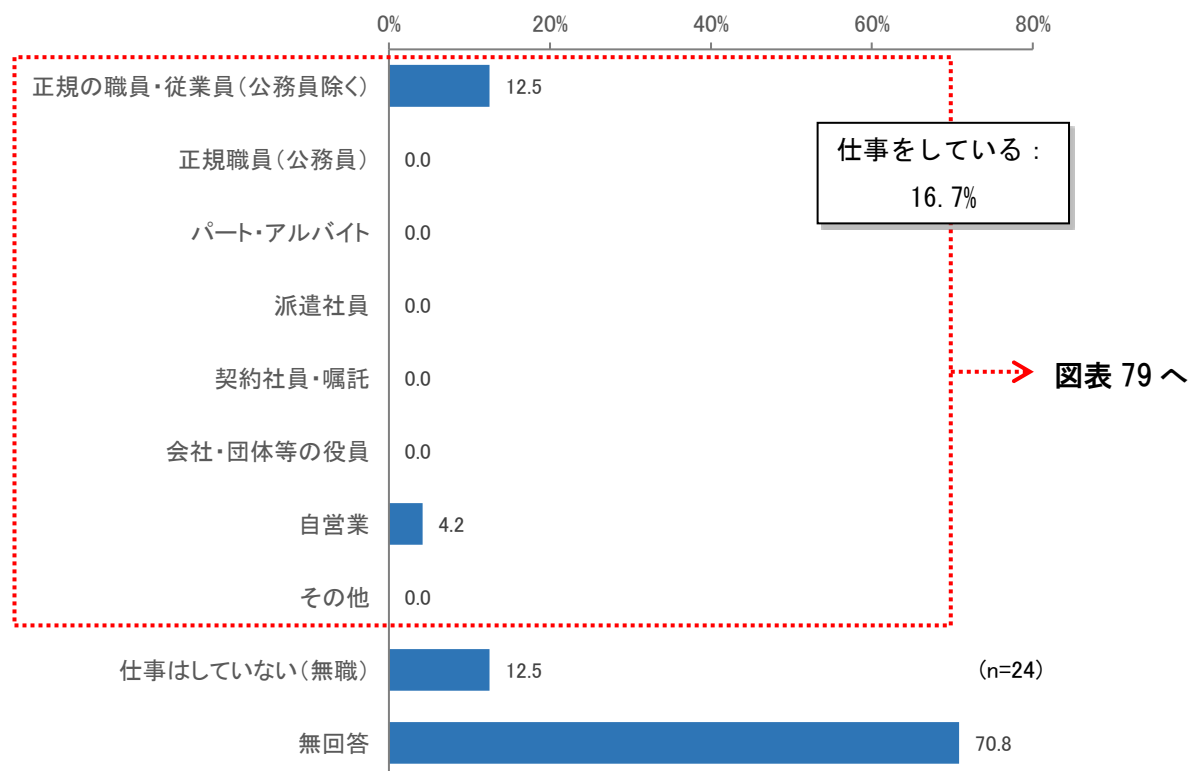
《問57》【就職する前にかんの罹患が判った方に伺います】

現在の就労状況について選択してください。(○は1つ)

25歳以上40歳未満の回答者のうち就職する前にかんの罹患が判明していた者に、現在の就労状況を尋ねたところ、現在2割近くが仕事に就いていた。内訳としては「正規の職員・従業員（公務員除く）」12.5%、「自営業」が4.2%であった。また、「仕事はしていない（無職）」は12.5%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 78 現在の就労状況



※ただし、無回答の17名の中には、就職した後にがん罹患が判明した者が含まれている可能性がある。

## 2) 就職するにあたって困ったり、不安になったこと

《問58》【就職する前にがんの罹患が判った方に伺います】

問57で「9. 仕事はしていない（無職）」以外を選んだ方に伺います。

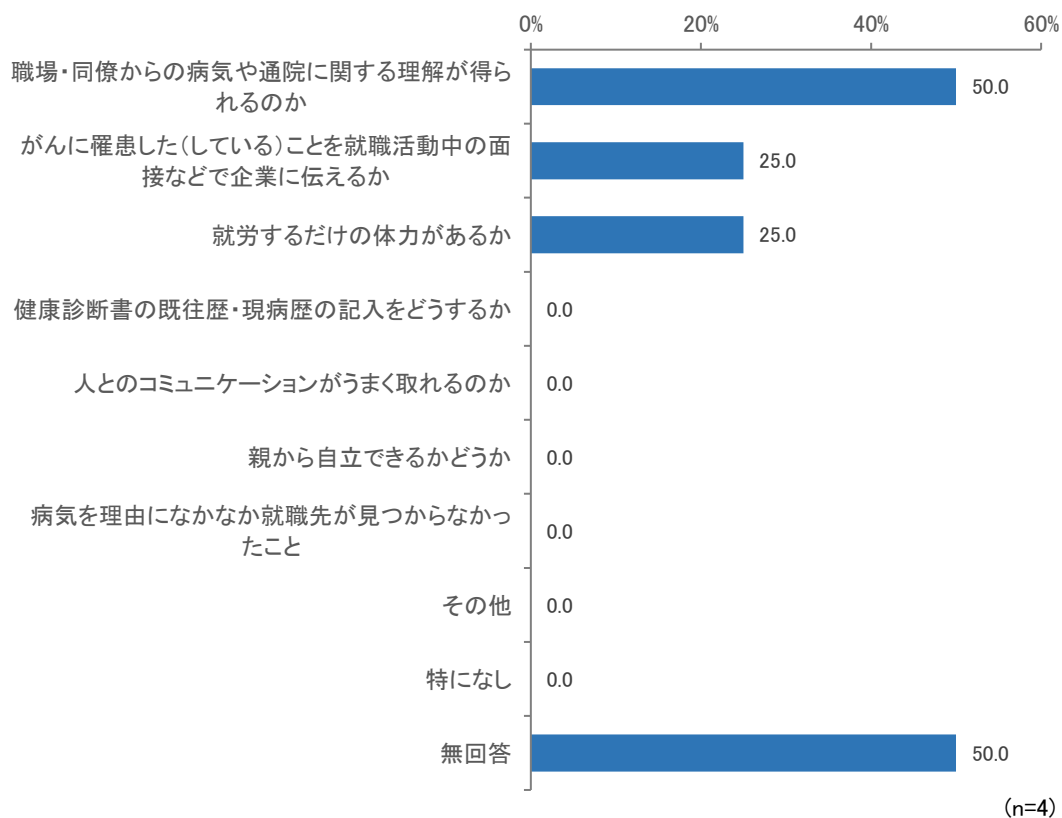
就職するにあたってどのようなことに困ったり、不安になりましたか。

（○はいくつでも）

就職前にがんの罹患が判明していた者（25歳以上40歳未満）のうち、現在、就労していると回答した4人に、就職するにあたって困ったり、不安になったことを尋ねたところ、「職場・同僚からの病気や通院に関する理解が得られるのか」が50.0%で最も多く、次いで「がんを罹患した（している）ことを就職活動中の面接などで企業に伝えるか」と「就労するだけの体力があるか」が25.0%であった。

ただし、回答者数が少ない点に留意する必要がある。

図表 79 就職するにあたって困ったり、不安になったこと（複数回答）



### 3) 就職後、就労を継続するにあたって困ったり、不安になったこと

《問59》【就職する前にがんの罹患が判った方に伺います】

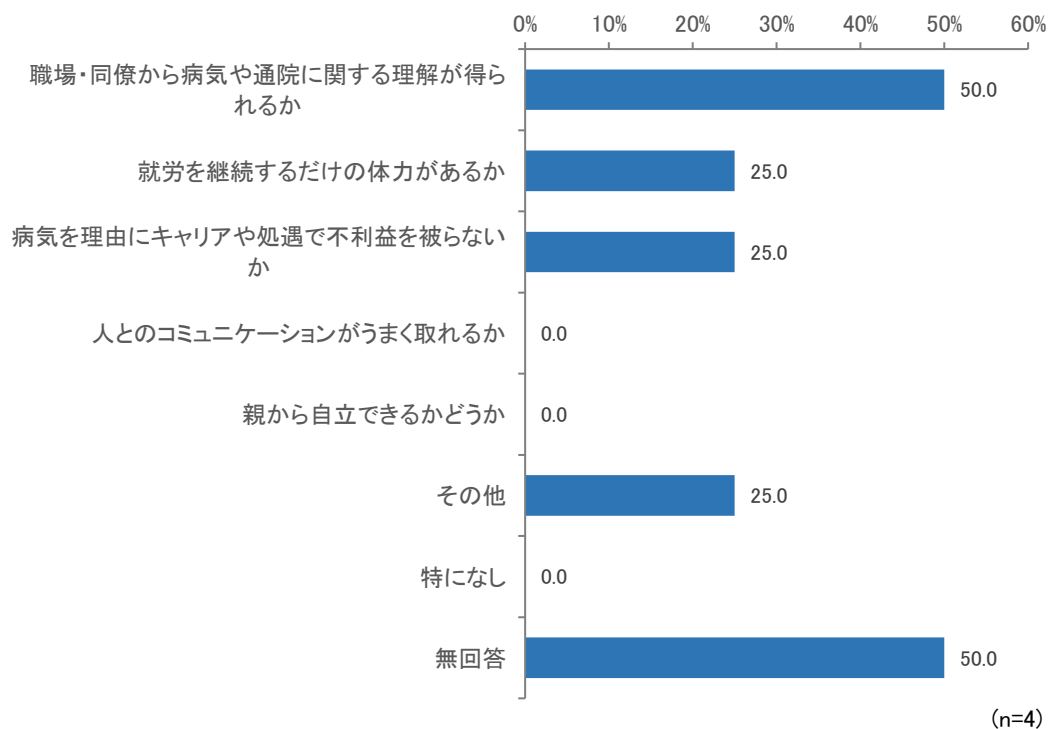
問57で「9. 仕事はしていない（無職）」以外を選んだ方に伺います。

就職後、就労を継続するにあたって、どのようなことに困ったり、不安になりましたか。（〇はいくつでも）

就職前にがんの罹患が判明していた者（25歳以上40歳未満）のうち、現在、就労していると回答した4人に、就職後、就労を継続するにあたって困ったり、不安になったことを尋ねたところ、「職場・同僚から病気や通院に関する理解が得られるか」が50.0%で最も多く、次いで「就労を継続するだけの体力があるか」と「病気を理由にキャリアや処遇で不利益を被らないか」が25.0%であった。

ただし、回答者数が少ない点に留意する必要がある。

図表 80 就職後、就労を継続するにあたって困ったり、不安になったこと（複数回答）



#### 「その他」の具体的内容

- 給与
- 脳に少しの不具合があること 等

## 9. 就職後のがん罹患が判明した患者の就労について

### 1) がんと診断されたときの就労状況

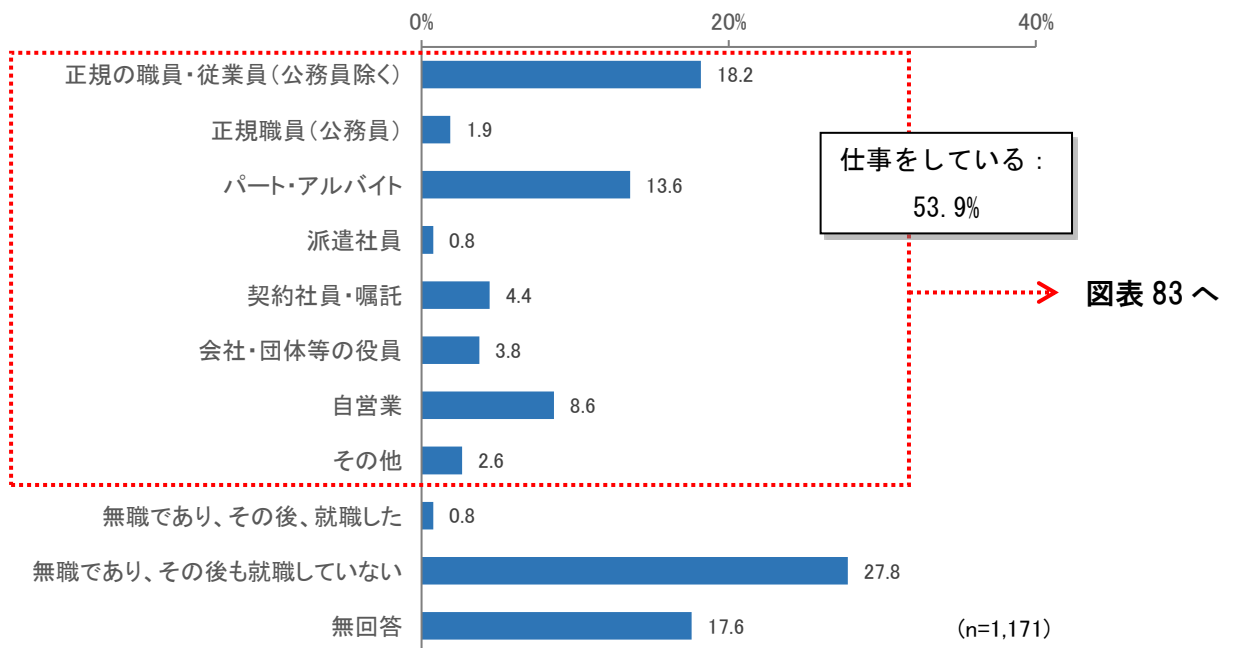
《問60》 (1) がんと診断されたときの就労状況を教えてください。(○は1つ)

(2) また、就労されていた場合、会社の正規職員数ほどのくらいの規模でしたか。(○は1つ)

就職後のがん罹患が判明した者(25歳以上)に、がんと診断されたときの就労状況を尋ねたところ、約半数が仕事に就いており、内訳としては「正規の職員・従業員(公務員除く)」18.2%、「パート・アルバイト」13.6%であった。

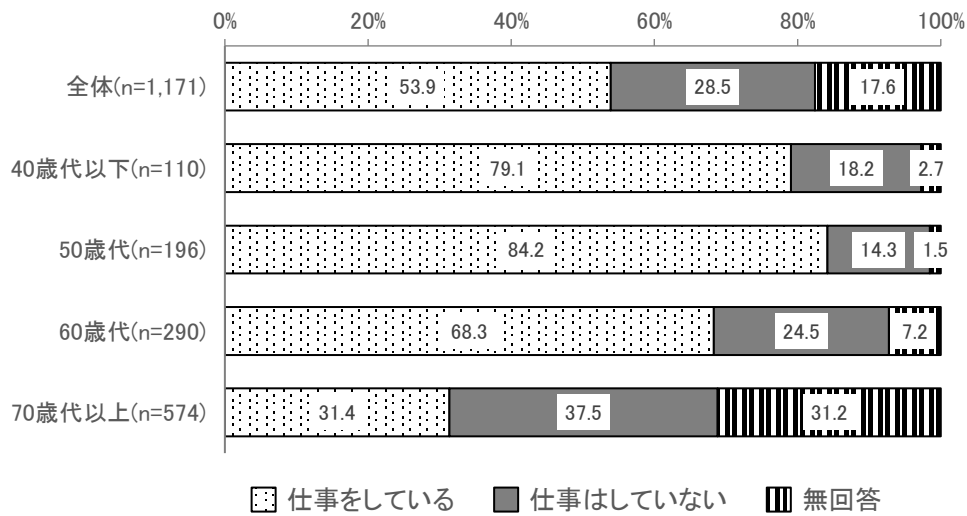
年齢階級別にみると、40代歳以下、50歳代では7割以上が何らかの仕事に就いていた。

図表 81 がん診断時の就労状況



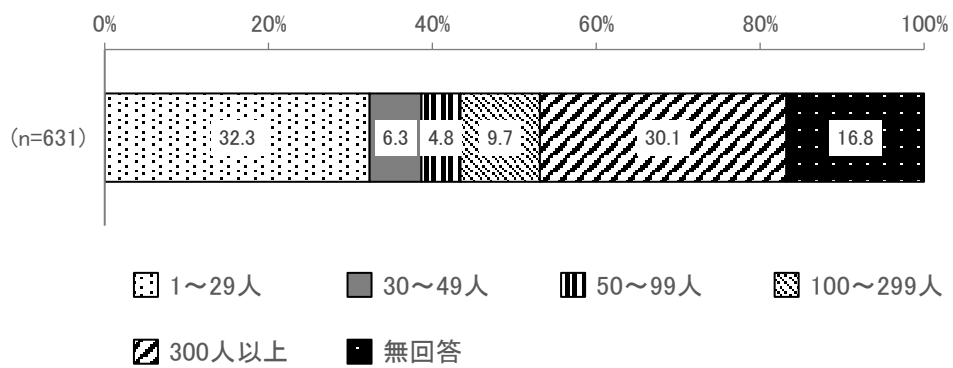
※ただし、無回答の206名の中には、就職前のがん罹患が判明した者が最大17名含まれている可能性がある。

図表 82 がん診断時の就労状況【年齢階級別】



仕事をしていると回答した 631 人の会社の正規職員数としては、「1～29 人」が 32.3% で最も多く、次いで「300 人以上」30.1%、「100～299 人」9.7%であった。

図表 83 働いていた会社の正規職員数



## 2) がん罹患後の就労状況

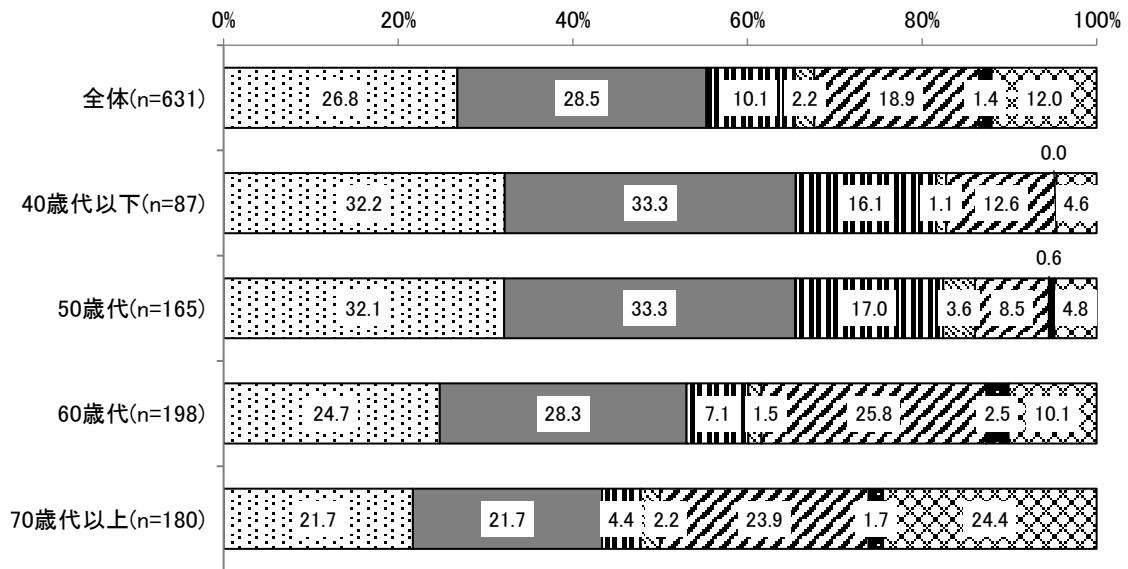
《問61》【就職後にがんの罹患が判った方に伺います】

がん罹患が分かった後の就労状況についてお答えください。(〇は1つ)

がんと診断されたときに就労していた631人に、がん罹患が分かった後の就労状況を尋ねたところ、「病気に伴う長期休暇をしながらも、復職・継続した」が28.5%で最も多く、次いで「有給休暇の範囲で休み、仕事を継続した」が26.8%、「退職し、その後再就職はしていない」が18.9%であった。

年齢階級別にみると、60歳代、70歳代以上では「退職し、その後再就職はしていない」と回答した者の割合がそれぞれ25.8%、23.9%と、他の年代に比べて高く、40歳代以下、50歳代では「有給休暇の範囲で休み、仕事を継続した」者の割合が30%を超えていた。

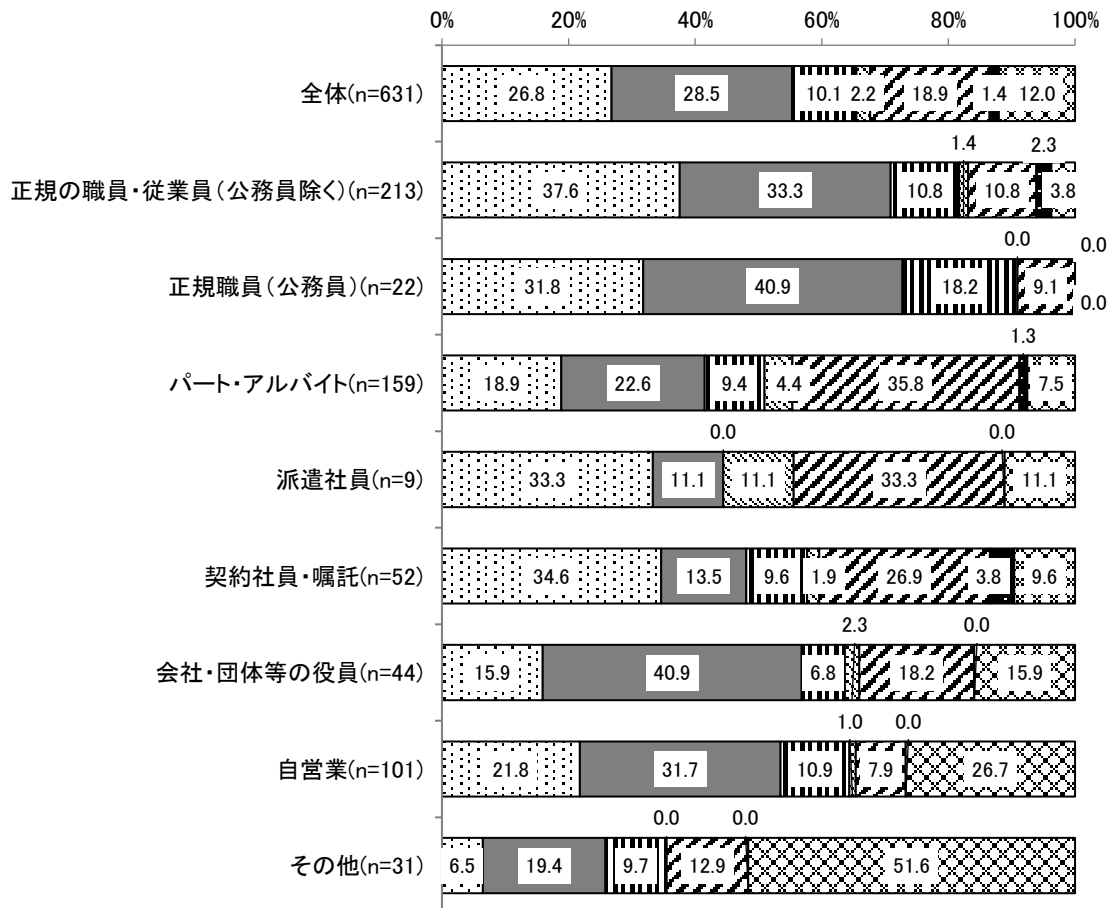
図表 84 がん罹患後の就労状況【年齢階級別】



- 有給休暇の範囲で休み、仕事を継続した
  - 病気に伴う長期休暇をしながらも、復職・継続した
  - 現在休暇中(復職予定)
  - 現在休暇中(退職予定)
  - 退職し、その後再就職はしていない
  - がん治療のため退職したが、別の会社に再就職した
  - 無回答
- 図表 88 へ
- 図表 87 へ

がん罹患後の就労状況について、がん診断時の就労状況別にみると、「退職し、その後再就職はしていない」と回答した者の割合は「パート・アルバイト」で35.8%と最も高く、次いで「派遣社員」で33.3%、「契約社員・嘱託」が26.9%であった。

図表 85 がん罹患後の就労状況【がん診断時の就労状況別】

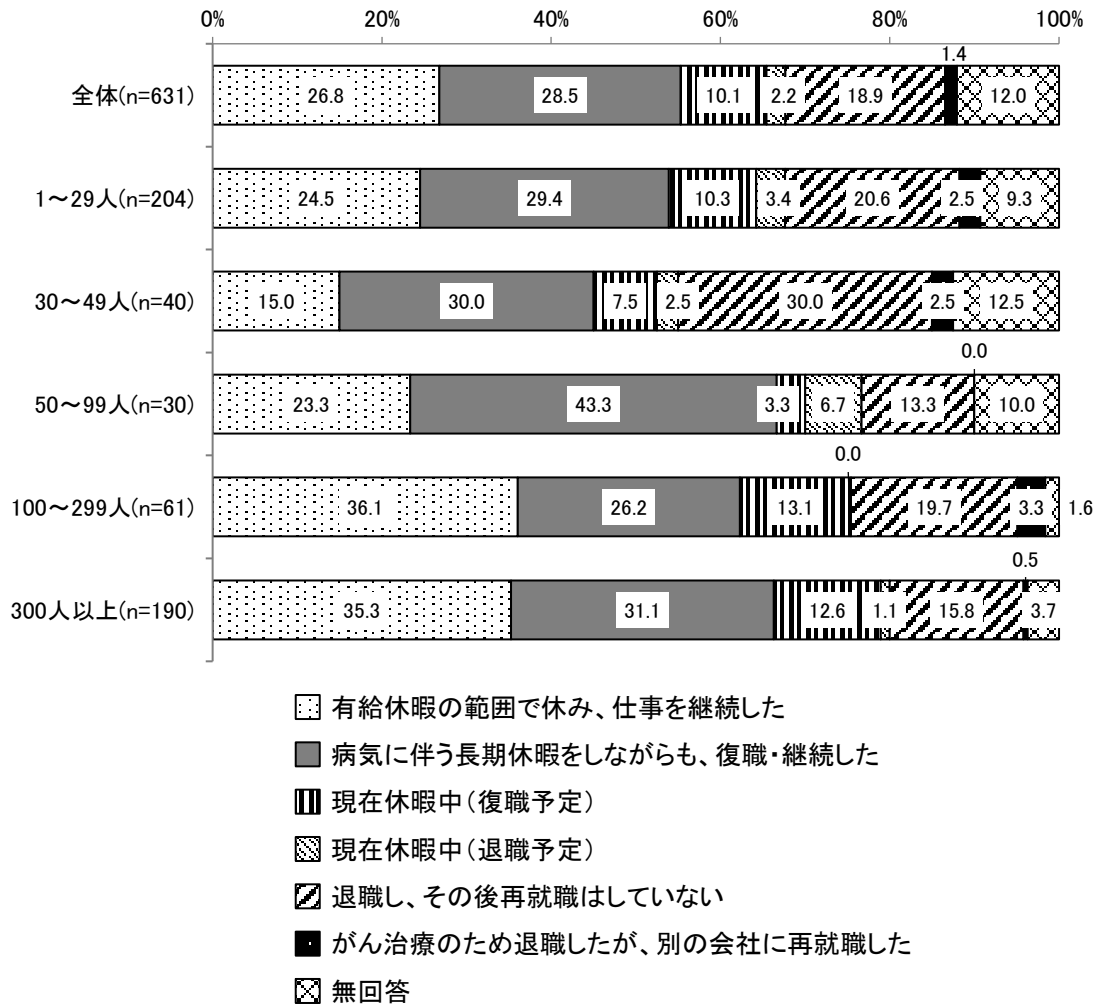


- 有給休暇の範囲で休み、仕事を継続した
- 病気に伴う長期休暇をしながらも、復職・継続した
- 現在休暇中(復職予定)
- 現在休暇中(退職予定)
- 退職し、その後再就職はしていない
- がん治療のため退職したが、別の会社に再就職した
- 無回答



がん罹患後の就労状況について、会社の正規職員数別にみると、「退職し、その後再就職はしていない」と回答した者の割合は「30～49人」で30.0%と最も高く、次いで「1～29人」で20.6%、「100～299人」で19.7%であった。

図表 86 がん罹患後の就労状況【正規職員数別】



### 3) 就労を継続できないと思った理由

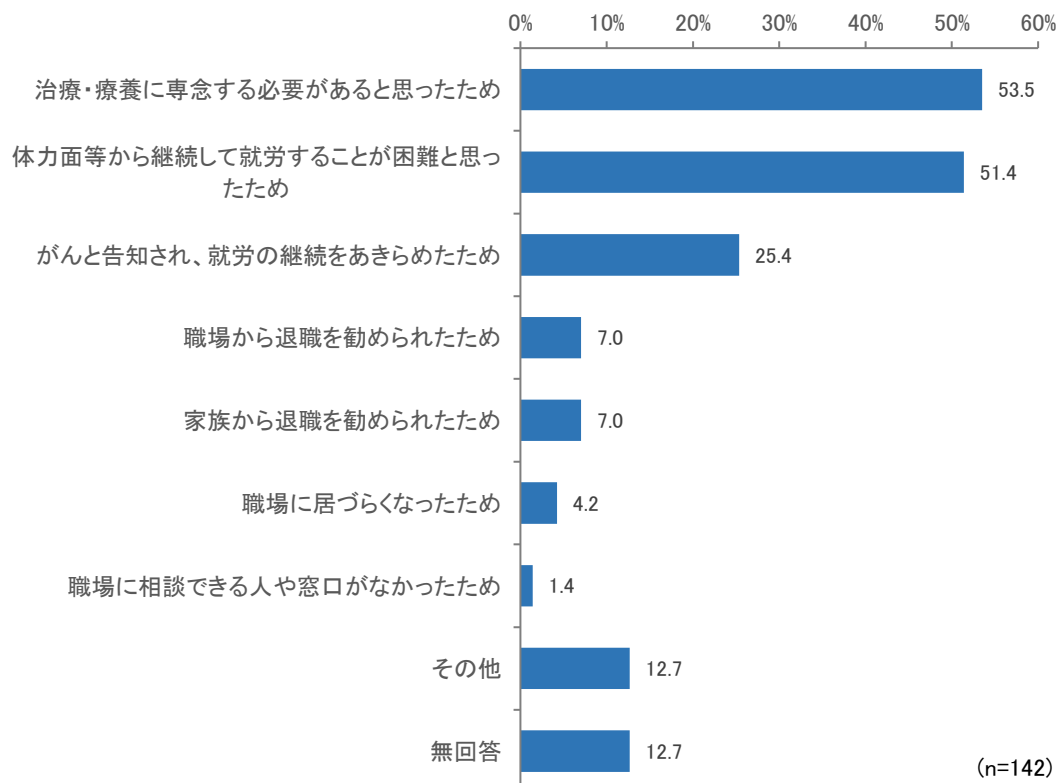
《問62》【就職後のがんの罹患が判った方に伺います】

問61で「4. 現在休暇中（退職予定）」「5. 退職し、その後再就職はしていない」または「6. がん治療のため退職したが、別の会社に再就職した」を選んだ方に伺います。

就労を継続できないと思ったのはなぜですか。（○は3つまで）

がん罹患が分かった後の就労状況で「現在休暇中（退職予定）」または「退職し、その後再就職はしていない」または「がん治療のため退職したが、別の会社に再就職した」と回答した142人に、就労を継続できないと思った理由を尋ねたところ、「治療・療養に専念する必要があると思ったため」が53.5%で最も多く、次いで「体力面等から継続して就労することが困難と思ったため」が51.4%、「がんと告知され、就労の継続をあきらめたため」が25.4%であった。

図表 87 就労を継続できないと思った理由（複数回答）



#### 「その他」の具体的内容

- 年齢と家族の看護のため
- 定年に近かったため
- 仕事を優先して治療に支障をきたすと思ったため 等

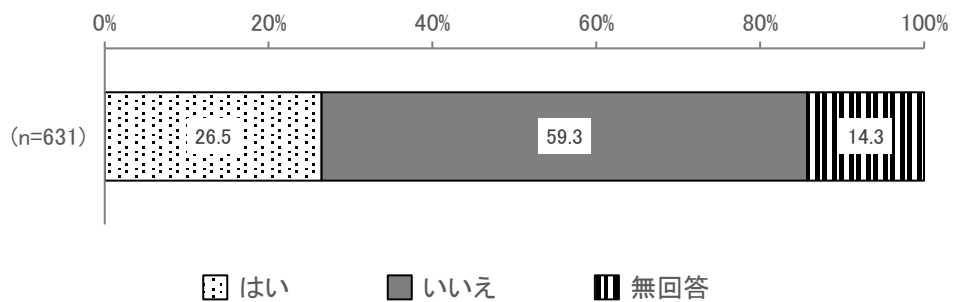
#### 4) 医療機関側からの就労に関する意向確認の有無

《問63》【就職後のがんの罹患が判った方に伺います】

がん罹患が分かった際に受診医療機関側（主治医、看護師等）から就労に関する意向（仕事を続けたいか辞めたいか）を確認されましたか。（○は1つ）

がんと診断されたときに就労していた631人に、医療機関側から就労に関する意向の確認があったかについて尋ねたところ、「確認はあった」が26.5%、「確認はなかった」が59.3%であった。

図表 88 医療機関側からの就労に関する意向確認の有無



## 5) 仕事を継続するために必要な医療機関側からの支援

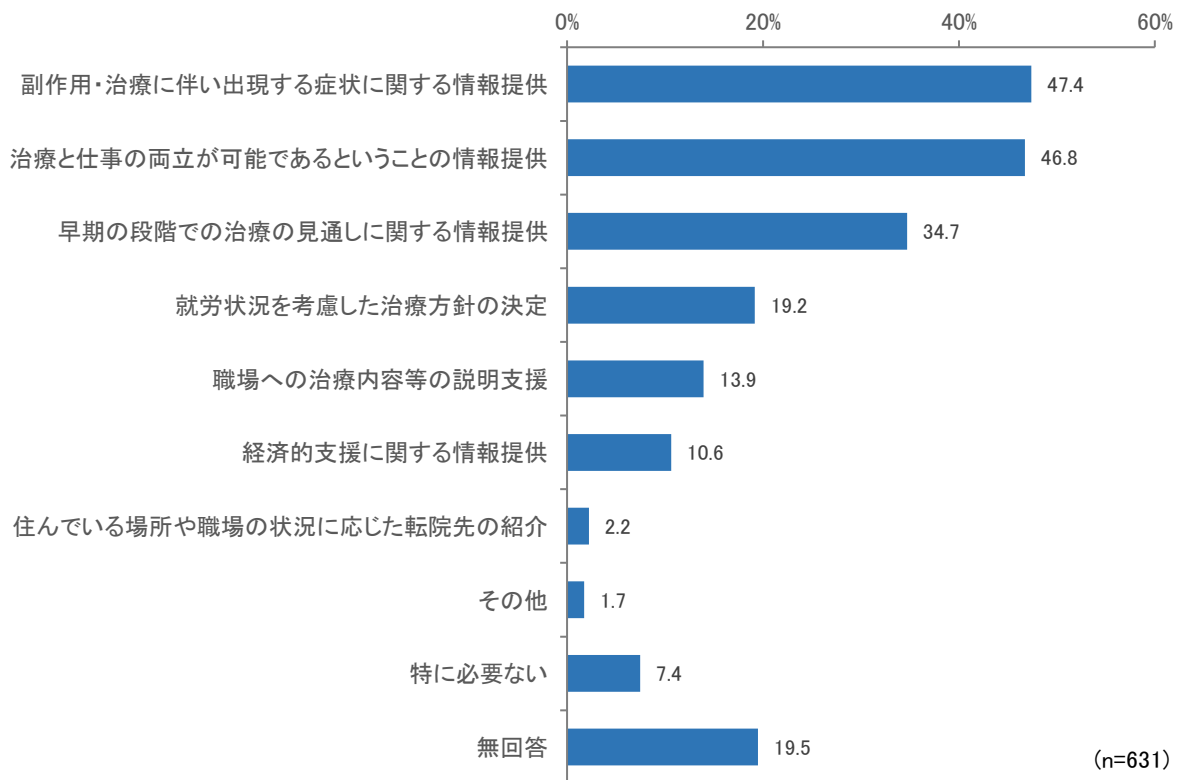
《問64》【就職後のがんの罹患が判った方に伺います】

治療を行いながら仕事を継続する（離職を避ける）ためには、医療機関側からどのような支援が必要であると思いますか。（〇は3つまで）

がんと診断されたときに就労していた631人に、治療を行いながら仕事を継続するために医療機関側からどのような支援が必要であるかを尋ねたところ、「副作用・治療に伴い出現する症状に関する情報提供」が47.4%で最も多く、次いで「治療と仕事の両立が可能であるということの情報提供」が46.8%、「早期の段階での治療の見通しに関する情報提供」が34.7%であった。

なお、「特に必要ない」と回答した者は7.4%であった。

図表 89 仕事を継続するために必要な医療機関側からの支援（複数回答：3つまで）



### 「その他」の具体的内容

- 就労するにあたっての注意点
- こんな症状が出たら休んだ方がよい等のアドバイス
- 治療と並行してどのような働き方をするかの提案 等

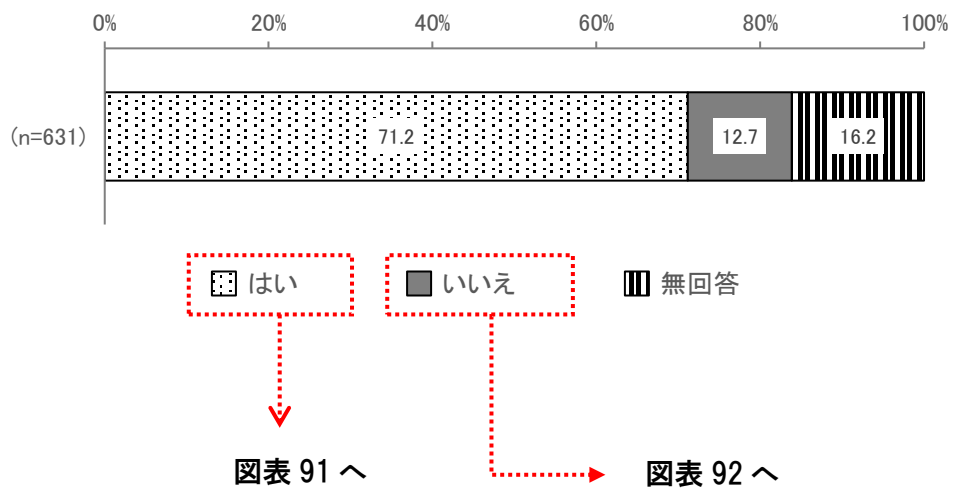
## 6) 職場等への相談・報告

《問65》【就職後のがんの罹患が判った方に伺います】

あなたは、がんが罹患したことについて、職場等に相談・報告しましたか。(○は1つ)

がんと診断されたときに就労していた631人に、がんが罹患したことを職場等に相談・報告をしたか尋ねたところ、「相談・報告をした」が71.2%で、7割以上が相談・報告をしたと回答した。一方で、「相談・報告をしなかった」は12.7%で、1割程度が相談・報告をしなかったと回答した。

図表 90 職場等への相談・報告



## 7) 相談・報告をした職場の相手

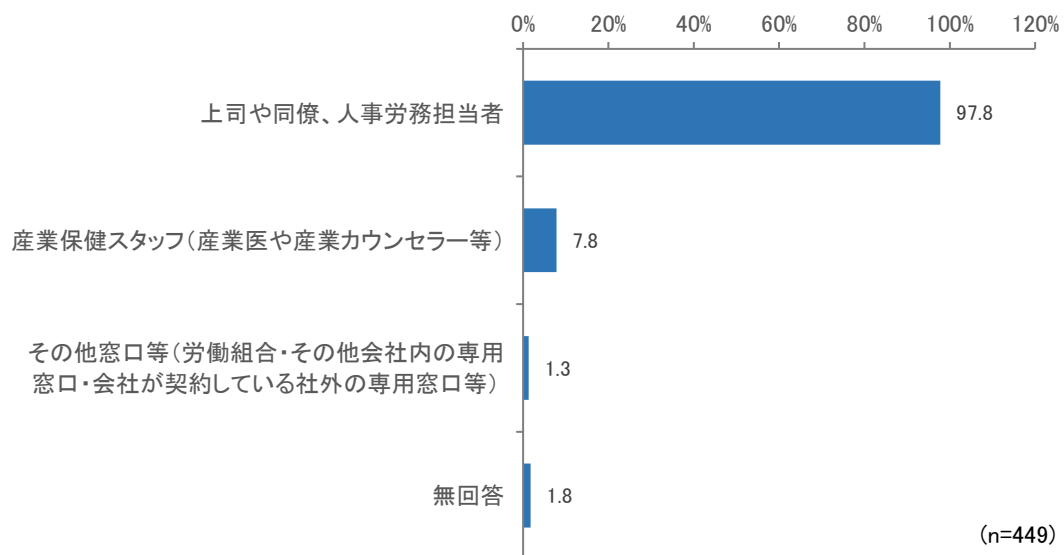
《問66》【就職後のがんの罹患が判った方に伺います】

問65で「1. はい」を選んだ方に伺います。

職場の誰に又はどこに相談や報告をしましたか。(〇はいくつでも)

がんに罹患したことを職場等に「相談・報告をした」449人に、相談・報告をした相手を尋ねたところ、「上司や同僚、人事労務担当者」が97.8%と最も多く、「産業保健スタッフ（産業医や産業カウンセラー等）」が7.8%、「その他窓口等（労働組合・その他会社内の専用窓口・会社が契約している社外の専用窓口等）」が1.3%であった。

図表 91 相談・報告をした職場の相手（複数回答）



## 8) 職場等へ相談・報告をしなかった理由

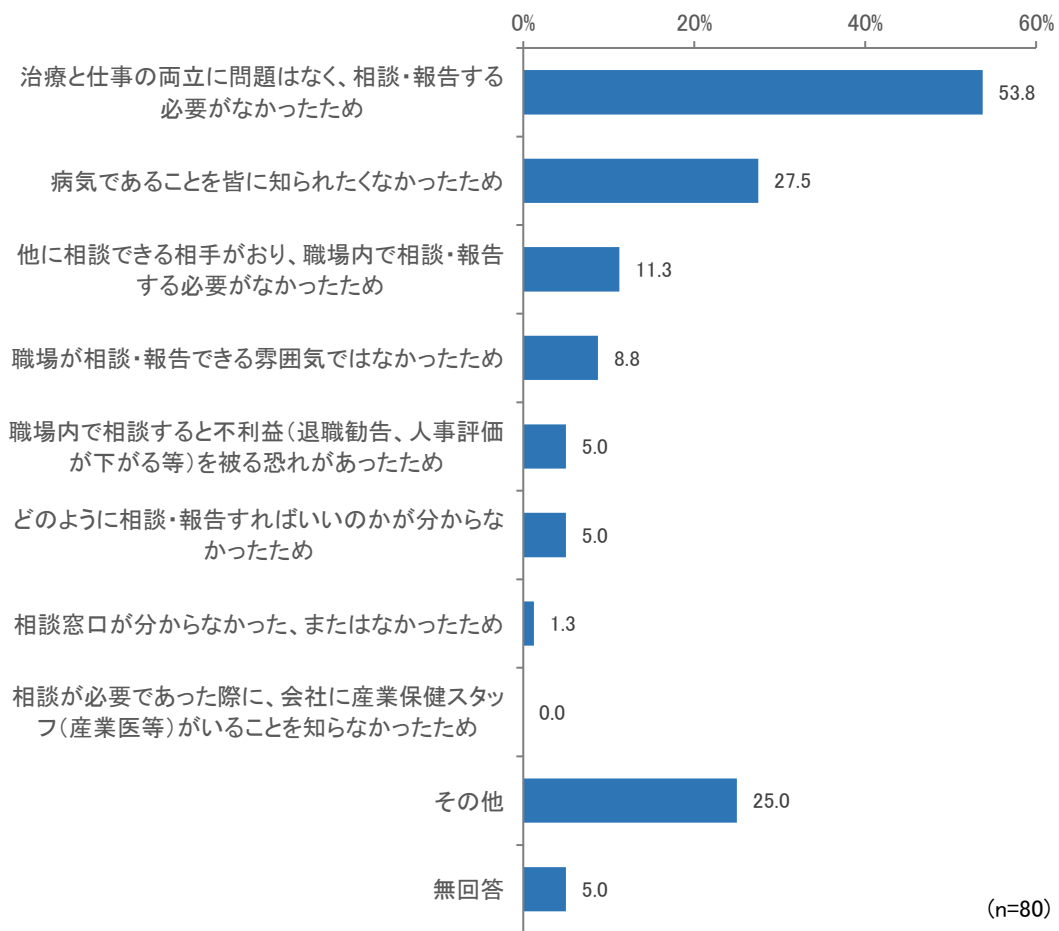
《問67》【就職後にがんの罹患が判った方に伺います】

問65で「2. いいえ」を選んだ方に伺います。

相談・報告しなかったのはなぜですか。(〇は3つまで)

がんを罹患したことを職場等に「相談・報告をしなかった」80人に、理由を尋ねたところ、「治療と仕事の両立に問題はなく、相談・報告する必要がなかったため」が53.8%で最も多く、次いで「病気であることを皆に知られなくなかったため」が27.5%、「他に相談できる相手があり、職場内で相談・報告する必要がなかったため」が11.3%であった。

図表 92 がんを罹患したことを相談・報告をしなかった理由（複数回答）



### 「その他」の具体的内容

- パートであったため
- 自営のため
- 退職することを決めていたから 等

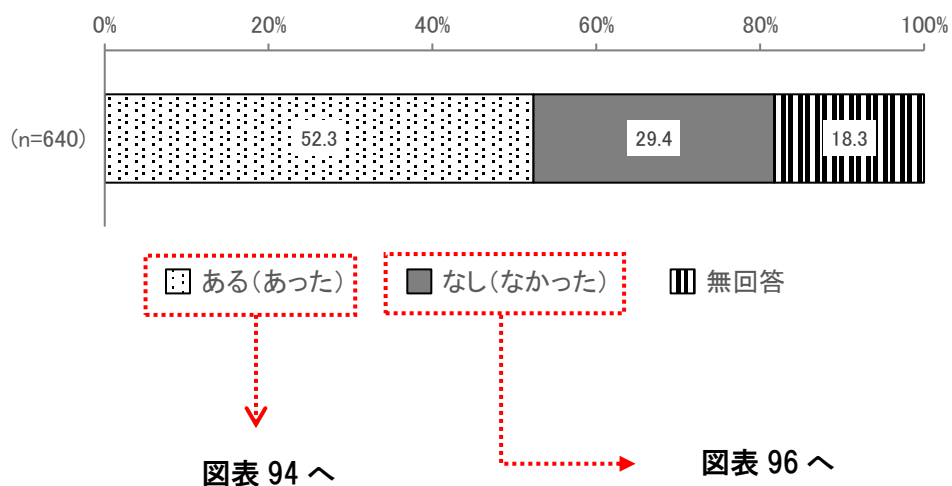
### 9) がんに罹患しても就労を続けられると思える方針や取組の有無

《問68》【がん罹患の判明時点で就労していた方、あるいは現在就労されている方に伺います】

あなたががんを罹患した際に働いていた職場では、がんを罹患しても就労を続けることができると思えるような方針が示されていたり、具体的な取組がなされていました/いますか。(○は1つ)

がんと診断されたときに就労していた640人に、働いていた職場では、がんを罹患しても就労を続けることができると思えるような方針が示されていたり、具体的な取組がなされていたか尋ねたところ、「方針や取組がある(あった)」が52.3%、「方針や取組がない(なかった)」が29.4%であった。

図表 93 がんに罹患しても就労を続けられると思える方針や取組の有無





## 10) 就労継続にあたり効果的であったと思えたもの

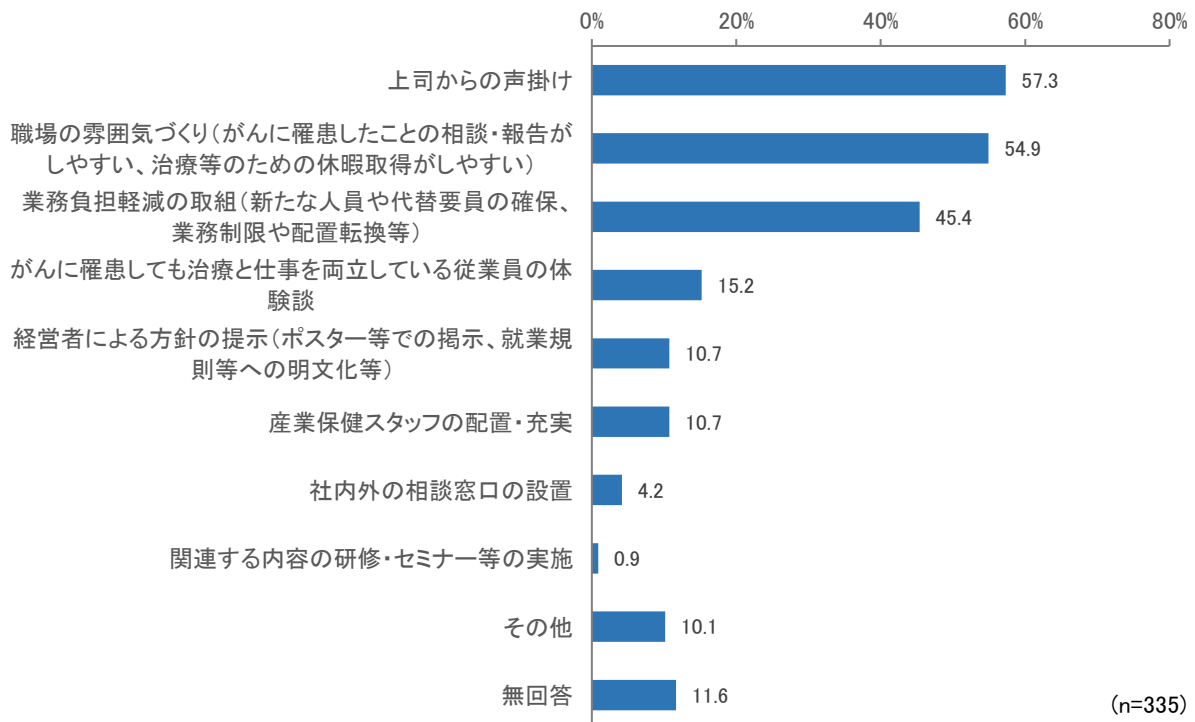
《問69》【がん罹患の判明時点で就労していた方、あるいは現在就労されている方に伺います】

問68で「1. ある(あった)」を選んだ方に伺います。

その中で就労継続にあたり効果的であったと思えたのはどのようなことですか。特に効果的だったと思われる選択肢から順に3つまで、「順位」欄に1→2→3と番号を記載してください。

がんに罹患した際に働いていた職場で、就労を続けることができると思えるような方針があったり取組がなされている(いた)と回答した335人に、就労継続にあたり効果的であったと思えたものを順に1位から3位まで3つ尋ねたところ、「上司からの声掛け」が57.3%で最も多く、次いで「職場の雰囲気づくり(がんに罹患したことの相談・報告がしやすい、治療等のための休暇取得がしやすい)」が54.9%、「業務負担軽減の取組(新たな人員や代替要員の確保、業務制限や配置転換等)」が45.4%であった。

図表 94 就労継続にあたり効果的であったと思えたもの(複数回答: 3つまで)

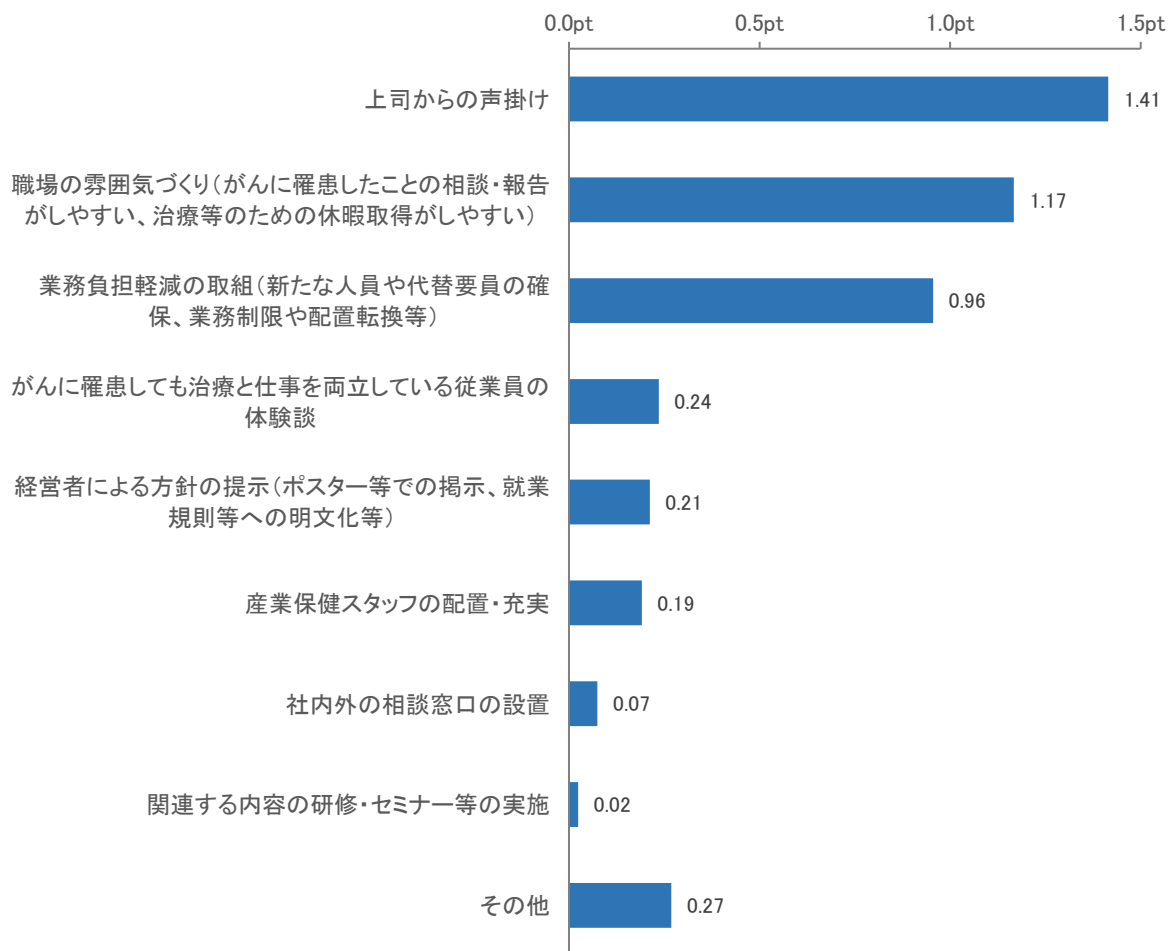


「その他」の具体的内容

- 仕事関係の方々の応援
- 労働組合の存在
- リモートワーク環境の整備 等

1位と回答したものを3pt、2位と回答したものを2pt、3位と回答したものを1ptとして重み付けし、平均値を算出した。数値が大きいほど、就労継続に効果的であったと考えられる。その結果、「上司からの声掛け」が1.41ptで最も多く、次いで「職場の雰囲気づくり(がんに罹患したことの相談・報告がしやすい、治療等のための休暇取得がしやすい)」が1.17pt、「業務負担軽減の取組(新たな人員や代替要員の確保、業務制限や配置転換等)」が0.96ptであった。

図表 95 就労継続にあたり効果的であったと思えたもの(重み付け)



(n=335)

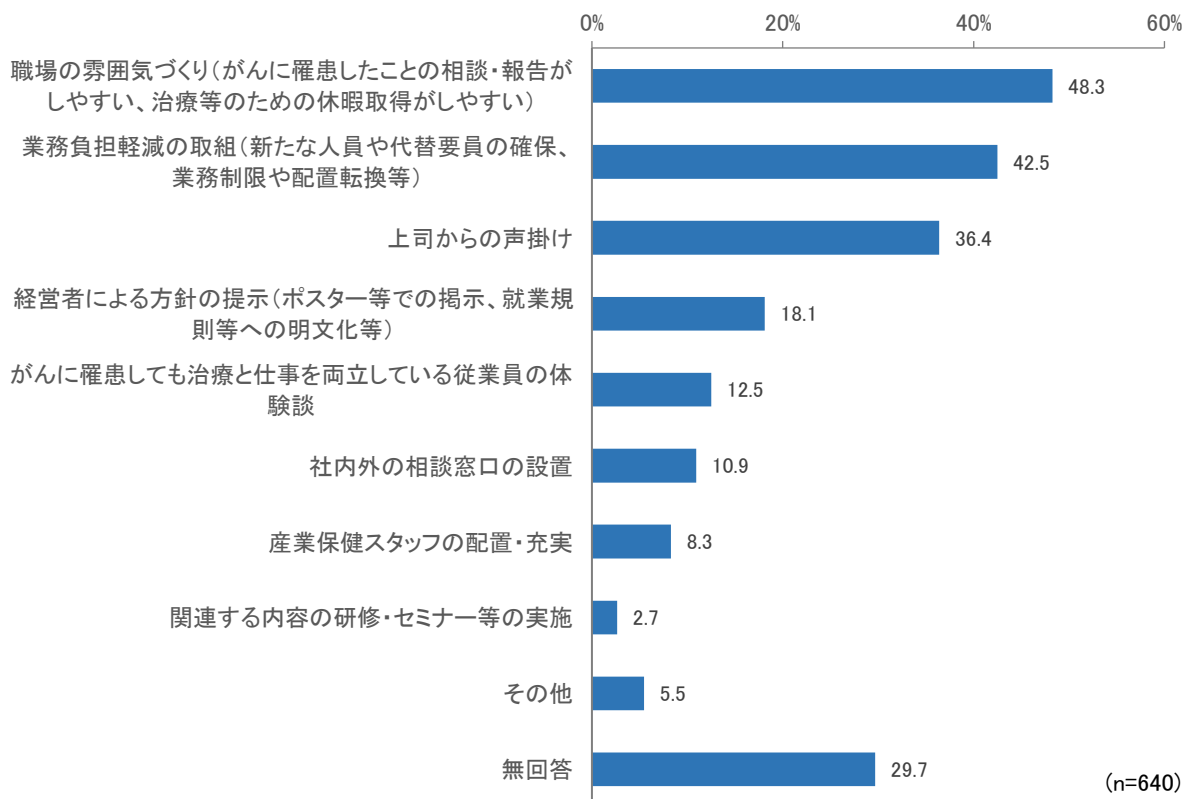
### 11) 就労継続にあたり必要とされる支援や条件

《問70》【がん罹患の判明時点で就労していた方、あるいは現在就労されている方に伺います】

治療を行いながら仕事を継続する（離職を避ける）ためには、職場側からどのような支援／条件が必要だと思いますか。特に必要だと思われる選択肢から順に3つまで、「順位」欄に1→2→3と番号を記載してください。

がんと診断されたときに就労していた640人に、治療を行いながら仕事を継続する（離職を避ける）ために必要な職場からの支援／条件について、順に1位から3位まで3つ尋ねたところ、「職場の雰囲気づくり（がんに罹患したことの相談・報告がしやすい、治療等のための休暇取得がしやすい）」が48.3%で最も多く、次いで「業務負担軽減の取組（新たな人員や代替要員の確保、業務制限や配置転換等）」が42.5%、「上司からの声掛け」が36.4%であった。

図表 96 就労継続にあたり必要とされる支援や条件（複数回答：3つまで）

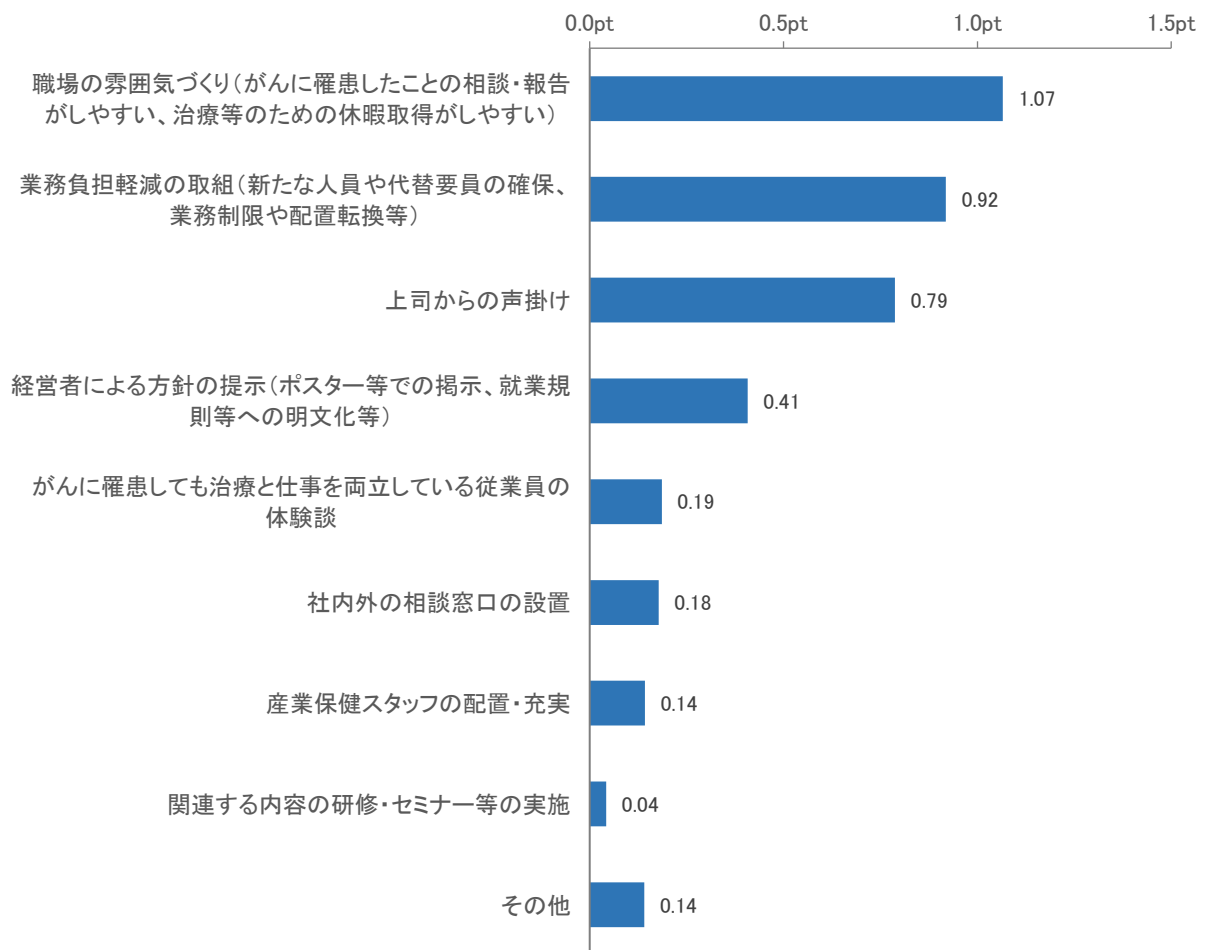


#### 「その他」の具体的内容

- 療養休暇制度、半日休暇、休日出勤、リモート勤務の充実
- 時間単位の休暇、通院時の離席
- 罹患前と変わらない接し方 等

就労継続にあたり必要とされる支援や条件を重み付けしてみると、「職場の雰囲気づくり（がんに罹患したことの相談・報告がしやすい、治療等のための休暇取得がしやすい）」が1.07ptで最も多く、次いで「業務負担軽減の取組（新たな人員や代替要員の確保、業務制限や配置転換等）」が0.92pt、「上司からの声掛け」が0.79ptであった。

図表 97 就労継続にあたり必要とされる支援や条件（重み付け）



(n=640)

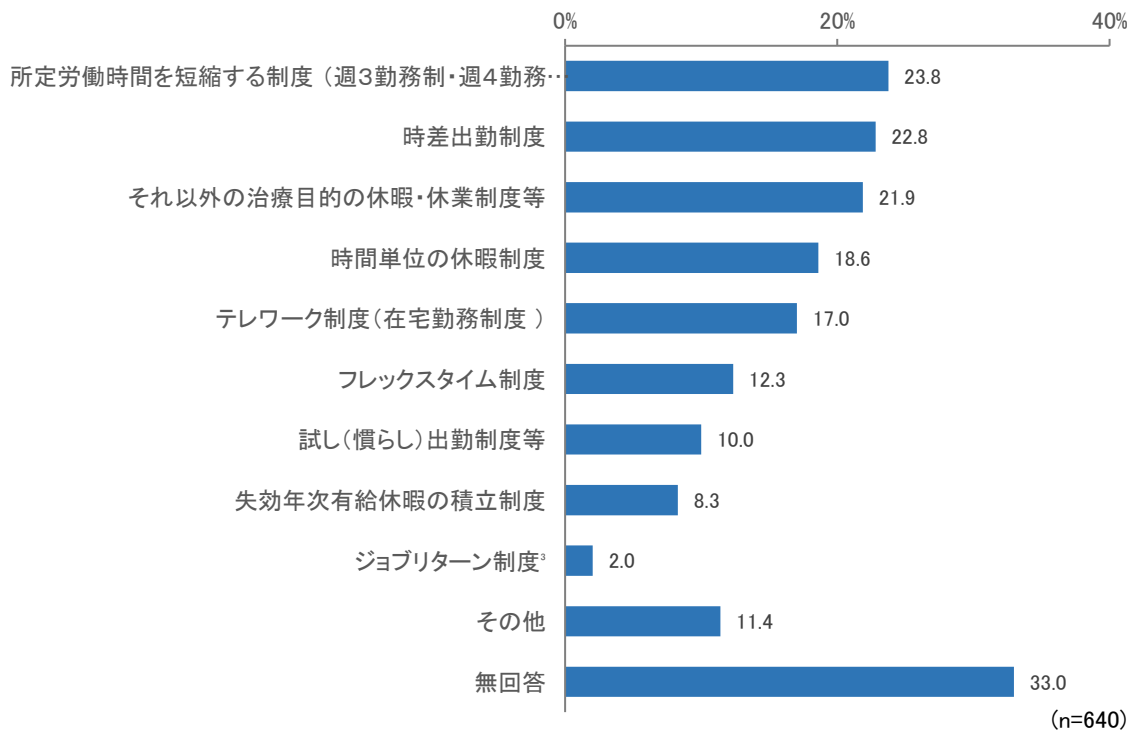
## 12) がんに罹患した際に利用可能だった制度

《問71》【がん罹患の判明時点で就労していた方、あるいは現在就労されている方に伺います】

あなたががんに罹患した際に働いていた職場では、治療にあたり、どのような制度の利用が可能でした／ですか。(〇はいくつでも)

がんと診断されたときに就労していた640人に、がんに罹患した際に働いていた職場で治療にあたり利用可能であった制度を尋ねたところ、「所定労働時間を短縮する制度（週3勤務制・週4勤務制を含む）」が23.8%で最も多く、次いで「時差出勤制度」が22.8%、「それ以外の治療目的の休暇・休業制度等」が21.9%であった。

図表 98 がんに罹患した際に利用可能だった制度（複数回答）



### 「その他」の具体的内容

- 長期休暇
- 勤務中の治療の容認
- 通院後に出勤するなどの離席 等

<sup>3</sup> ジョブリターン制度：結婚・配偶者の転勤・妊娠・出産・育児または介護等を理由に退職した方が、退職前の会社に復帰できる制度のこと（職場によって、名称は異なる可能性があります）。

13) 就労継続にあたり効果的だった制度／あれば利用したい制度

《問72》【がん罹患の判明時点で就労していた方、あるいは現在就労されている方に伺います】

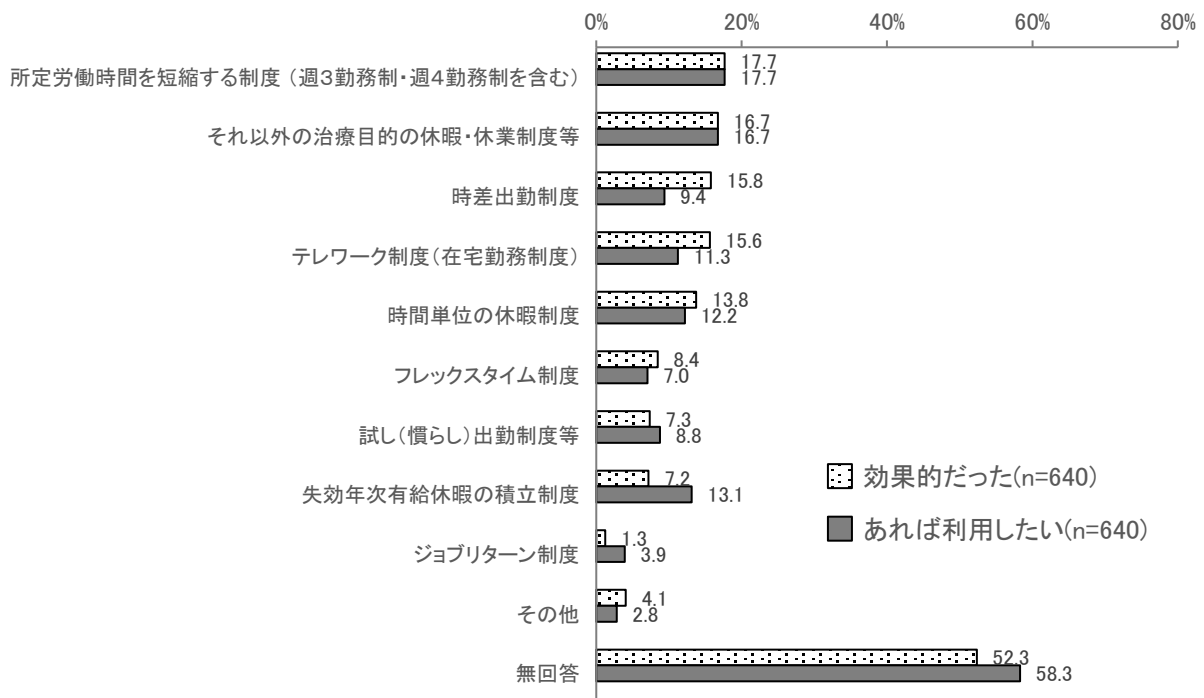
利用が可能であった/可能な制度のうち、効果的だと感じたものはどれですか。特に効果的だった/であると思われる選択肢から順に3つまで、「順位」欄に1→2→3と番号を記載してください。

また、あれば利用したいと思う制度としてどのようなものがありますか。特に利用を希望する選択肢から順に3つまで、「順位」欄に1→2→3と番号を記載してください。

がんと診断されたときに就労していた640人に、就労継続にあたり効果的だった制度を順に1位から3位まで3つ尋ねたところ、「所定労働時間を短縮する制度（週3勤務制・週4勤務制を含む）」が17.7%で最も多く、次いで「それ以外の治療目的の休暇・休業制度等」が16.7%、「時差出勤制度」が15.8%であった。

また、あれば利用したい制度は、「所定労働時間を短縮する制度（週3勤務制・週4勤務制を含む）」が17.7%で最も多く、次いで「それ以外の治療目的の休暇・休業制度等」が16.7%、「失効年次有給休暇の積立制度」が13.1%であった。

図表 99 就労継続にあたり効果的だった制度／あれば利用したい制度（複数回答：3つまで）



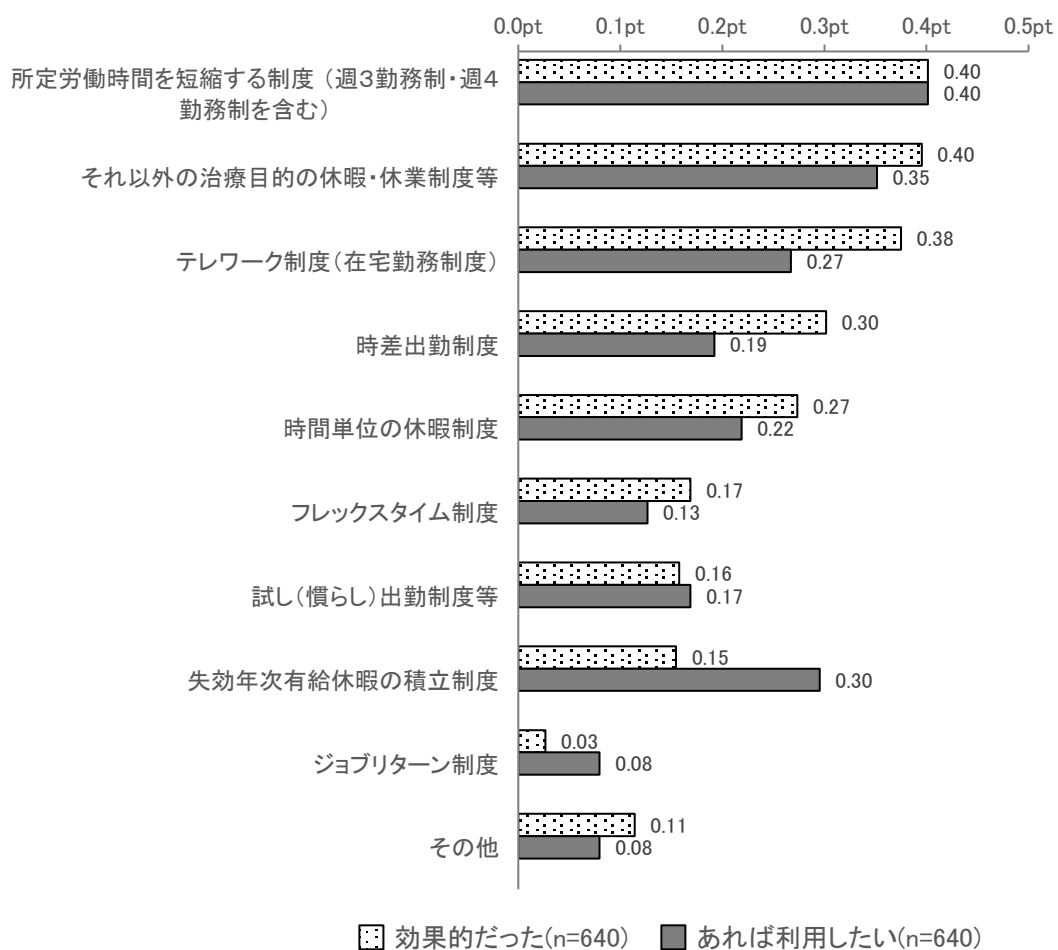
「その他」の具体的内容

- 自営業のため特にない 等

就労継続にあたり効果的だった制度を重み付けしてみると、「所定労働時間を短縮する制度（週3勤務制・週4勤務制を含む）」と「それ以外の治療目的の休暇・休業制度等」が0.40ptで最も多く、次いで「テレワーク制度（在宅勤務制度）」が0.38ptであった。

また、あれば利用したい制度を重み付けしてみると、「所定労働時間を短縮する制度（週3勤務制・週4勤務制を含む）」が0.40ptで最も多く、次いで「それ以外の治療目的の休暇・休業制度等」が0.35pt、「失効年次有給休暇の積立制度」が0.30ptであった。

図表 100 就労継続にあたり効果的だった制度／あれば利用したい制度（重み付け）



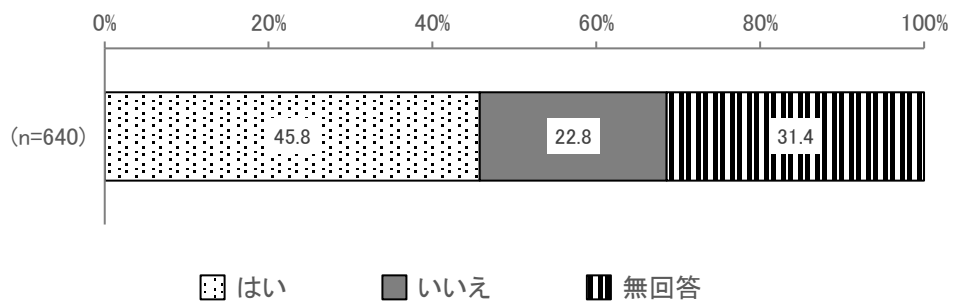
#### 14) 業務負担を軽減するための配慮の有無

《問73》【がん罹患の判明時点で就労していた方、あるいは現在就労されている方に伺います】

がんに罹患した後、あなたの業務負担を軽減するために行われた配慮はありましたか。(○は1つ)

がんと診断されたときに就労していた640人に、がん罹患後に業務負担を軽減するための配慮があったかを尋ねたところ、「配慮があった」が45.8%、「配慮はなかった」が22.8%であった。

図表 101 業務負担を軽減するための配慮の有無





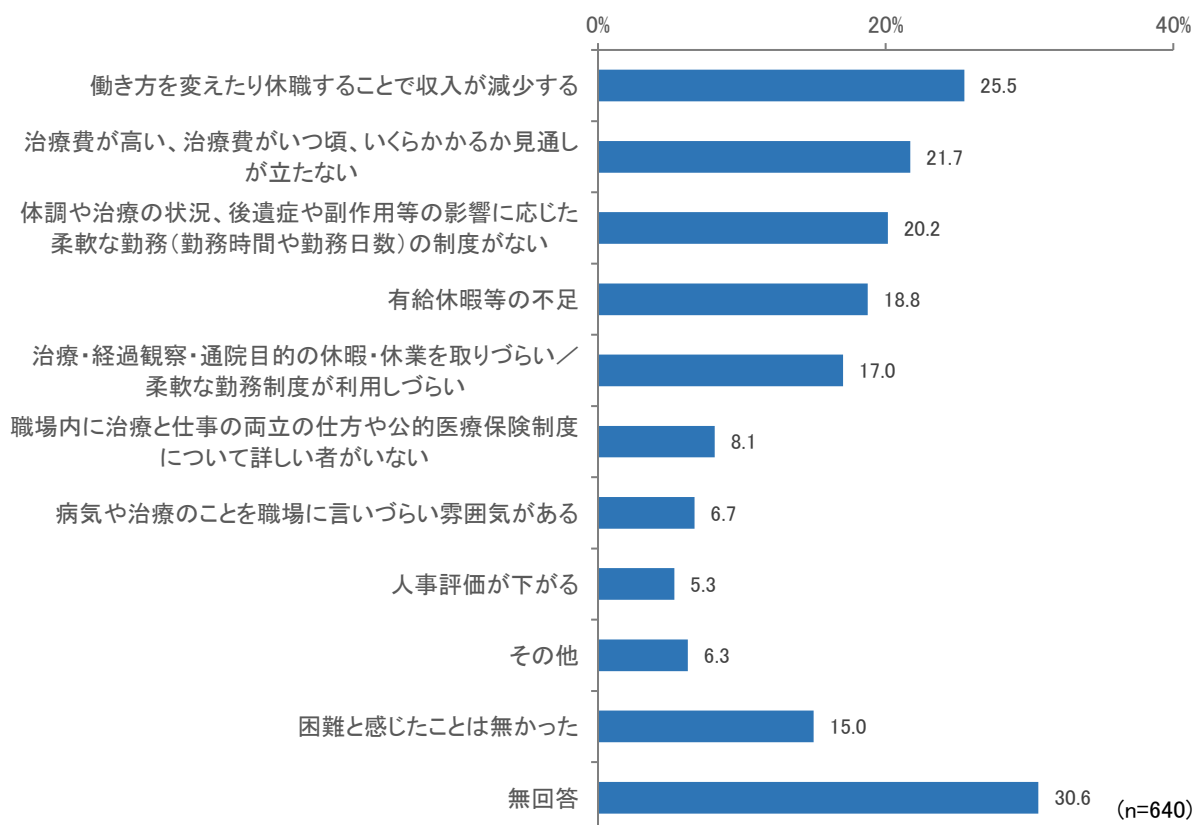
### 15) 治療と仕事の両立において困難だったこと

《問74》【がん罹患の判明時点で就労していた方、あるいは現在就労されている方に伺います】

がんに罹患後、治療と仕事の両立において困難であったことは何ですか。特に困難であったと思われる選択肢から順に3つまで、「順位」欄に1→2→3と番号を記載してください。

がんと診断されたときに就労していた640人に、治療と仕事の両立において困難だったことを順に1位から3位まで3つ尋ねたところ、「働き方を変えたり休職することで収入が減少する」が25.5%で最も多く、次いで「治療費が高い、治療費がいつ頃、いくらかかるか見通しが立たない」が21.7%、「体調や治療の状況、後遺症や副作用等の影響に応じた柔軟な勤務（勤務時間や勤務日数）の制度がない」が20.2%であった。なお、「困難と感じたことは無かった」と回答した者は15.0%であった。

図表 102 治療と仕事の両立において困難だったこと（複数回答：3つまで）

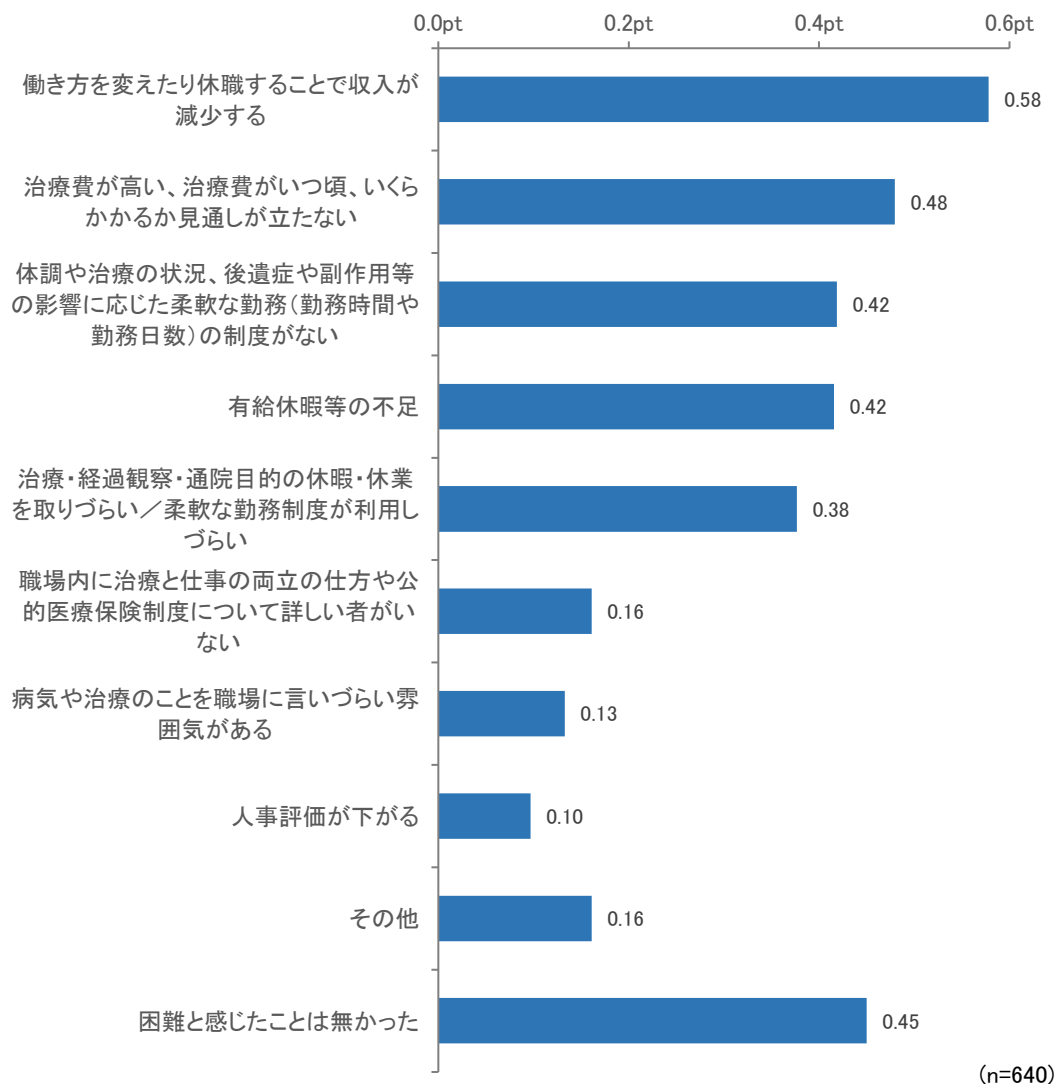


#### 「その他」の具体的内容

- 正規雇用ではないので治療費が負担である、遠距離出張が体力面で困難 等

治療と仕事の両立において困難だったことを重み付けしてみると、「働き方を変えたり休職することで収入が減少する」が 0.58pt で最も多く、次いで「治療費が高い、治療費がいつ頃、いくらかかるか見通しが立たない」が 0.48pt、「体調や治療の状況、後遺症や副作用等の影響に応じた柔軟な勤務（勤務時間や勤務日数）の制度がない」と「有給休暇等の不足」が 0.42pt であった。

図表 103 がん罹患後に治療と仕事の両立において困難だったこと（重み付け）



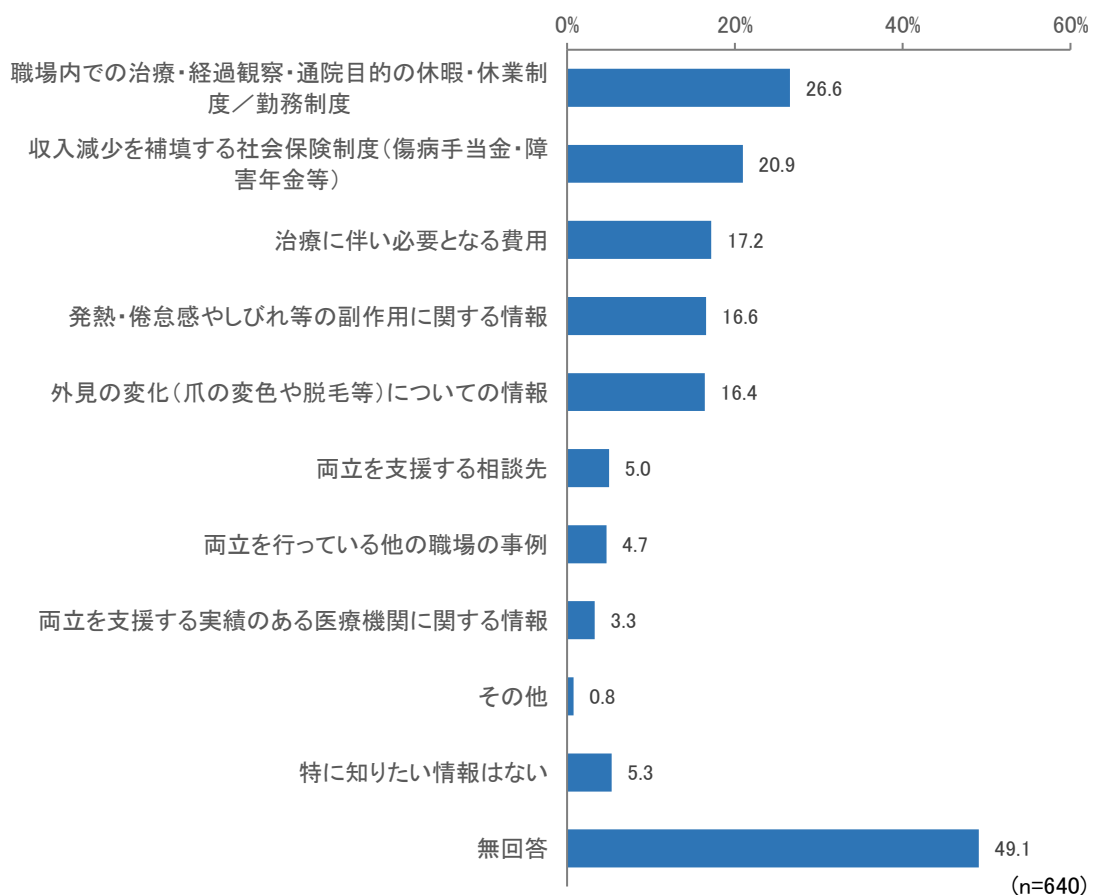
## 16) がんの治療と仕事を両立するにあたり、得られている情報

《問75》【がん罹患の判明時点で就労していた方、あるいは現在就労されている方に伺います】

がんの治療と仕事を両立するにあたり、以下の情報を十分に得ることができていますか。(〇はいくつでも)

がんと診断されたときに就労していた 640 人に、がんの治療と仕事を両立するにあたり、十分に得られていた情報を尋ねたところ、「職場内での治療・経過観察・通院目的の休暇・休業制度／勤務制度」が 26.6%で最も多く、次いで「収入減少を補填する社会保険制度(傷病手当金・障害年金等)」が 20.9%、「治療に伴い必要となる費用」が 17.2%であった。

図表 104 がんの治療と仕事を両立するにあたり、得られている情報（複数回答）



「その他」の具体的内容

- 小さい職場のため制度ではなく個別の相談となる 等

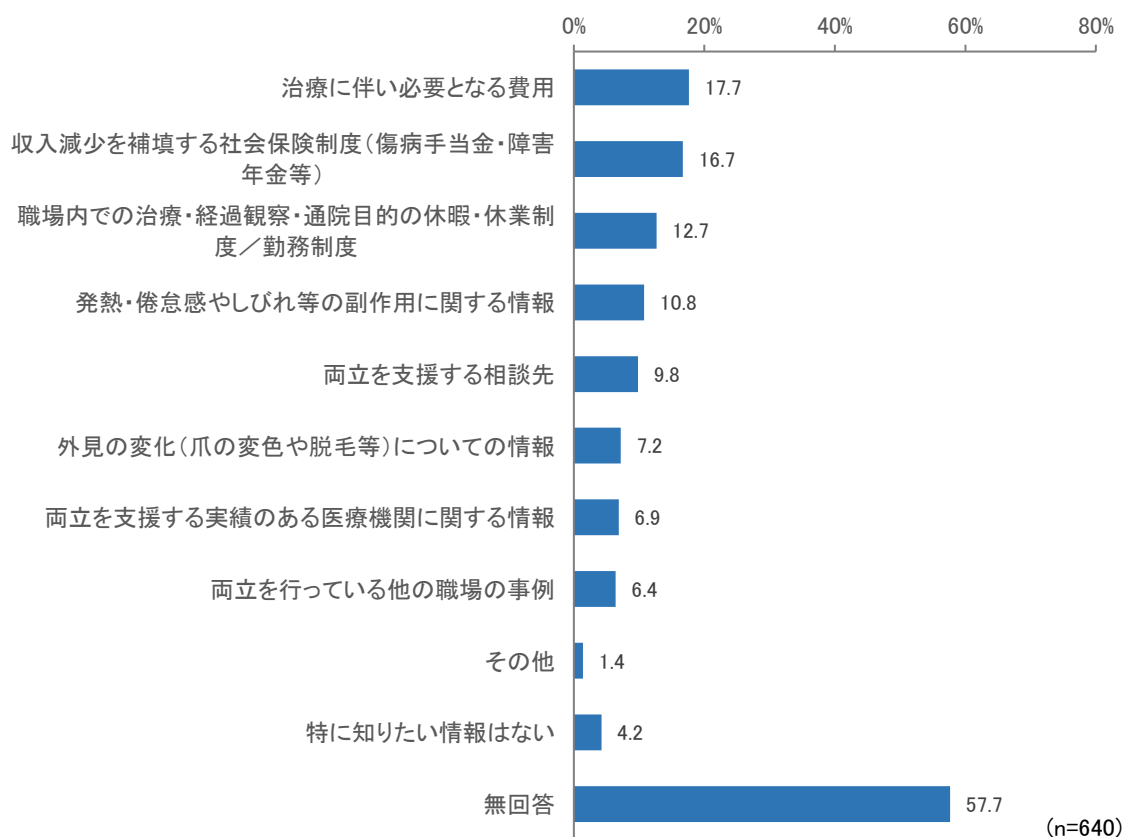
## 17) がんの治療と仕事を両立するにあたり、知りたい情報

《問75》【がん罹患の判明時点で就労していた方、あるいは現在就労されている方に伺います】

また、もっと知りたい情報は何ですか。特に知りたい選択肢から順に3つまで、「知りたい情報」欄に1→2→3と番号を記載してください。

がんと診断されたときに就労していた640人に、がんの治療と仕事を両立するにあたり、特に知りたい情報を順に1位から3位まで3つ尋ねたところ、「治療に伴い必要となる費用」が17.7%で最も多く、次いで「収入減少を補填する社会保険制度（傷病手当金・障害年金等）」が16.7%、「職場内での治療・経過観察・通院目的の休暇・休業制度／勤務制度」が12.7%であった。また、「特に知りたい情報はない」は4.2%であった。

図表 105 がんの治療と仕事を両立するにあたり、知りたい情報（複数回答：3つまで）

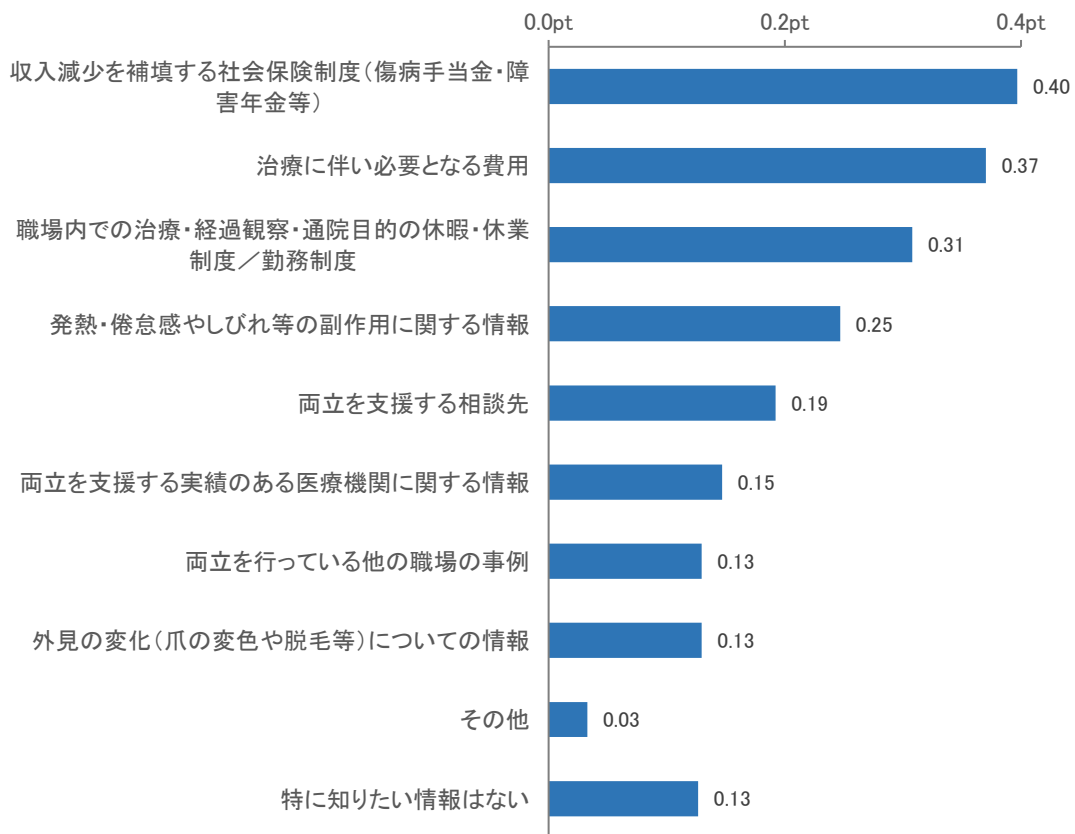


「その他」の具体的内容

- リンパ浮腫に対応する医療機関の情報 等

がんと診断されたときに就労していた 640 人に、がんの治療と仕事を両立するにあたり、特に知りたい情報を重み付けしてみると、「収入減少を補填する社会保険制度（傷病手当金・障害年金等）」が 0.40pt で最も多く、次いで「治療に伴い必要となる費用」が 0.37pt、「職場内での治療・経過観察・通院目的の休暇・休業制度／勤務制度」が 0.31pt であった。

図表 106 がんの治療と仕事を両立するにあたり、知りたい情報（重み付け）



(n=640)

## 18) がんの治療と仕事を両立するにあたり、困っていること、対応が必要なこと

《問76》【がん罹患の判明時点で就労していた方、あるいは現在就労されている方に伺います】

がんの治療と仕事を両立するにあたり、対応において困っていること、対応が必要なことなどがありましたら、ご自由にご記入ください。

がんの治療と仕事を両立するにあたり、対応に困っていること、対応が必要なこととして、次のような内容について意見が挙げられた。

治療の見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>治療の方向性がわかるまで今後の計画が立てにくい</li> <li>いつまで治療が続くか不明</li> <li>仕事を両立するというより、身体的に日常生活が健常者レベルに戻らない可能性もあるということ</li> <li>現在、入院中だが退院後どのくらいの期間で現場復帰できるか目処が立たない</li> <li>おおまかな治療に必要な期間が示されれば、休暇も取りやすく、気持ちの整理にもなる 等</li> </ul>
治療・症状による影響、見た目の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>周期的に下痢がひどく朝から出社するのが難しい</li> <li>休職後は、出勤数を減らしました。下肢のしびれとはばったさが化学療法後にあり、現在も持続している</li> <li>体力・気力の低下により思うように仕事ができない</li> <li>髪が抜けたり外見が変わることで、仕事に行きたいが気にして行きづらかった 等</li> </ul>
体調・通院と仕事の調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>体調に応じた仕事量の調整は難しい</li> <li>体調が悪い時などの、急な休みが難しい</li> <li>治療のための通院日に、変更できない用件が重なった際に、やり繰りに苦労する</li> <li>パートでシフト制だと体調が悪くても休みは取りづらい</li> <li>治療日時予約と業務上日程調整の困難さが難しい</li> <li>定期健診が患者中心の日程には出来ない事 等</li> </ul>
職場の休暇制度・柔軟な働き方のための制度等	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場が欠勤2ヵ月と休職4ヵ月しかないので足りない</li> <li>病院が遠い場合などは治療期間に有休を使わざるを得なくなることもあり、さらなる制度の改善が必要</li> <li>有給休暇の不足。通院による費用とそれによる収入減</li> <li>どの職種でもテレワーク可能な制度があれば良い</li> <li>有給が減り、次年度は有給ゼロ、特別処置が必要 等</li> </ul>
周囲との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場内の同僚等（上司・協力者）に迷惑をかけているかと思うと気が引ける</li> <li>どうしても入院する期間が長くなるため残業したりすること</li> </ul>

	もあり家族に負担がかかってくる 等
経済的な影響・負担	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 何もできない間、生活費はマイナスになり安定がない</li> <li>• ガン保険に加入していても内容により請求できない不満</li> <li>• 働けなくなった時の収入減が心配</li> <li>• フリーランスの場合、働く時間を減らしにくく、精神的にも不安定になりやすい</li> <li>• 有休とは別に、休業制度を考えてほしい。傷病手当は利用しているが、お金が入ってくるまで時間がかかる</li> <li>• 職場内の制度がよく分からない</li> <li>• 治療費に対する補助制度</li> <li>• 脱毛によるウィッグ着用のため費用支援</li> <li>• 長期治療の際の収入の補助支援があると、休職や時短への切替えなど選択肢がふえ経済的な不安がなくなる</li> <li>• 非常勤講師として働いていたため、職場からの公的制度などが無く、仕事が続けられるかどうかもわからず不安だった</li> <li>• 自営業は公的な支援がないので、もう少し増やして 等</li> </ul>
情報収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 同じ種類の病気の方が少なく、就労を継続しているのか、休職しているのかの情報がなく、とても不安で手さぐりな状況だった 等</li> </ul>
職場の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 月に何日も通院していた時は、同僚の何気ない言葉（休めて羨ましいなど）に傷ついたので、組織の人事や管理職の人だけでなく、一般の人々に広く、がん患者の「治療と仕事を両立」への知識が伝わってほしい</li> <li>• 店長や経営者から、病気の従業員への思い遣りと配慮不足</li> <li>• 上司がどこまで真摯に向き合い理解し対応・動いてくれるかにつきる</li> <li>• 限られた人にしか伝えていないが、勝手に他の人に話されていること</li> <li>• 復帰後の対応がよくわからない。就業規則もしっかりしてない。困っている事をきちんと対応してくれるか不安</li> <li>• 体調が悪く休みたいと言いづらい</li> <li>• ウィッグをつけているので、ジロジロ見られる</li> <li>• 治療内容をどこまで詳細に職場に伝えるべきかわからない</li> <li>• 会社内に横になれるベッドなど利用できれ優しいと思う</li> <li>• 上司や人事担当部署の理解が十分でなく、辛かった 等</li> </ul>

### 19) AYA 世代<sup>4</sup>のがん患者の就職に関する相談支援について必要な取組

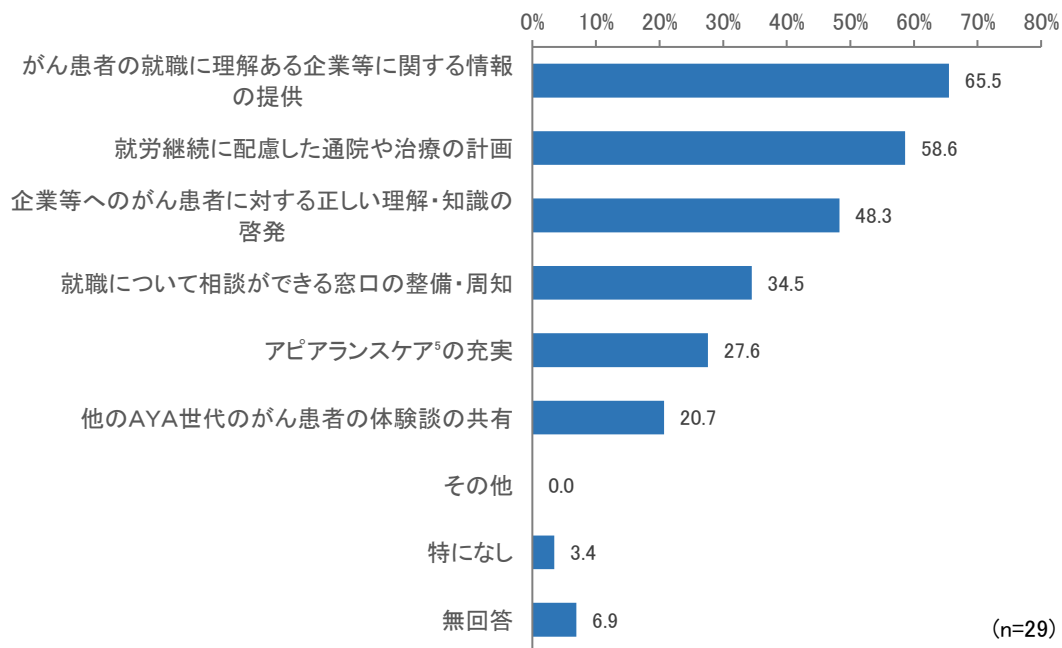
《問77》AYA 世代とは、主に15歳以上40歳未満の思春期及び若年成人世代のことをいいます。

AYA 世代のがん患者の就職（新規就労/再就職）に関する相談支援について必要な取組は何ですか。3つまでお答えください。（○は3つまで）

40歳未満と回答した29人に、AYA 世代のがん患者の新規就労/再就職に関する相談支援について必要な取組を尋ねたところ、「がん患者の就職に理解ある企業等に関する情報の提供」が65.5%で最も多く、次いで「就労継続に配慮した通院や治療の計画」が58.6%、「企業等へのがん患者に対する正しい理解・知識の啓発」が48.3%であった。なお、「特になし」と回答した者は3.4%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 107 AYA 世代のがん患者の就職に関する相談支援について必要な取組(複数回答: 3つまで)



<sup>4</sup> AYA 世代：主に15歳以上40歳未満の思春期及び若年成人世代のこと

<sup>5</sup> アピアランスケア：治療に伴う外見の変化に対する支援（例：ウィッグや人工乳房に関するケア）



## 20) AYA 世代のがん患者の就労継続に関する相談支援について必要な取組

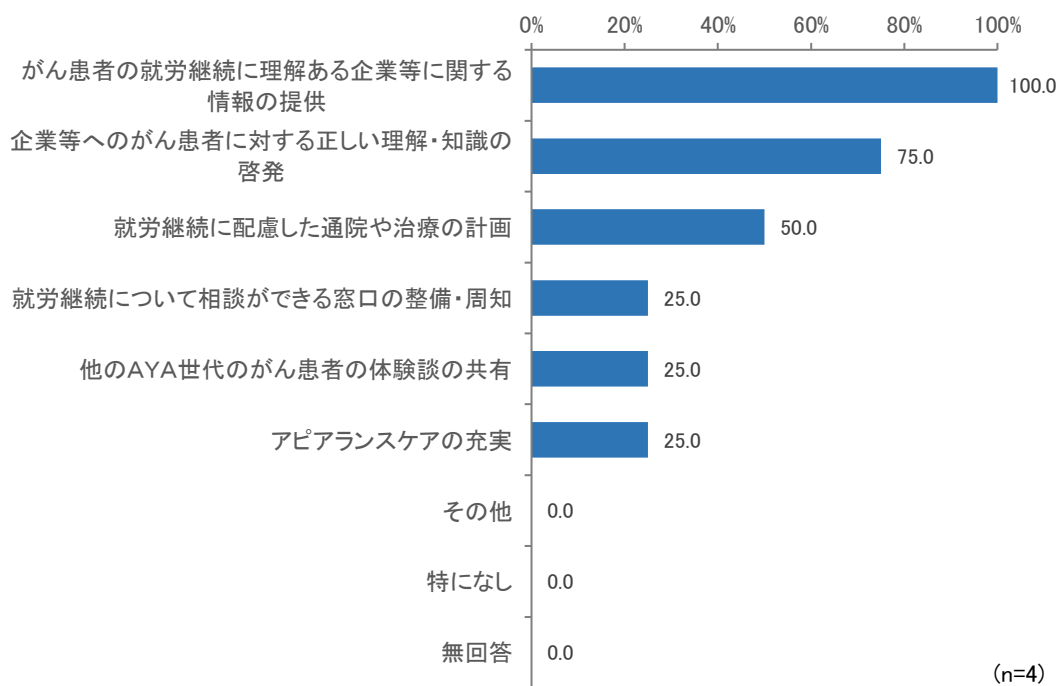
《問78》【現在就職されている方に伺います】

AYA 世代のがん患者の就労継続（仕事を続けること）に関する相談支援について必要な取組は何ですか。3つまでお答えください。（〇は3つまで）

40歳未満で現在就職していると回答した4人に、AYA 世代のがん患者の就労継続に関する相談支援について必要な取組を尋ねたところ、「がん患者の就労継続に理解ある企業等に関する情報の提供」が100.0%で最も多く、次いで「企業等へのがん患者に対する正しい理解・知識の啓発」が75.0%、「就労継続に配慮した通院や治療の計画」が50.0%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 108 AYA 世代のがん患者の就労継続に関する相談支援について必要な取組（複数回答：3つまで）



## 10. AYA 世代に関すること(就労以外)について

### 1) 長期フォローアップについて医師等からの説明の有無

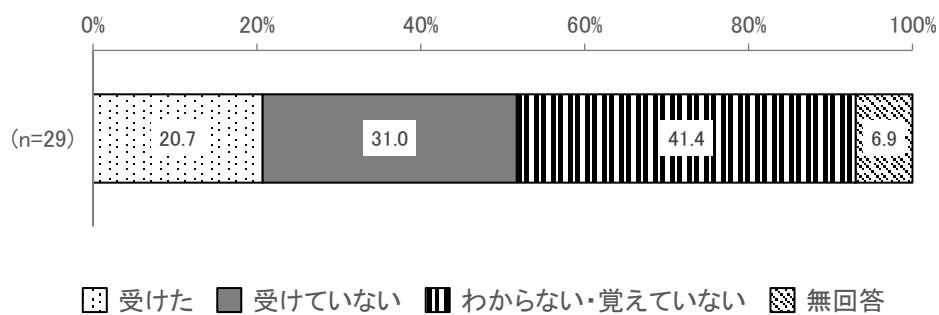
《問79》あなたは長期フォローアップ<sup>6</sup>について、医師等から説明を受けましたか。

(○は1つ)

40歳未満と回答した29人に、長期フォローアップについて医師等からの説明を受けたか尋ねたところ、「受けた」が20.7%、「受けていない」が31.0%、「わからない・覚えていない」が41.4%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 109 長期フォローアップについて医師等からの説明の有無



<sup>6</sup> 長期フォローアップ：小児がん患者やAYA世代のがん患者の成長に合わせた長期的な経過観察等、医療機関による継続的な状況把握のこと

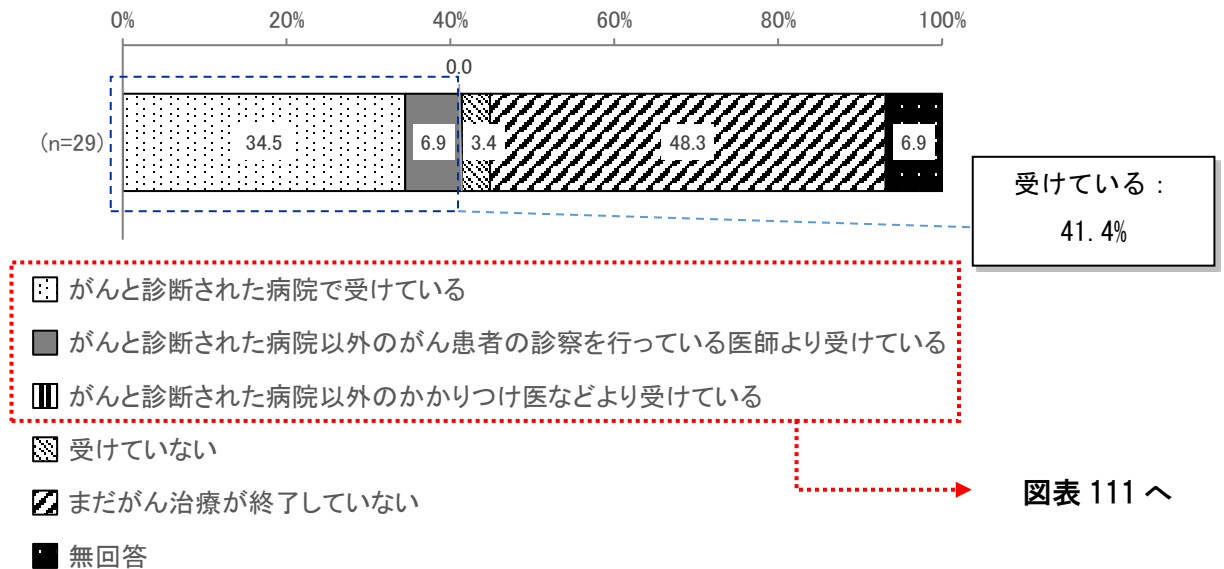
## 2) 定期的なフォローアップの状況

《問80》あなたはがん治療終了後、定期的に病院を受診し、医師等による長期フォローアップを受けていますか。(○は1つ)

40歳未満と回答した29人に、定期的に病院を受診し、医師等による長期フォローアップを受けているか尋ねたところ、「まだがん治療が終了していない」を除くと、「がんと診断された病院で受けている」が34.5%で最も多く、次いで、「がんと診断された病院以外のがん患者の診察を行っている医師より受けている」が6.9%、「受けていない」が3.4%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 110 定期的なフォローアップの状況



### 3) 受けている長期フォローアップの内容

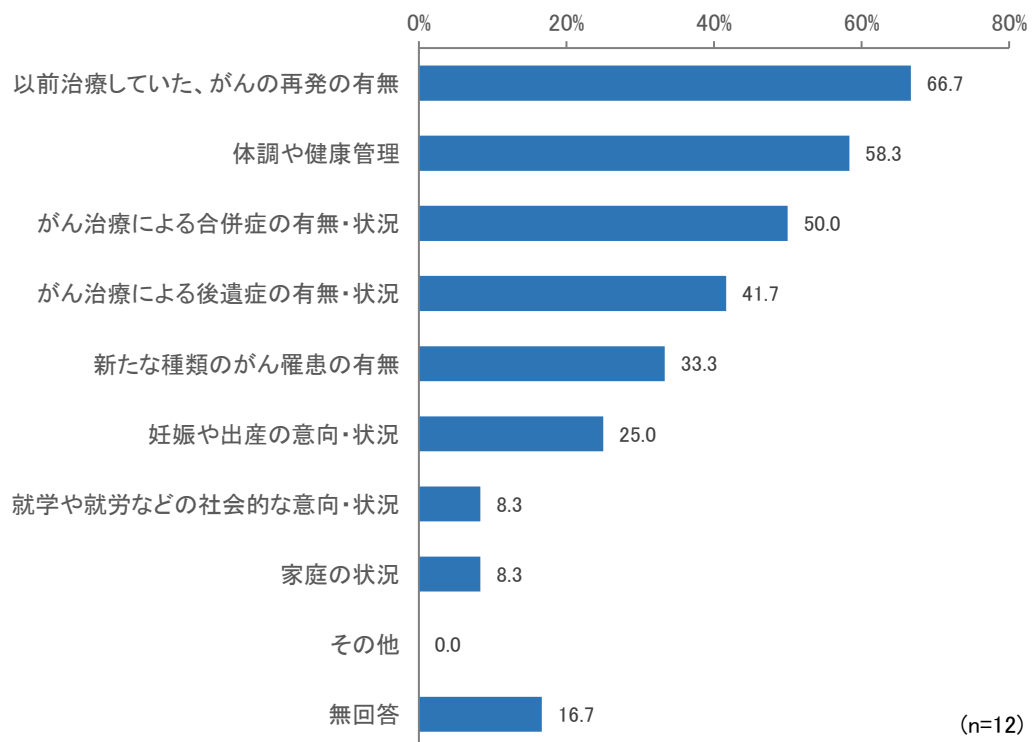
《問81》問80で長期フォローアップを受けていると回答した方へ伺います。

受けている内容について該当するものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

長期フォローアップを受けていると回答した12人に、フォローアップの内容を尋ねたところ、「以前治療していた、がんの再発の有無」が66.7%で最も多く、次いで「体調や健康管理」が58.3%、「がん治療による合併症の有無・状況」が50.0%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 111 受けている長期フォローアップの内容（複数回答）

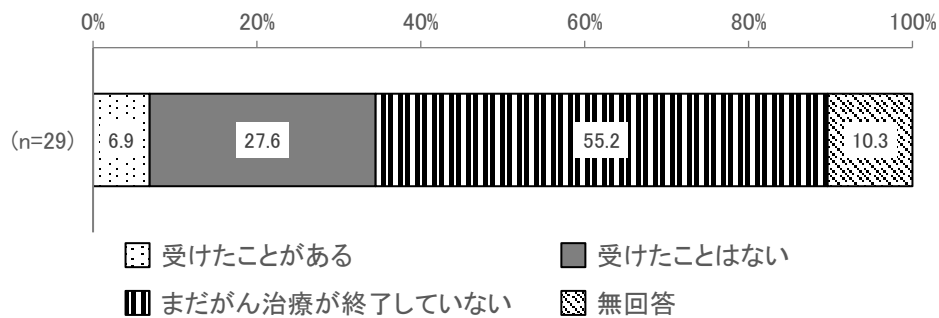


4) がん治療終了後におけるがん相談支援センター等で相談経験の有無

《問82》あなたはがん治療終了後に、がん相談支援センター等で、相談支援を受けたことはありますか。(○は1つ)

40歳未満と回答した29人に、がん治療終了後にごん相談支援センター等で相談を受けたか尋ねたところ、「受けたことがある」が6.9%、「受けたことはない」が27.6%であった。ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 112 がん治療終了後におけるがん相談支援センター等で相談経験の有無



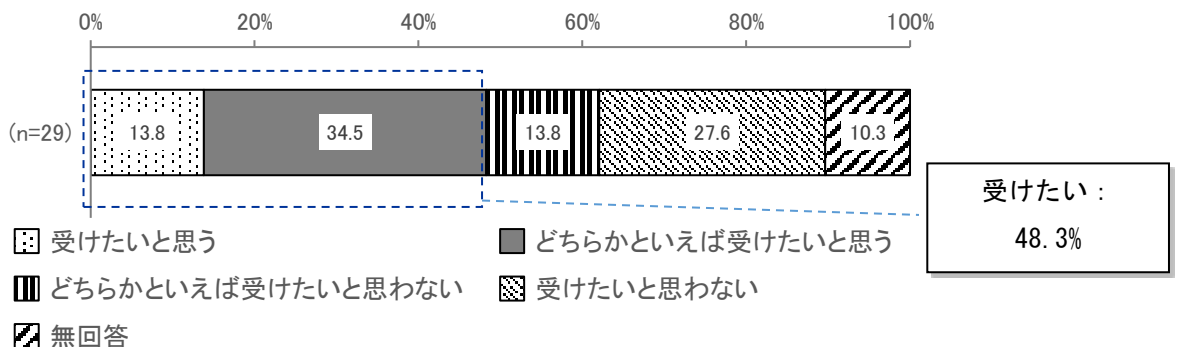
5) がん治療終了後におけるがん相談支援センター等での相談意向

《問83》あなたはがん治療終了後に、がん相談支援センター等で相談支援を受けたいと思いますか。(○は1つ)

40歳未満と回答した29人に、がん治療終了後にごん相談支援センター等で相談支援を受けたいか尋ねたところ、「受けたいと思う」が13.8%、「どちらかといえば受けたいと思う」が34.5%で、半数近くが受けたいと回答した。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 113 がん治療終了後におけるがん相談支援センター等での相談意向



### 6) AYA 世代がん患者の療養環境などにおいて改善が必要なもの（通院期間中）

《問 8 4》がん治療中の療養環境及びあなたの身の回りや生活面への支援として、改善が必要なもの（不足していたもの）は何ですか。

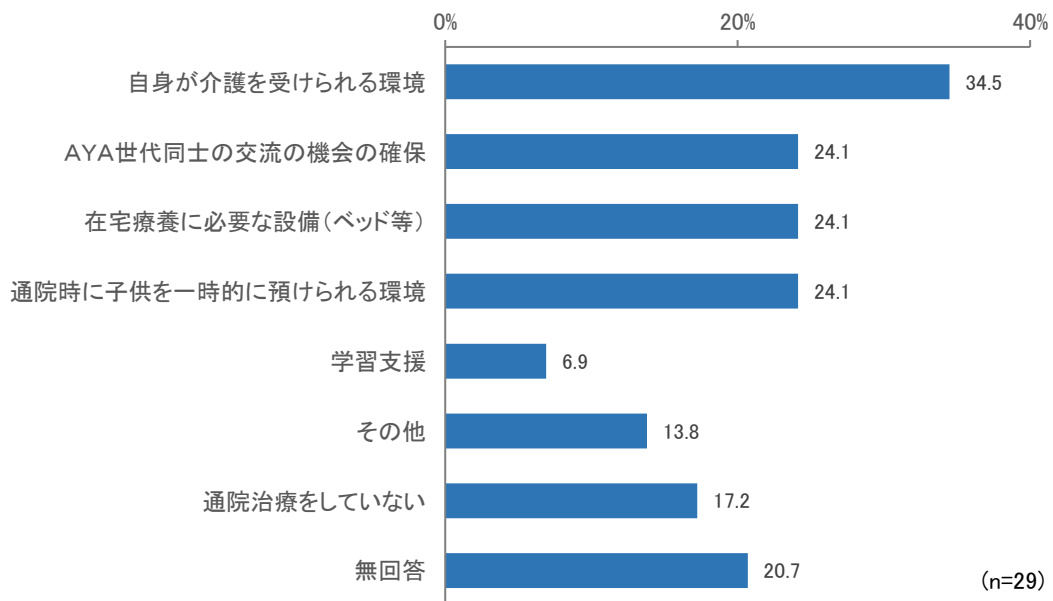
通院治療中の時期について、特に改善が必要と思われる選択肢から順に3つまで、「順位」欄に1→2→3と番号を記載してください。

40歳未満と回答した29人に、自身の療養環境及び身の回りや生活面への支援として改善が必要なものを順に1位から3位まで3つ尋ねた。

通院期間中については、「自身が介護を受けられる環境」が34.5%で最も多く、次いで「AYA世代同士の交流の機会の確保」と「在宅療養に必要な設備（ベッド等）」と「通院時に子供を一時的に預けられる環境」がそれぞれ24.1%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 114 AYA 世代がん患者の療養環境などにおいて改善が必要なもの（通院期間中）（複数回答：3つまで）



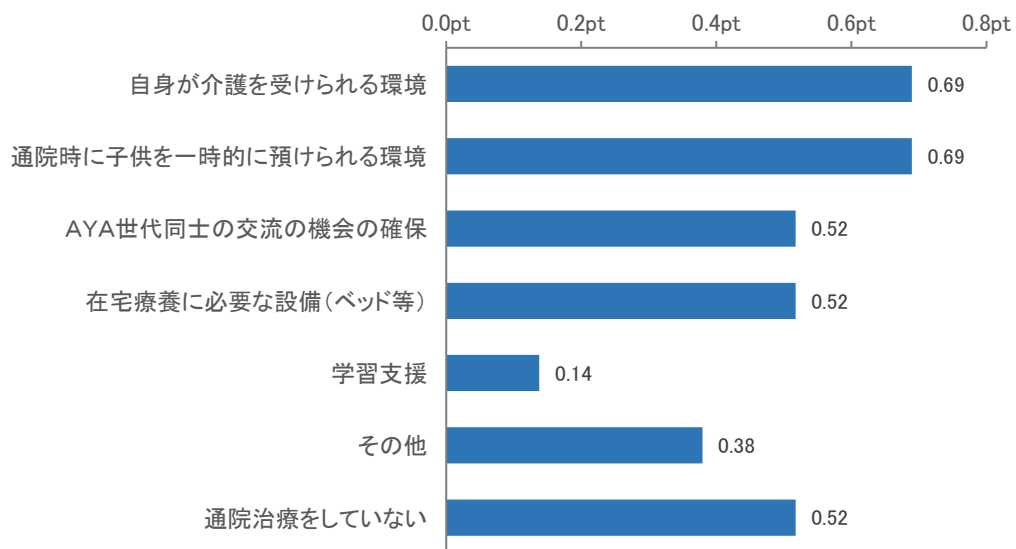
#### 「その他」の具体的内容

- 通院時の交通費。ウィッグ代
- 育児サポート 等

通院治療中において改善が必要なものを重み付けしてみると、「自身が介護を受けられる環境」と「通院時に子供を一時的に預けられる環境」が0.69ptと最も多く、次いで「AYA世代同士の交流の機会の確保」と「在宅療養に必要な設備（ベッド等）」が0.52ptであった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 115 AYA 世代がん患者の療養環境などにおいて改善が必要なもの（通院期間中）（重み付け）



(n=29)

### 7) AYA 世代がん患者の療養環境などにおいて改善が必要なもの（入院治療中）

《問 8 5》がん治療中の療養環境及びあなたの身の回りや生活面への支援として、改善が必要なもの（不足していたもの）は何ですか。

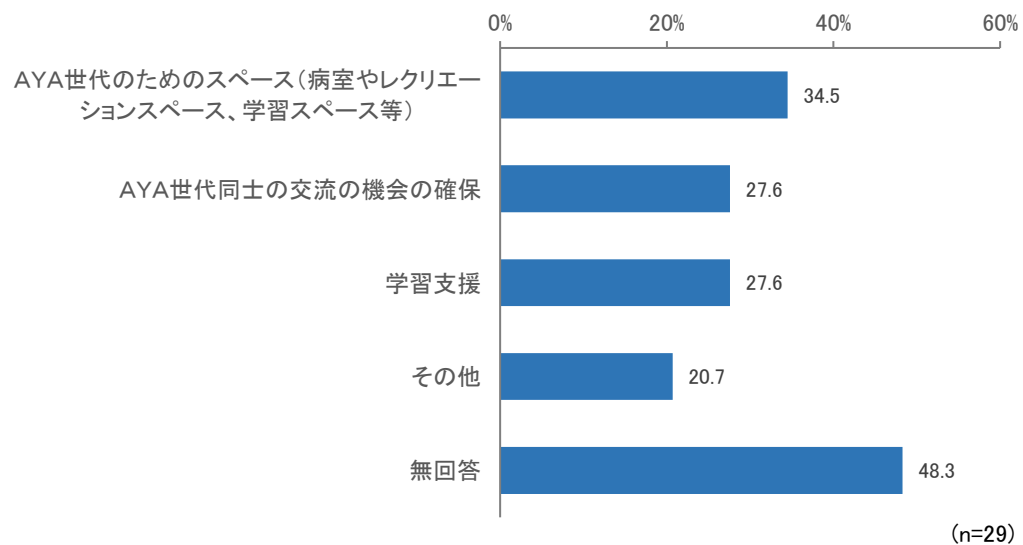
入院治療中の時期について、特に改善が必要と思われる選択肢から順に3つまで、「順位」欄に1→2→3と番号を記載してください。

40歳未満と回答した29人に、自身の療養環境及び身の回りや生活面への支援として改善が必要なものを順に1位から3位まで3つ尋ねた。

入院治療中については、「AYA世代のためのスペース（病室やレクリエーションスペース、学習スペース等）」が34.5%で最も多く、次いで「AYA世代同士の交流の機会の確保」と「学習支援」がそれぞれ27.6%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 116 AYA 世代がん患者の療養環境などにおいて改善が必要なもの（入院治療中）（複数回答：3つまで）



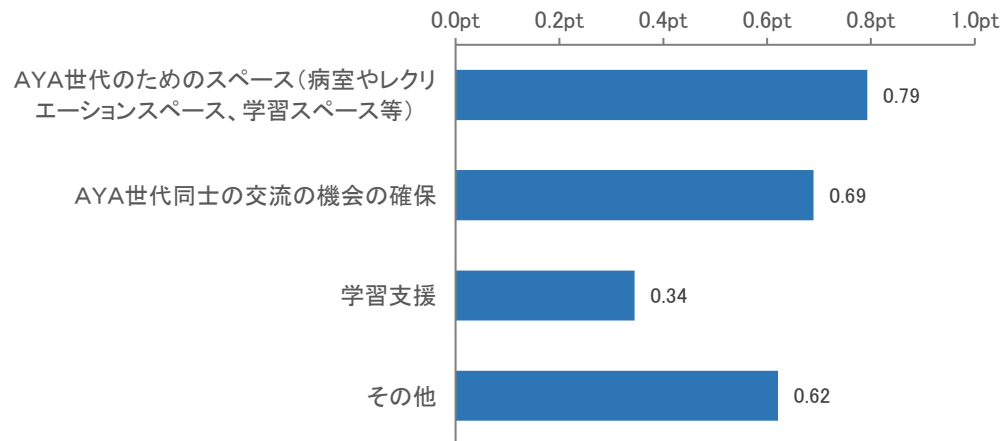
#### 「その他」の具体的内容

- 子供の世話、家庭のサポート 等



入院治療中において改善が必要なものを重み付けしてみると、「AYA世代のためのスペース（病室やレクリエーションスペース、学習スペース等）」が 0.79pt で最も多く、次いで「AYA世代同士の交流の機会の確保」が 0.69pt、「学習支援」が 0.34pt であった。ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 117 AYA 世代がん患者の療養環境などにおいて改善が必要なもの（入院治療中）（重み付け）



(n=29)

### 8) AYA 世代がん患者の療養環境などにおいて改善が必要なもの（在宅治療中）

《問 8 6》がん治療中の療養環境及びあなたの身の回りや生活面への支援として、改善が必要なもの（不足していたもの）は何ですか。

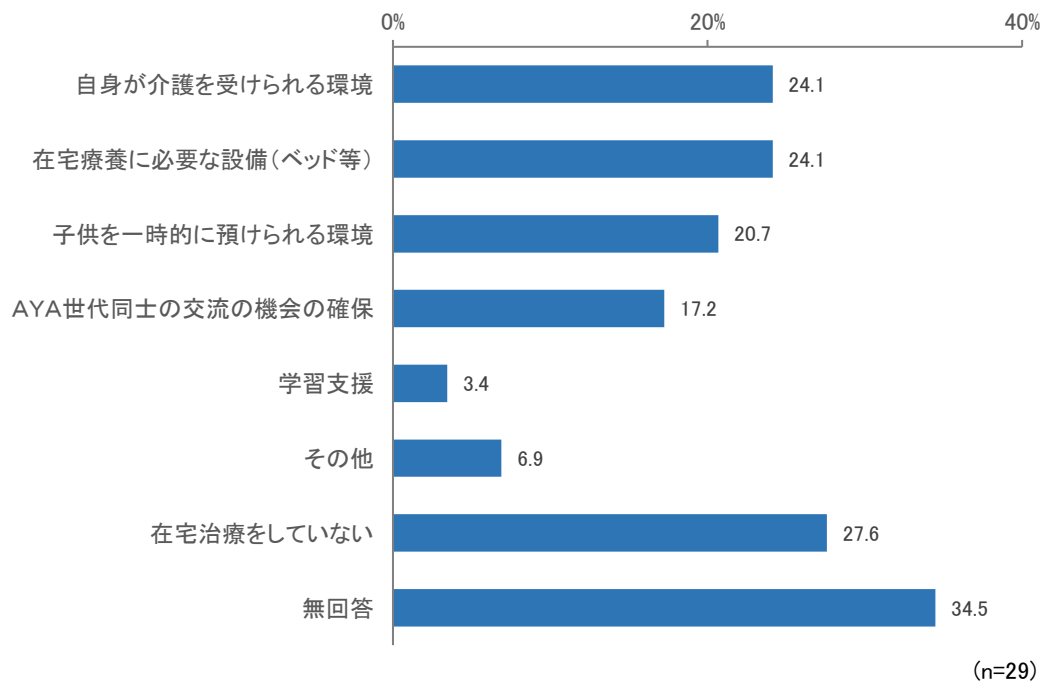
在宅治療中の時期について、特に改善が必要と思われる選択肢から順に3つまで、「順位」欄に1→2→3と番号を記載してください。

40歳未満と回答した29人に、自身の療養環境及び身の回りや生活面への支援として改善が必要なものを順に1位から3位まで3つ尋ねた。

在宅治療中においては、「自身が介護を受けられる環境」と「在宅療養に必要な設備（ベッド等）」が24.1%でともに最も多く、次いで「子供を一時的に預けられる環境」が20.7%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 118 AYA 世代がん患者の療養環境などにおいて改善が必要なもの（在宅治療中）（複数回答：3つまで）

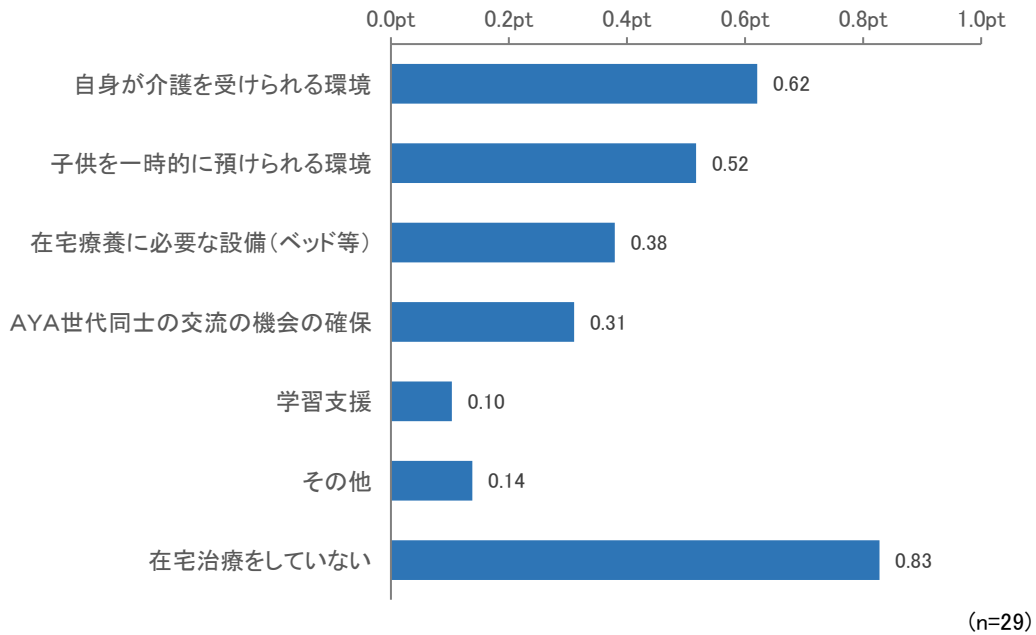


#### 「その他」の具体的内容

- 食事などの用意
- 育児サポート（習い事の送迎など） 等

在宅治療中において改善が必要なものを重み付けしてみると、「自身が介護を受けられる環境」が 0.62pt で最も多く、次いで「子供を一時的に預けられる環境」が 0.52pt、「在宅療養に必要な設備（ベッド等）」が 0.38pt であった。  
ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 119 AYA 世代がん患者の療養環境などにおいて改善が必要なもの（在宅治療中）（重み付け）



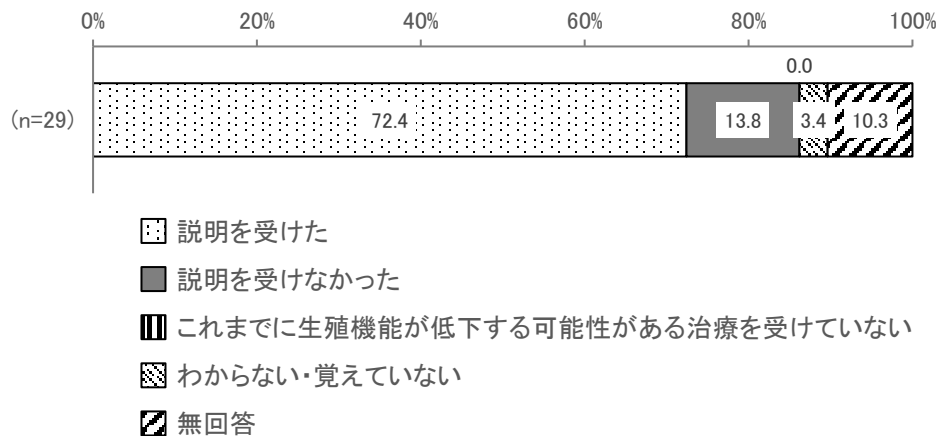
### 9) 生殖機能の低下の可能性・生殖機能の温存の方法について説明の有無

《問87》がんの治療により生殖機能が低下することがありますが、治療前に「生殖機能が低下する可能性があること」や「生殖機能の温存の方法」について説明を受けましたか。(○は1つ)

40歳未満と回答した29人に、がん治療による生殖機能の低下の可能性及び生殖機能の温存の方法について説明があったかを尋ねたところ、「説明を受けた」が72.4%で最も多く、次いで「説明を受けなかった」が13.8%、「わからない・覚えていない」が3.4%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 120 生殖機能の低下の可能性・生殖機能の温存の方法について説明の有無



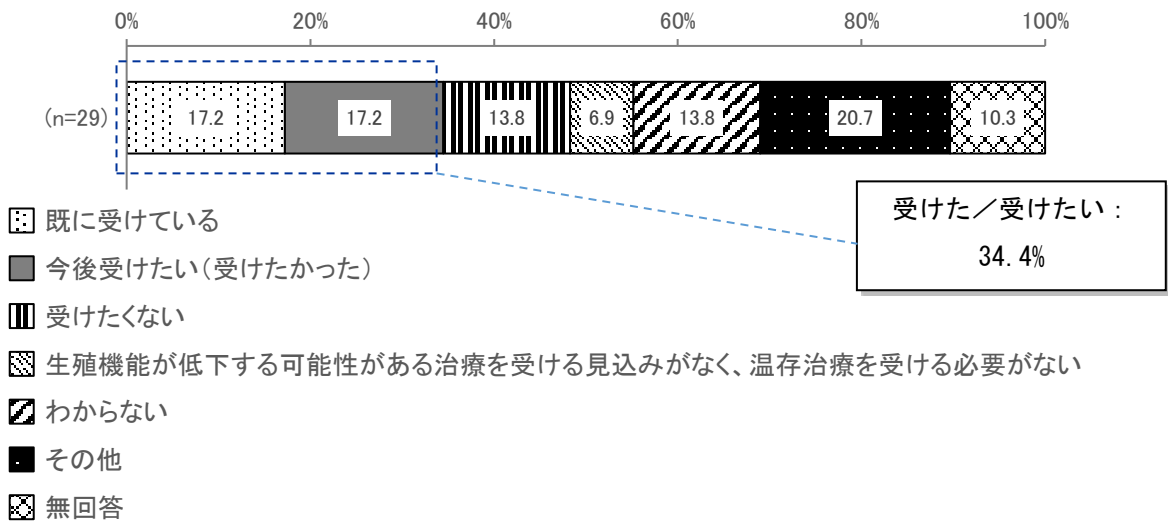
10) 生殖機能の温存治療を受けたいか

《問88》あなたは、生殖機能の温存治療を受けたいですか。(○は1つ)

40歳未満と回答した29人に、生殖機能の温存治療を受けたいか尋ねたところ、「既に受けている」と「今後受けたい(受けたかった)」がともに17.2%であった。一方で、「受けたくない」は13.8%であった。

その他の意見としては、「手遅れ」、「自分には関係ない」などの意見があった。ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 121 生殖機能の温存治療を受けたいか



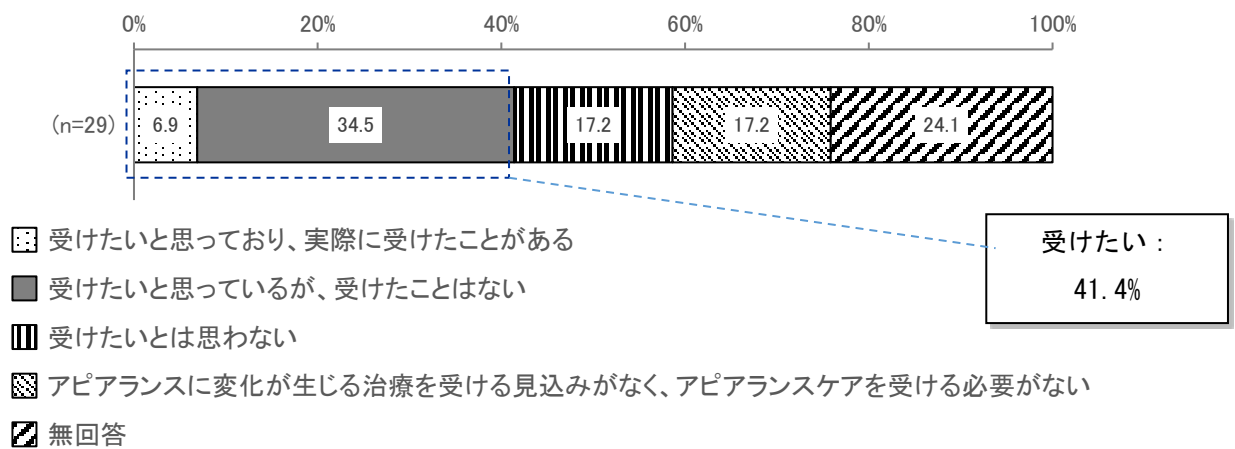
## 11) アピアランスケアを受けたいか

《問89》あなたは、アピアランスケアを受けたいと思いますか。(○は1つ)

40歳未満と回答した29人に、アピアランスケアを受けたいか尋ねたところ、「受けたいと思っており、実際に受けたことがある」が6.9%、「受けたいと思っっているが、受けたことはない」が34.5%で、全体の4割以上が受けたいと回答した。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 122 アピアランスケアを受けたいか



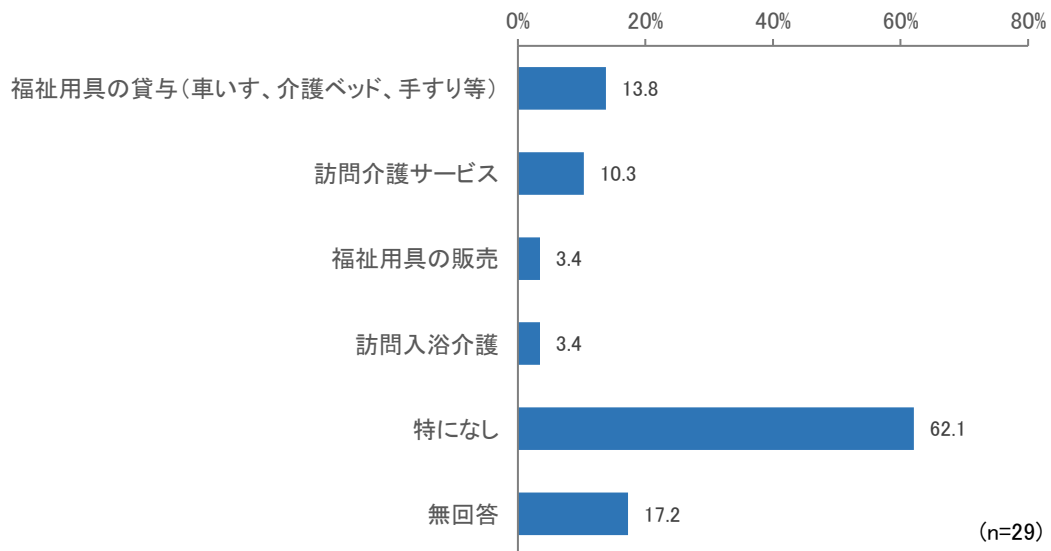
## 12) 利用したいと思う介護サービスについて

《問90》次の介護サービス等について、利用したいと思ったことがあるものを選んでください。(〇はいくつでも)

40歳未満と回答した29人に、利用したい介護サービスを尋ねたところ、「福祉用具の貸与(車いす、介護ベッド、手すり等)」が13.8%で最も多く、次いで「訪問介護サービス」が10.3%であった。一方で、「特になし」は62.1%と最も多かった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 123 利用したいと思う介護サービスについて (複数回答)



「その他」の具体的内容

- 食事や身のまわりのこと
- 身の回りの家事 等

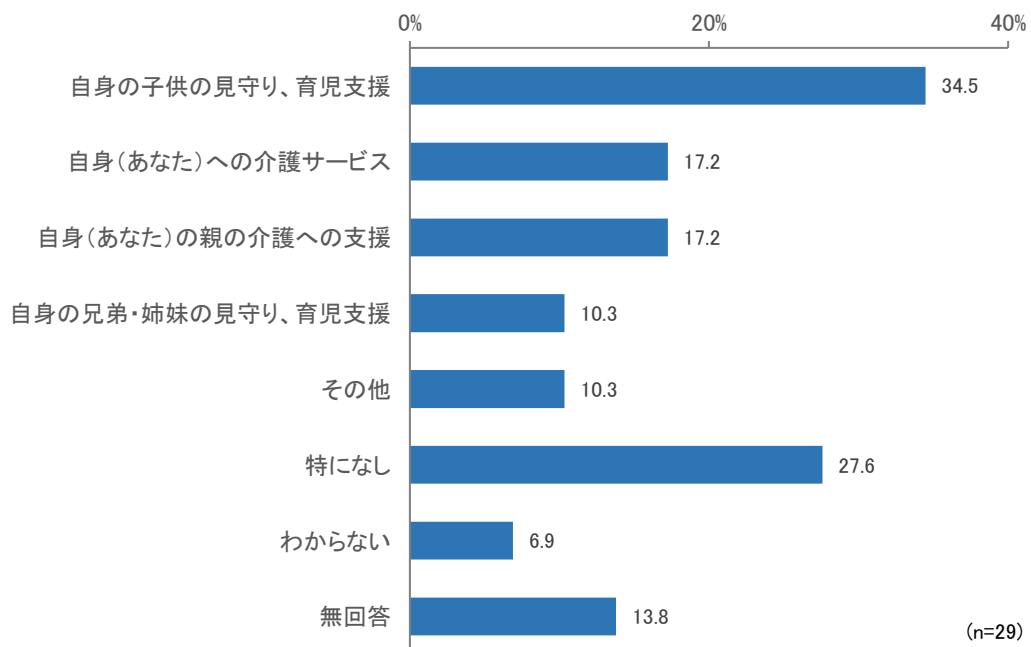
### 13) 入院治療中に家族に対して必要だと考える支援

《問9 1》あなたの入院治療中の時期、ご家族に対して必要だと考える支援は何ですか。(〇はいくつでも)

40歳未満と回答した29人に、自身の入院治療中に家族に対して必要だと考える支援を尋ねたところ、「自身の子供の見守り、育児支援」が34.5%で最も多く、次いで「自身(あなた)への介護サービス」と「自身(あなた)の親の介護への支援」がそれぞれ17.2%であった。一方で、「特になし」は27.6%であった。

ただし、調査数が少ない点に留意する必要がある。

図表 124 自身の入院治療中に家族に対して必要だと考える支援（複数回答）



#### 「その他」の具体的内容

- 食事や掃除
- 親族へのケア 等



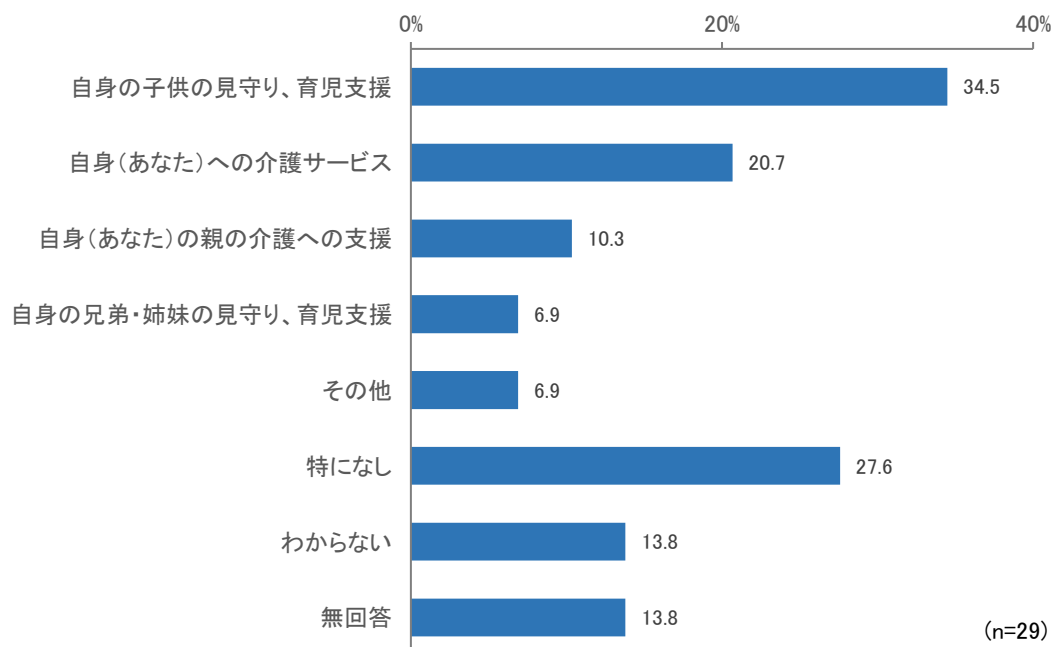
#### 14) 自身の通院治療中に家族に対して必要だと考える支援

《問92》あなたの通院治療中の時期、ご家族に対して必要だと考える支援は何ですか。(〇はいくつでも)

40歳未満と回答した29人に、自身の通院治療中に家族に対して必要だと考える支援を尋ねたところ、「自身の子供の見守り、育児支援」が34.5%で最も多く、次いで「自身(あなた)への介護サービス」が20.7%、「自身(あなた)の親の介護への支援」が10.3%であった。一方で、「特になし」は27.6%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 125 自身の通院治療中に家族に対して必要だと考える支援（複数回答）



##### 「その他」の具体的内容

- 家事サービス
- 夫／妻へのサービス 等

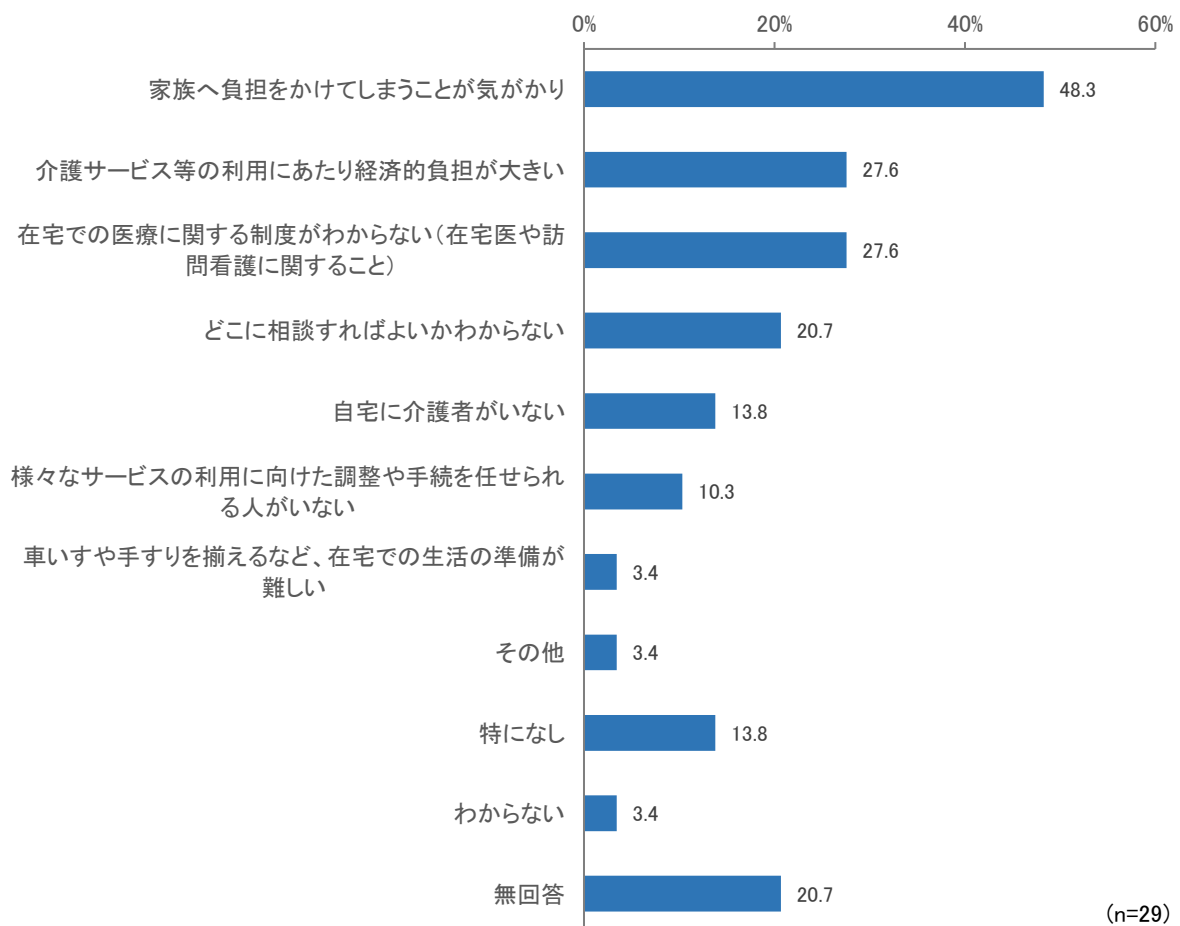
## 15) 在宅での治療・療養にあたって難しい課題

《問93》在宅での治療・療養にあたって難しいことや課題は何ですか。特に難しいと思われる選択肢から順に3つまで、「順位」欄に1→2→3と番号を記載してください。

40歳未満と回答した29人に、在宅での治療・療養にあたって難しい課題を順に1位から3位まで3つ尋ねたところ、「家族へ負担をかけてしまうことが気がかり」が48.3%で最も多く、次いで「介護サービス等の利用にあたり経済的負担が大きい」と「在宅での医療に関する制度がわからない(在宅医や訪問看護に関する事)」がそれぞれ27.6%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 126 在宅での治療・療養にあたって難しい課題（複数回答：3つまで）



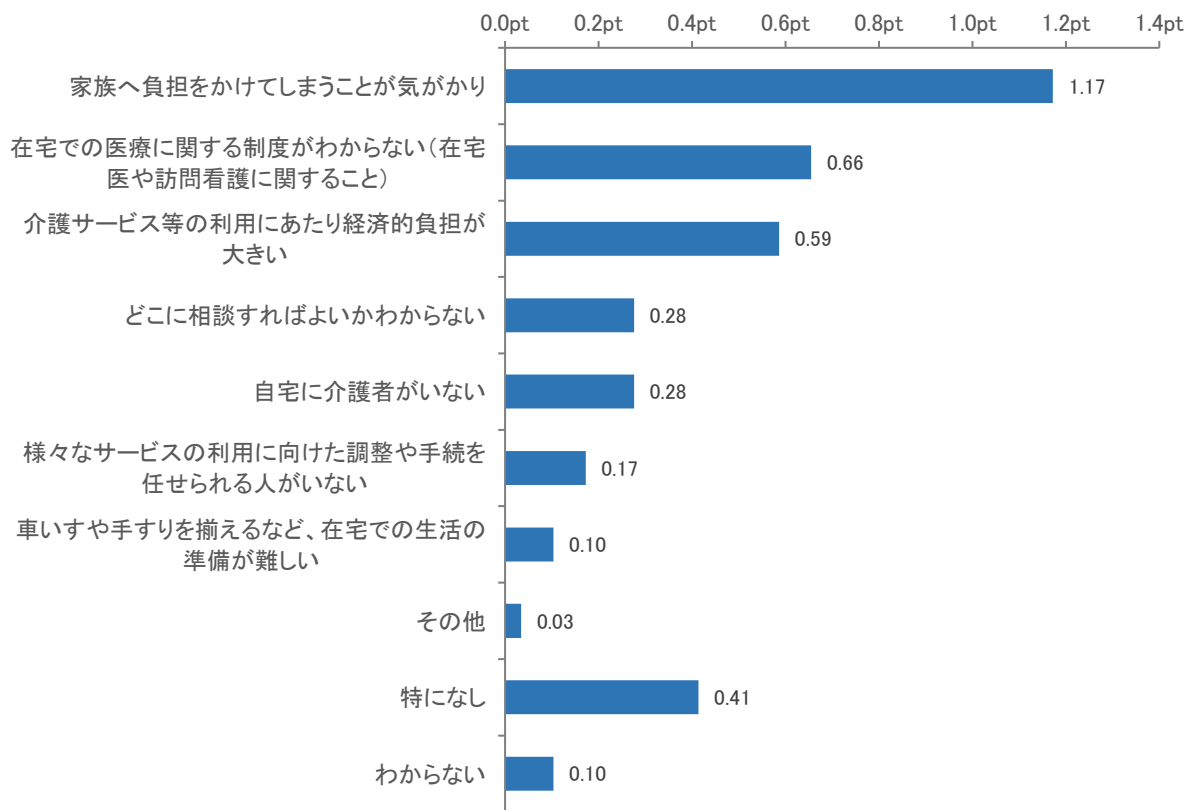
「その他」の具体的内容

- 頼れる人がいない
- 痛がっている所を見せたくない。心配かけたくない。
- お金で負担をかけてしまう 等

在宅での治療・療養にあたって難しい課題を重み付けしてみると、「家族へ負担をかけてしまうことが気がかり」が 1.17pt で最も多く、次いで「在宅での医療に関する制度がわからない（在宅医や訪問看護に関すること）」が 0.66pt、「介護サービス等の利用にあたり経済的負担が大きい」が 0.59pt であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 127 在宅での治療・療養にあたって難しい課題（重み付け）



(n=29)

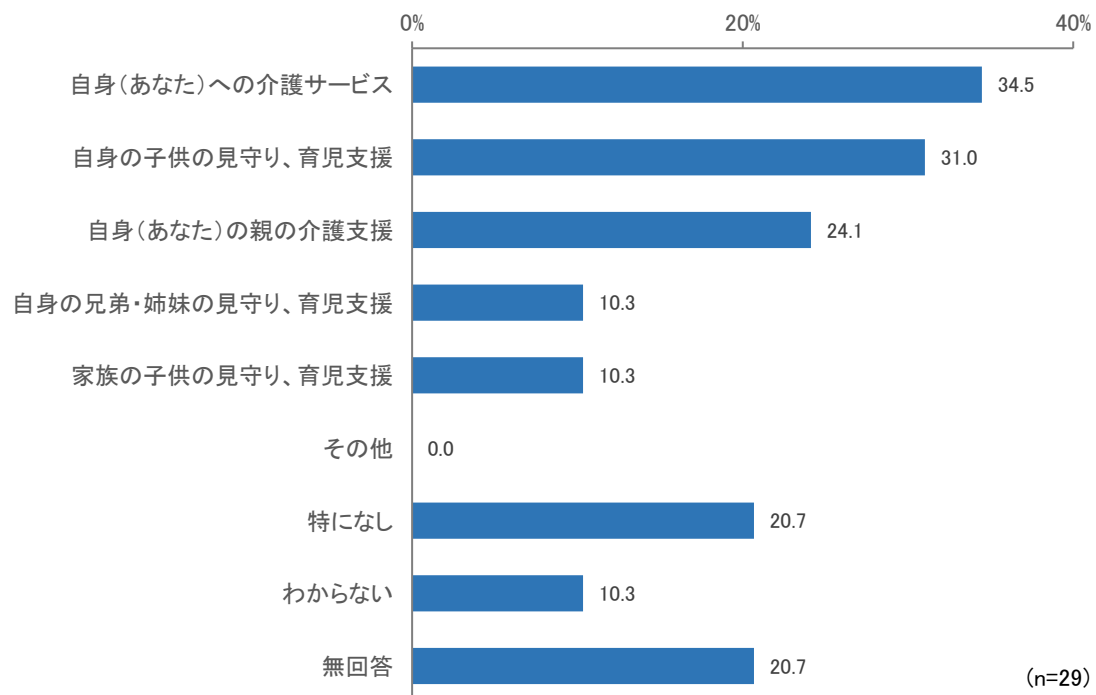
### 16) 自身の在宅療養にあたって家族に対して必要だと考える支援

《問9 4》在宅療養にあたって、あなたのご家族に対して必要だと考える支援は何ですか。特に必要と思われる選択肢から順に3つまで、「順位」欄に1→2→3と番号を記載してください。

40歳未満と回答した29人に、在宅療養にあたって家族に対して必要だと考える支援を尋ねたところ、「自身（あなた）への介護サービス」が34.5%で最も多く、次いで「自身の子供の見守り、育児支援」が31.0%、「自身（あなた）の親の介護支援」が24.1%であった。

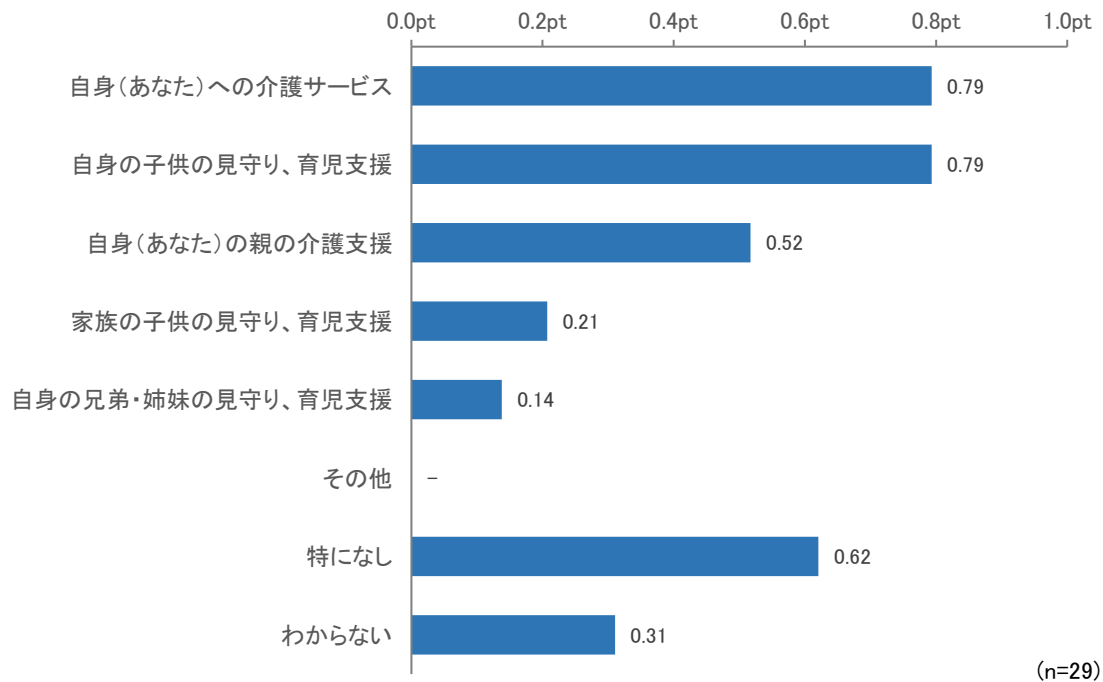
ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 128 在宅療養にあたって家族に対して必要だと考える支援（複数回答：3つまで）



自身の在宅療養にあたって家族に対して必要だと考える支援を重み付けしてみると、「自身（あなた）への介護サービス」と「自身の子供の見守り、育児支援」が0.79ptと最も多く、次いで「自身（あなた）の親の介護支援」が0.52ptであった。ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 129 在宅療養にあたって家族に対して必要だと考える支援（重み付け）



## 17) 就学に関して困ったり、不安になったこと

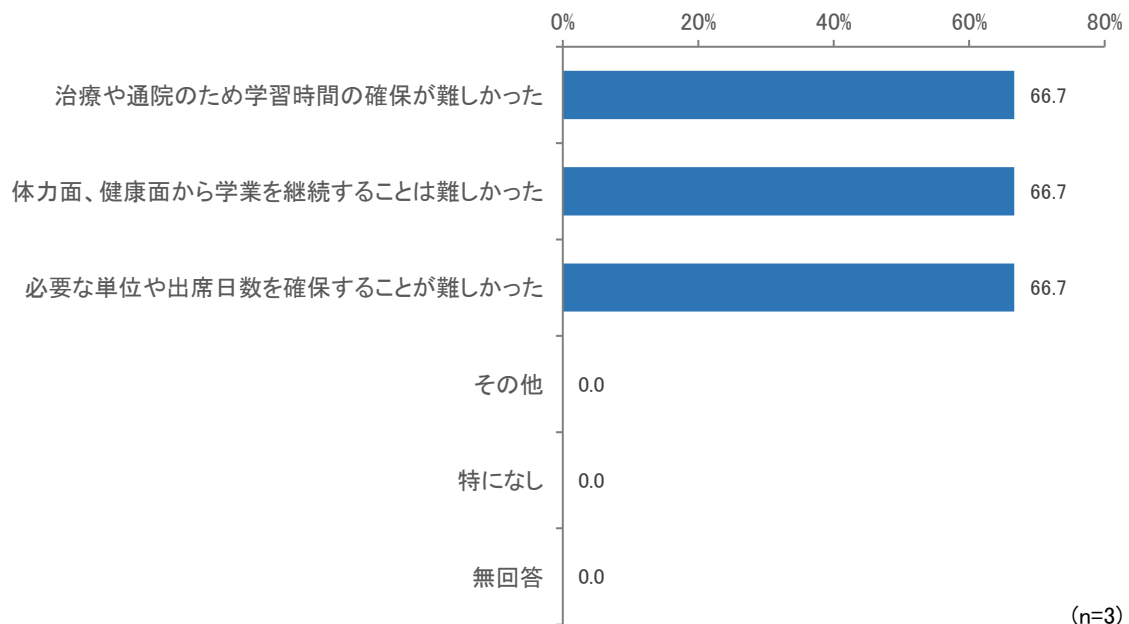
《問95》【15歳から24歳までの方に伺います。】

就学に関して、どのようなことに困ったり、不安になりましたか。(〇はいくつでも)

15歳から24歳の調査対象者に、就学に関して困ったり、不安になったことを尋ねたところ、3人から回答があり、「治療や通院のため学習時間の確保が難しかった」、「体力面、健康面から学業を継続することは難しかった」及び「必要な単位や出席日数を確保することが難しかった」がそれぞれ66.7%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 130 就学に関して困ったり、不安になったこと（複数回答）



## 18) AYA 世代のがん患者の学習継続のために必要だと考える取組

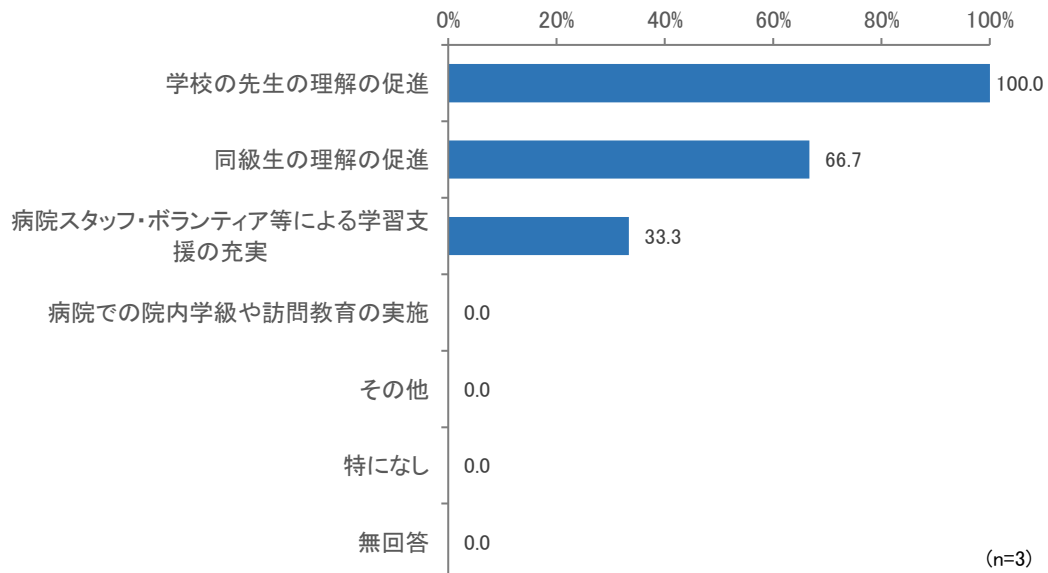
《問96》【15歳から24歳までの方に伺います。】

AYA 世代のがん患者の学習継続のための支援について、必要だと考える取組は何ですか。(〇はいくつでも)

15歳から24歳の調査対象者に、AYA 世代のがん患者の学習継続のために必要だと考える取組を尋ねたところ、3人から回答があり、「学校の先生の理解の促進」が100.0%で最も多く、次いで「同級生の理解の促進」が66.7%、「病院スタッフ・ボランティア等による学習支援の充実」が33.3%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 131 AYA 世代のがん患者の学習継続のために必要だと考える取組（複数回答）



19) 治療のために学校を休学したことがあるか

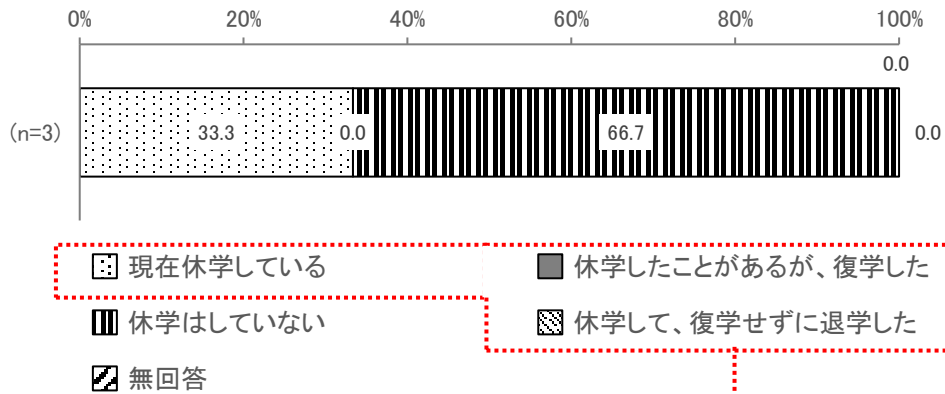
《問97》【15歳から24歳までの方に伺います。】

治療等のために、学校（高校）を休学したことはありますか。（○は1つ）

15歳から24歳の調査対象者に、治療のために学校を休学したことがあるか尋ねたところ、3人から回答があり、「休学はしていない」が66.7%、「現在休学している」が33.3%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 132 治療のために学校を休学したことがあるか



図表 133 へ



## 20) 復学に関する課題

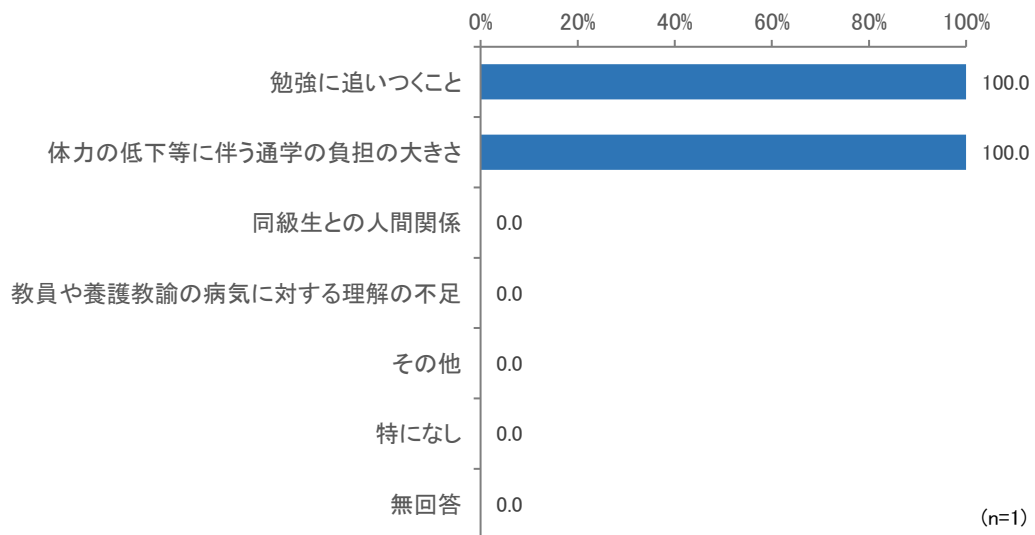
《問98》問97で「3. 休学はしていない」以外を選んだ方に伺います。

復学に関して、どのような課題がある、又はありましたか。(〇はいくつでも)

現在休学していると回答した1人に、復学に関する課題を尋ねたところ、「勉強に追いつくこと」と「体力の低下等に伴う通学の負担の大きさ」と回答した。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 133 復学に関する課題（複数回答）



## 21) AYA 世代のがん患者に対して必要だと考える復学支援

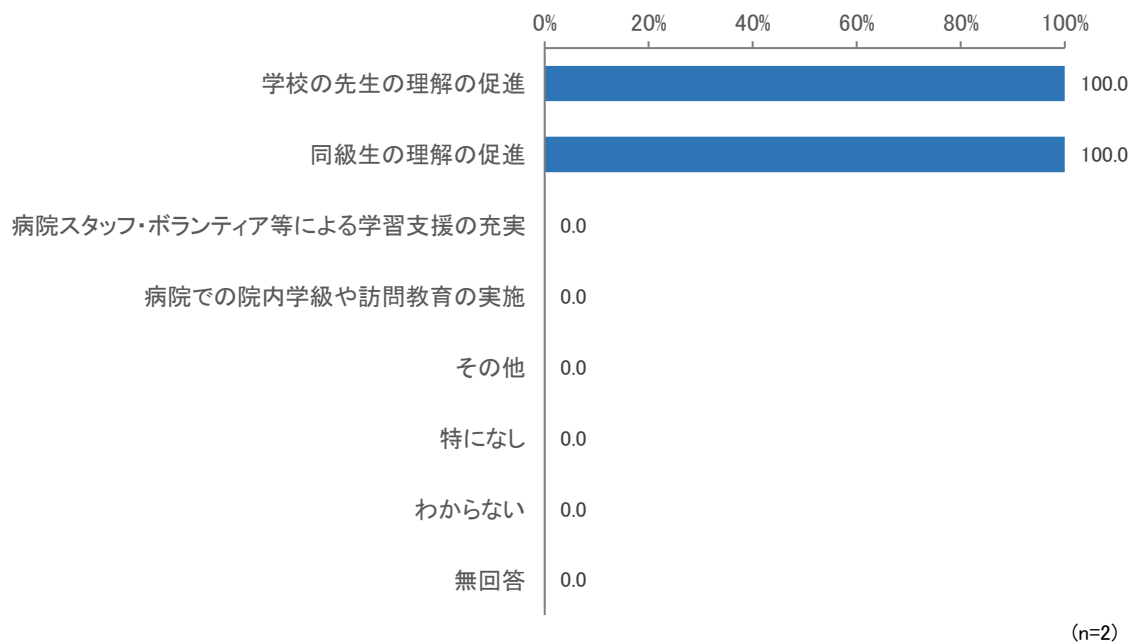
《問99》【15歳から24歳までの方に伺います。】

AYA 世代がんのがん患者の復学支援について、必要だと考える取組は何ですか。(〇はいくつでも)

15歳から24歳の対象者に、AYA 世代のがん患者に対して必要だと考える復学支援を尋ねたところ、2人から回答があり、「学校の先生の理解の促進」と「同級生の理解の促進」がそれぞれ100.0%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 134 AYA 世代のがん患者に対して必要だと考える復学支援（複数回答）



## 22) AYA 世代のがん患者への支援や医療等についての意見や要望

《問100》AYA 世代のがん患者への支援や医療等について、ご意見やご要望があればご自由に記載してください。

療養生活の中で、不安や困っていること、疑問に思っていることとして、「ガン治療は不安が多すぎて誰に聞いていいかわからない」「仕事にかんする支援を手厚くしてほしい」「子どもの世話など家の事など助けがあると良い」「ヴィッグに対してもっと補助金ができるようにしてほしい」等が挙げられた。

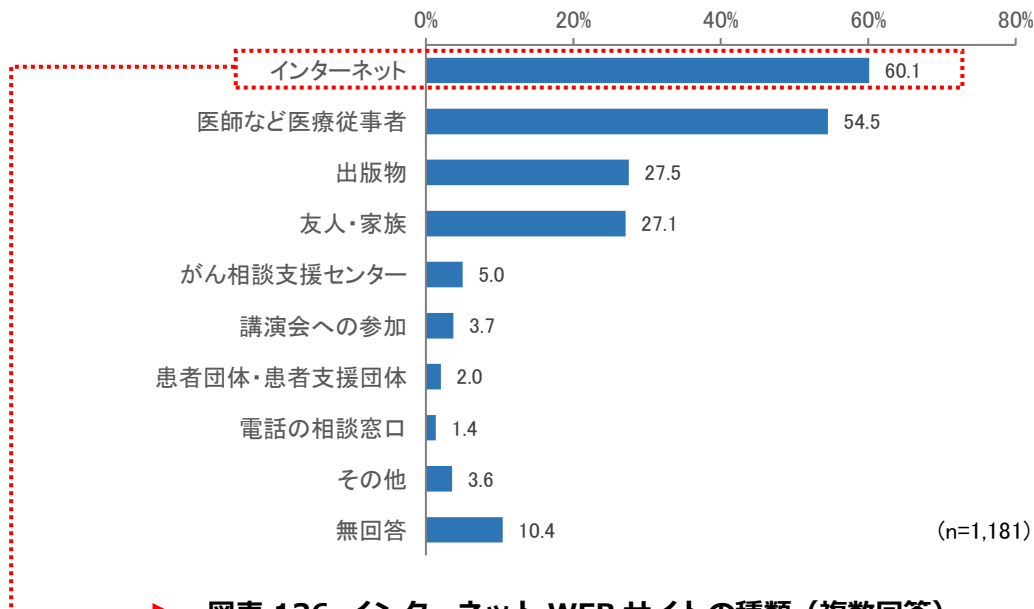
## 11. がんに関する情報について

### 1) がんに関する必要な情報の収集方法

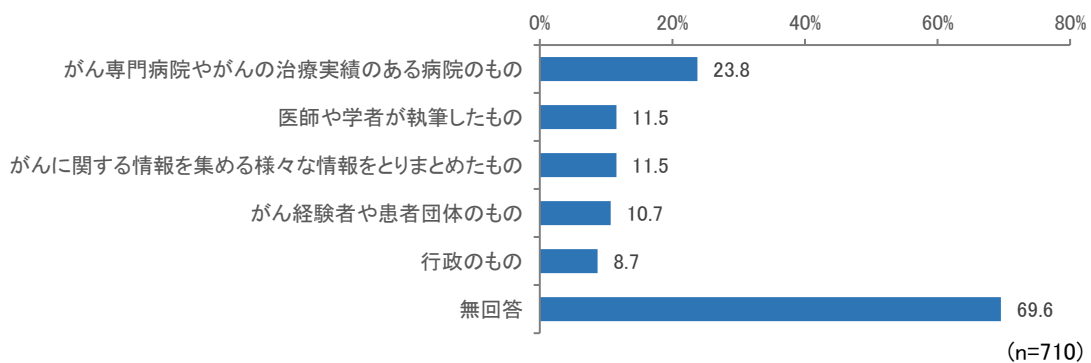
《問101》あなたは、がんに関する必要な情報を、どのような方法で収集していますか。(〇はいくつでも)

がんに関する必要な情報を収集する方法としては、「インターネット」が60.1%で最も多く、次いで「医師など医療従事者」が54.5%、「出版物」が27.5%、「友人・家族」が27.1%であった。「インターネット」のWEBサイトの種類では、「がん専門病院やがんの治療実績のある病院のもの」が23.8%と最も多かった。

図表 135 がんに関する必要な情報の収集方法（複数回答）



図表 136 インターネット WEB サイトの種類（複数回答）

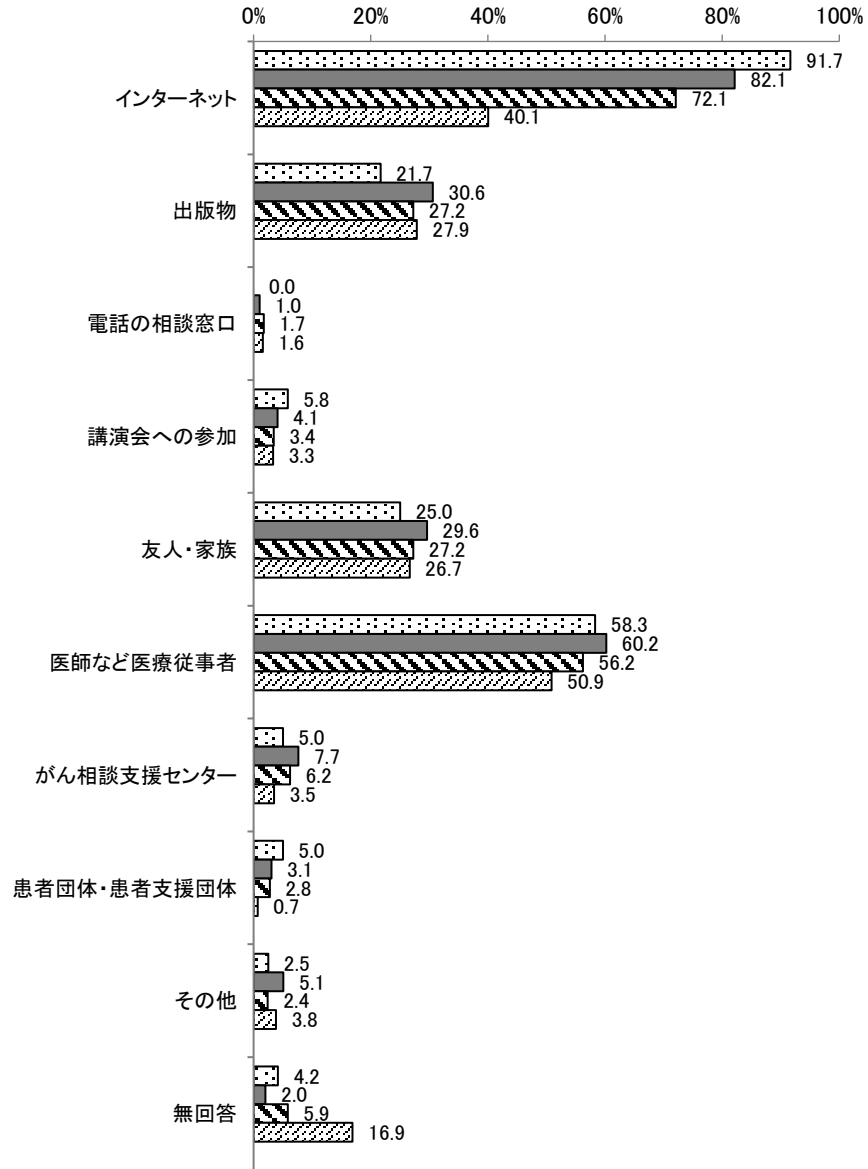


#### 「その他」の具体的内容

- テレビ、ラジオ、SNS、患者支援団体の定期的に出す出版物 等

年齢階級別にみると、年齢が低いほど「インターネット」の割合が高い傾向があり、40歳代以下では91.7%であった。

図表 137 がんに関する必要な情報の収集方法（複数回答）【年齢階級別】



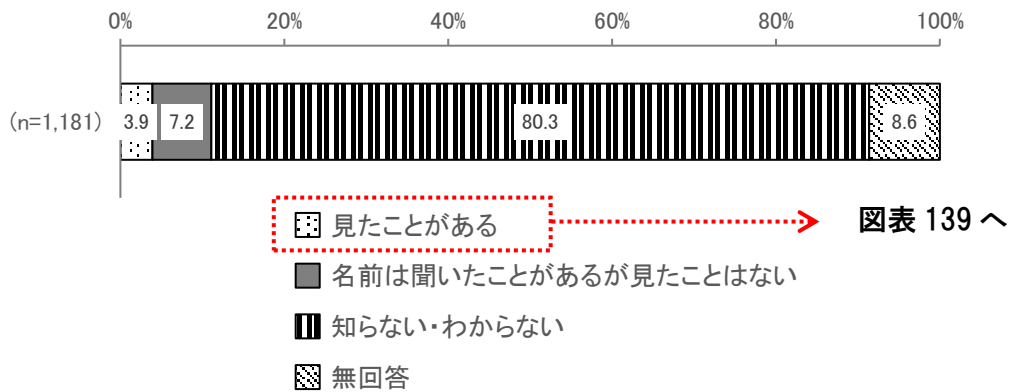
40歳代以下(n=120)
  50歳代(n=196)
  60歳代(n=290)
  70歳代以上(n=574)

## 2) 「東京都がんポータルサイト」の認知度

《問102》東京都はがんに関する総合情報を掲載したホームページ「東京都がんポータルサイト」を開設しています。このポータルサイトを見たことはありますか。(○は1つ)

東京都のホームページである「東京都がんポータルサイト」については、「知らない・わからない」と回答した者が80.3%と最も多く、「名前は聞いたことがあるが見たことはない」7.2%、「見たことがある」3.9%であった。

図表 138 「東京都がんポータルサイト」の認知度



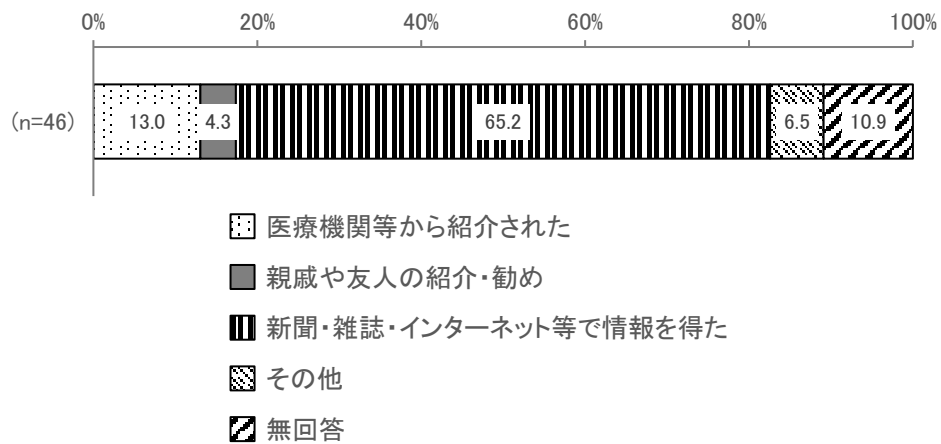
### 3) 「東京都がんポータルサイト」をどこで知ったか

《問103》問102で「1. 見たことがある」と回答した方に伺います。

「東京都がんポータルサイト」をどこで知りましたか。(○は1つ)

東京都がんポータルサイトを見たことがあると回答した46人に、どこで知ったか尋ねたところ、「新聞・雑誌・インターネット等で情報を得た」と回答した者が65.2%と最も多く、次いで「医療機関等から紹介された」が13.0%であった。

図表 139 「東京都がんポータルサイト」をどこで知ったか



#### 「その他」の具体的内容

- テレビ、障害者支援のページでバナー 等

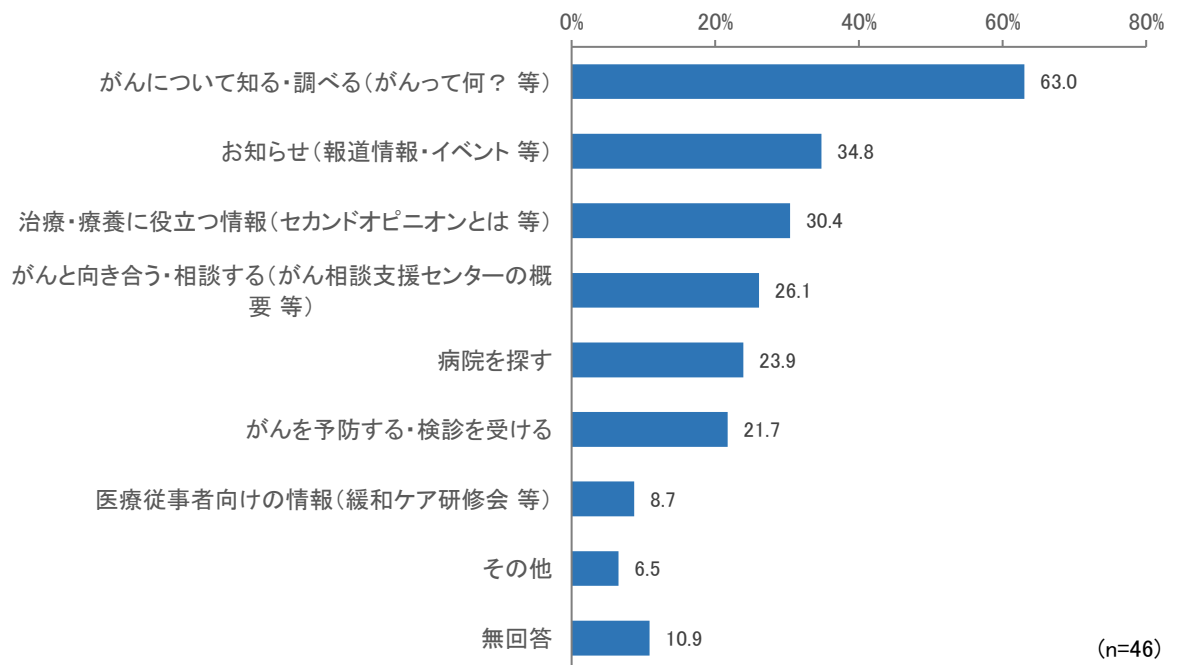
## 4) 「東京都がんポータルサイト」の閲覧したページ

《問104》問102で「1. 見たことがある」と回答した方に伺います。

どのページを閲覧されましたか。(〇はいくつでも)

東京都がんポータルサイトを見たことがあると回答した46人に、どのページを閲覧したか尋ねたところ、「がんについて知る・調べる(がんって何? 等)」と回答した者が63.0%と最も多く、「お知らせ(報道情報・イベント 等)」が34.8%、「治療・療養に役立つ情報(セカンドオピニオンとは 等)」が30.4%であった。

図表 140 「東京都がんポータルサイト」の閲覧したページ(複数回答)



「その他」の具体的内容

- 障害者支援のページ 等

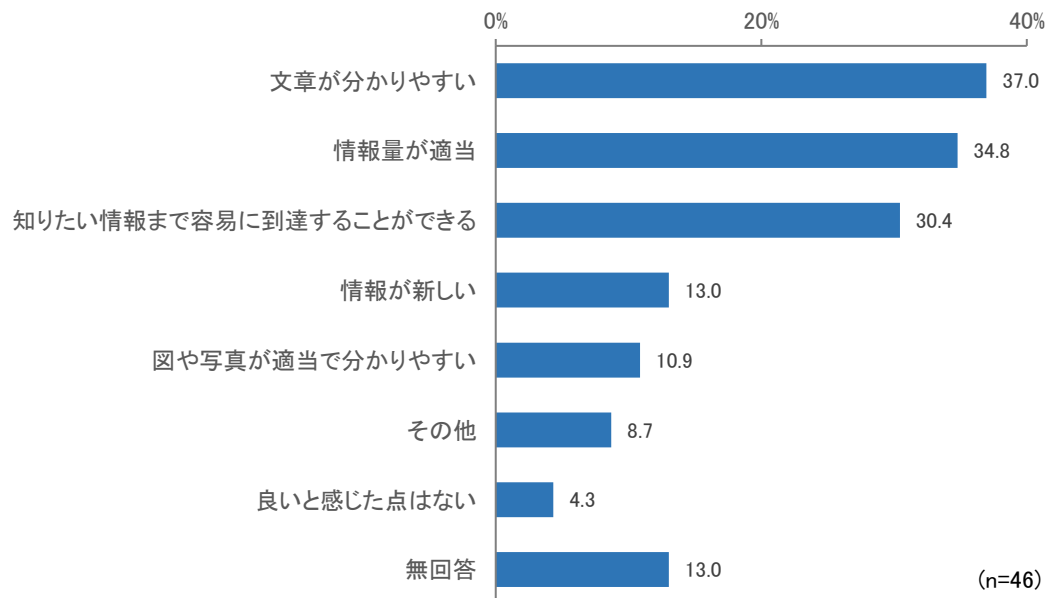
## 5) 「東京都がんポータルサイト」の良かったと感じた点

《問105》問102で「1. 見たことがある」と回答した方に伺います。

どの点が良いと感じましたか。(〇はいくつでも)

東京都がんポータルサイトを見たことがあると回答した46人に、どの点が良かったと感じたか尋ねたところ、「文章が分かりやすい」と回答した者が37.0%と最も多く、「情報量が適当」が34.8%、「知りたい情報まで容易に到達することができる」が30.4%であった。

図表 141 「東京都がんポータルサイト」の良かったと感じた点（複数回答）



「その他」の具体的内容

- 情報の種類が豊かなところ
- 信用できる 等



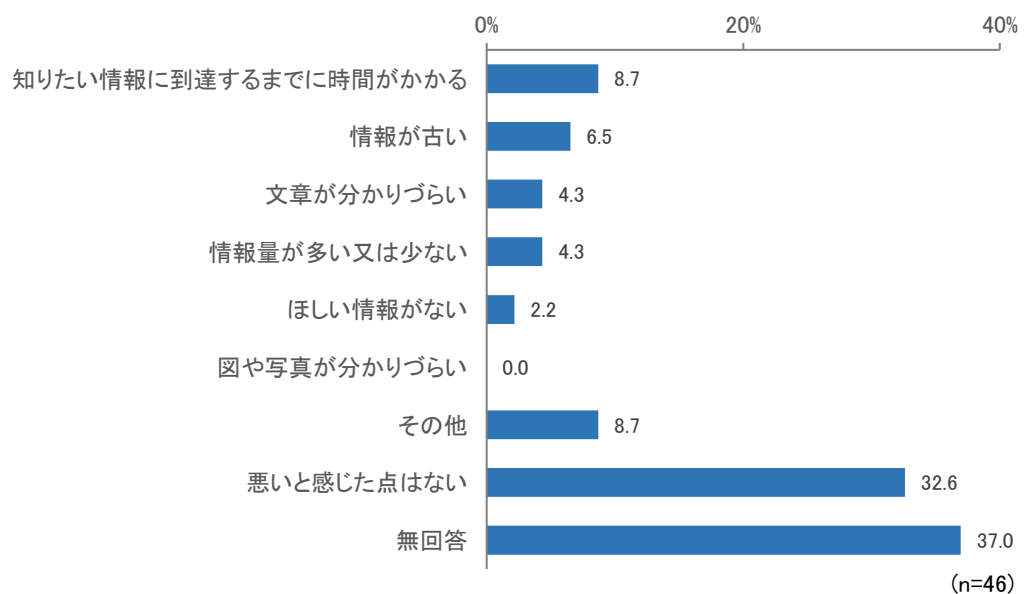
## 6) 「東京都がんポータルサイト」の悪かったと感じた点

《問106》問102で「1. 見たことがある」と回答した方に伺います。

どの点が悪いと感じましたか。(〇はいくつでも)

東京都がんポータルサイトを見たことがあると回答した46人に、どの点が悪いと感じたか尋ねたところ、「知りたい情報に到達するまでに時間がかかる」と回答した者が8.7%、「情報が古い」が6.5%であった。また、「悪いと感じた点はない」は32.6%であった。

図表 142 「東京都がんポータルサイト」の悪かったと感じた点



### 「その他」の具体的内容

- 細かいのでスマホだと見にくい。
- 行政の作ったサイトという感じでUIが良くない。
- 各診療科により情報の種類や順序の統一がなく困惑する。
- 階層が深くて使いにくいと感じた。Not foundがある。 等

## 7) がんに関して知りたい情報

《問107》あなたは、がんに関する情報として、どのようなことが知りたいですか。ご自由に記載してください。

がんに関して知りたい情報について自由記載で尋ねたところ、「治療に関する最新情報」「がんの原因や予防」「がんの治療法や副作用」「再発のリスク」「日常生活をどう送れば良いか」等が挙げられた。

## 12. 最後に

### 1) 療養生活の中で、不安や困っていること、疑問に思っていること

《問107》療養生活を続けられる中で、不安や困っていること、疑問に思っていることなどがありましたら、ご自由に記載してください。

療養生活の中で、不安や困っていること、疑問に思っていることとして、次のような内容について意見が挙げられた。

治療や検査、副作用、後遺症等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在進行中の治療の大体のタイムテーブルが知りたい</li> <li>● 当初の予定より長い治療期間となっており不安である</li> <li>● 常に思う事はあと何年治療するのだろうかという不安</li> <li>● 副作用がどの程度あらわれるのか不安。日常生活に支障が出るのなら、治療を継続していけないのではと思う</li> <li>● 胃の手術をしてから抗がん剤治療の間下痢と嘔吐をくり返して劇的に痩せた</li> <li>● 抗がん剤が終ってもなかなか副作用が抜けないのが辛い</li> <li>● 副反応のない抗がん剤がほしい</li> <li>● 長い期間治療をしていると薬の耐性が出来てしまい、いつか使える薬や手段がなくなる事が不安</li> <li>● 痛みを緩和してもらいたい</li> <li>● 痛みやしびれがまだあり治りにくい 等</li> </ul>
予後、再発や転移	<ul style="list-style-type: none"> <li>● どの位まで病気が良くなるか。どのくらいかかるか</li> <li>● 再発については不安に思っている</li> <li>● 転移や再発といった、将来の不確実性が不安である</li> <li>● 今後、無理なく自分自身のことができる生活が続けていけるか。家族に心配をかけずに仕事を続けていけるか</li> <li>● 終末期が近づくと体調がどのように変化するか知りたい</li> <li>● いつまで生きられるのか不安である 等</li> </ul>
終末期医療・緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>● どの段階だとホスピスに入ることができるのか</li> <li>● 終活に向けた準備しておくべき事を教えて欲しい</li> <li>● 今後自分は緩和ケア以外に治療方法が無くなると思う。この場合の気持ちの持ちようが不安であるし、どのように割切って生活していくかを相談できる場所がほしい 等</li> </ul>
経済的な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今後医療費の不安。今は仕事をしているが退職後は不安</li> <li>● 年間の医療費が思った以上に生活費を圧迫している</li> <li>● 治療が長くなる（転移すると）使用する薬剤がとて高額になり経済的負担がとてつらい</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>治療が長引くことによる生活（収入等）の不安</li> <li>高額な医療費（約10万円/月）をいつまで負担するのか</li> <li>通院のタクシー代などの補助があると助かる 等</li> </ul>
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>排便コントロールについて便回数が増えるので、トイレにすぐ行けないと困るので外出するのが少しこわい</li> <li>食事について、糖質を控えているため、何を食べていいのか分からない</li> <li>家族に迷惑はかけたくない。出来れば自宅で静かに過ごしたい</li> <li>家庭内で困らないで、日常生活が出来るかが不安 等</li> </ul>
家族や友人	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の治療上、介護してもらおう立場として人間関係をどう作っていけば良いのか</li> <li>残す家族の生活、知的障害のある息子の今後の心配</li> <li>今後入院なので、介護している母親をどうするか 等</li> </ul>
医療者、医療機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生も、看護師さん達も、手いっぱい状態。もう少し、仕事を減らす方向で治療に向かってほしい</li> <li>抗がん剤治療のため、入院するが、がん専門病院にもかかわらず、副作用等を抱えた患者向けの食事が提供されない</li> <li>担当医、家族のフォローがしっかりしているので信じて療養に励んでいる</li> <li>コロナの中で先生にあまりこまかい事は聞けず、定期的な血液検査の数字で特段変わった事がなければ終了している</li> <li>カタカナ言葉、お医者さんが使う言葉の意味がわからないのが多く感じられます 等</li> </ul>
情報収集・相談支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じような病気を持つ人達の集まりがあるか知りたい</li> <li>生殖補助医療に関する情報がなかなか得られない</li> <li>ガンのステージ・部位別の生存率は十分な情報がない</li> <li>新しい薬の開発状況</li> <li>よく似た経験の手術後の生活を知りたい 等</li> </ul>
職場の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年も経過すると職場の人達も、もう大丈夫なんだろみたいな感じで、仕事量も増えてきている。以前と同じ身体ではなくなっている事を理解というか配慮してほしい</li> <li>がんのことを知らせては不利なので働きづらい環境である</li> <li>有給休暇が足りなくなり今後治療の度に欠勤扱いになってしまうのが困る 等</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>抗癌剤治療中のコロナ感染に対する不安</li> <li>がんになってしまうと、あらゆる保険に入りにくくなってしまい、不安があるのに保障が少なくなっていくこと 等</li> </ul>

## 2) 医療従事者や行政に対する、がん予防やがん検診についての意見や希望

《問107》医療従事者や行政に対し、がん予防やがん検診についてのご意見やご希望などがありましたら、ご自由に記載してください。

医療従事者や行政に対する、がん予防やがん検診についての意見や希望として、次のような内容について意見が挙げられた。

がん予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>がんの予防について正しい情報が分かりやすく公開してほしいです(Webには疑わしい情報がちらほら見えるので公的機関が正しい情報を up して欲しいです)</li> <li>がん予防について正しい情報を分かりやすく公開して</li> <li>子宮頸がんワクチンの接種は、まだあまり浸透していないイメージなので、もっと周知が必要 等</li> </ul>
がん検診の費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん検診の費用をもう少し低価格にしてほしい</li> <li>自己負担ができるだけ少なくなるようにしていただきたい</li> <li>補助の案内をわかりやすく伝えて(どこ見ればよいか不明)</li> <li>年令に合せたがん一次検診の無料クーポンがより利用し易くなると良い 等</li> </ul>
がん検診の実施体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場の定期的(年1回)な健康診断の項目にがん検診を希望ではなく必須とすればよいのでは思う</li> <li>がん検診がどこでも短時間で気軽に受けられ、検診を受ける事で何かメリットがあると増えるのではないか</li> <li>自治体の検診では無料券が送られてくるが、自分でクリニックに予約を入れるのが面倒(かかりつけ医もないので)。あらかじめ日時指定で病院も決めてあり、必ず受けなければならないような仕組みにしてほしい</li> <li>専業主婦や派遣社員など、会社の定期検診を受けられない人にも手厚いサポートを</li> <li>自治体で検診等を受けたか把握し、受けていない場合受診を強く促す制度(仕組み)により検診率をアップさせてほしい</li> <li>行政からがん検診の案内が来ても、加入先の健康保険で健診を受けられるという理由で受診できないのは残念です 等</li> </ul>
がん検診の検診項目、対象年齢	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期健診でバリウムではなく内視鏡を行ってほしい</li> <li>膀胱癌検診があると良い 等</li> </ul>
がん検診の精度	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで受けたがん検診のコメントが正確ではなかったので、もっと精査して、コメントを出していただきたいです。医療処置と検査が必要な状況だったのに「経過観察」というコメントしかもらえなくて進行がんになってしまったので</li> <li>毎年の市のがん検診では異常なしであったのが、別の疾患の</li> </ul>

	<p>検査で肺がんが発見され、突然ステージⅣのがん宣告を受けた。主治医からは何年も前からがんがあったとの説明を受けた。行政の検診にはもっと精密の向上を望む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AIの技術を駆使しもっと細かい所までより正確に判断いただける未来を希望します</li> <li>設備の古い、技術の低い施設をきちんと調べ対処してください 等</li> </ul>
がん検診への抵抗感	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん検診がこわくてなかなか医者に行かない</li> <li>マンモグラフィー、胃の内視鏡が苦痛なので改善してほしい</li> <li>乳ガン検診のマンモ時、はげしく痛い先生と、痛くない先生の差がはげしすぎるので、「二度といやだ」と言う友人もいます。技術なのか機会の差なのかわかりませんが、痛みのない検診となる様にして欲しく思います 等</li> </ul>
結果説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>データをもっと詳しく説明してほしい</li> <li>事務的すぎる、マニュアル人間であり、患者にあった対応が必要ではないかと思う</li> <li>冷たい人が多い。声の大きさについても配慮してほしい 等</li> </ul>
精密検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断で異常が出て、忙しさやわずらわしさで、せっかくのシグナルを見落してしまう事がある。出来れば、ガンが疑われそうな場合は、必ず、詳しい検査を早急に受ける様に、ある程度強制力をもって検査しなければいけない様になっていると早期発見に留まらず早期治療につながると思う 等</li> </ul>
がん検診に関する啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからも早期発見の為、がん検診を呼びかけてほしい</li> <li>早期発見がいかに大切かを医師や周囲の人々や関連団体の方々が啓蒙することが大切だと思う</li> <li>もっと検診が身近で簡単に感じられるように、トイレの個室に検診場所や連絡先が分かるものを貼ったりしてもらえたらと思います</li> <li>どれくらいの年齢でどのような検診を受けておくとよいのかの情報が欲しい 等</li> </ul>
がん検診を受けやすくするための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>婦人科の検診は受けられる場所が少ないので、より多くの方が手軽に定期的に受けられる環境が作られてほしい</li> <li>待ち時間が長いことが疲れる</li> <li>色々な検診は痛い・辛い・苦しいという印象があるので、そういった負のイメージがなく気軽に受けられる検診があれば早期発見できると思う</li> <li>がん検診受診日は有休がとりやすいようにしてほしい</li> <li>もっとフレックスに検診を受けられる日を作ってほしい 等</li> </ul>

## 3) 医療従事者や行政に対し、がん医療についての意見や希望

《問108》医療従事者や行政に対し、がん医療についてご意見やご希望などがありましたら、ご自由に記載してください。

医療従事者や行政に対する、がん医療についての意見や希望として、次のような内容について意見が挙げられた。

治療や副作用について	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市部と地方で医療格差が生じている。地方でも都市部同等の治療が受けられるように整備して欲しい</li> <li>病院によって受けられない治療がある</li> <li>副作用で便通のトラブルで、がん以外に必要とする治療が出てきてしまう</li> <li>抗ガン剤の副作用に苦しんでいた時、看護師さんが十分フォローしてくれず、悲しかった 等</li> </ul>
新たな治療法について	<ul style="list-style-type: none"> <li>抗癌剤治療による副作用で両膝のしびれについて、よい治療方法ができることを1日も早く望んでいる</li> <li>副作用の少なくなる医療を希望する</li> <li>希少がんの一つの胞巣状軟部肉腫の治療薬で効果的なものを開発してほしい 等</li> </ul>
経済的な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>治療費の負担を軽減してもらいたいです。金銭的に苦しんでいる人には、とても賄える金額ではない</li> <li>今は限度額適用を使っているので助かっていますが、その前迄は医療費、差額ベッド代と、とても高額で大変だった</li> <li>国民年金生活者には、がん医療費が高額でつらい 等</li> </ul>
患者への説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者に分かりやすく、説明、時間をとってほしい</li> <li>医師だけが納得するだけでなく、患者にも言葉だけでなく、図やパンフレット等を使用して具体的に説明してほしい 等</li> </ul>
心のケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>不安を取り除くような会話をしていただき、助かったことから、現実と向き合いつつ、前向きになれるような声掛けをお願いできればと考えている</li> <li>患者に寄り添ってほしい</li> <li>突然の病气告知は受け入れ難く非日常の事なのです。その事を忘れずに接してほしい</li> <li>患者は常に不安を抱えており、ちょっとした会話でも精神的緩和につながるのありがたい 等</li> </ul>
情報提供・相談支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者は皆不安だらけだと思います。外来治療中、経過観察中は時間的制約があり平日に相談する事が難しいことが多い</li> <li>患者支援センターは、医者と同じことを1から全部説明したりすることが面倒。結局は副作用によってより辛くなって止</li> </ul>

	<p>めることも多く、自分には合っていなかった</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>がん患者のサークルのようなものもあると聞いたが少し偏った考えの方たちかもという不安もあるので入れない</li> <li>がん治療に関する情報をもっとわかりやすくしてほしい</li> <li>各種のがんについての治療方法、病院、医師など、最新の情報を適宜欲しい</li> <li>治療法と、経済的負担についての兼ね合いも説明して 等</li> </ul>
治療と仕事の両立	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガンの手術を受け、8年になる。高齢にもなっており、業務も軽減して欲しい</li> <li>がんは身近な病気になったが、それを解雇の理由にされる状況でもある 等</li> </ul>
社会の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>まだまだ、がんであることを秘密にしたい病気のような気がする。デリケートな病気ではあるが、明るく何でも話したり、聞いたりできる環境にしてほしい</li> <li>がん教育などを通じて子供の頃から正しい知識を身につけられるようにしてほしい</li> <li>アピアランスケアもいいけれど、髪の毛がなくても眉毛がなくても自然に外出できるような「多様性」の推進</li> <li>緩和ケアを一般にも理解できるよう広めて欲しい 等</li> </ul>
医療機関の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>引越しをして、病院を変えることになり、どこの病院でも手術をした前の病院へ行くように断われ、行くのをあきらめた</li> <li>副作用対応、対策について、医師、医療機関の間で情報の共有に差があると思われる 等</li> </ul>
医療従事者への感謝	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の中、治療が滞る事なく、何時でも親切、丁寧に対応していただき助かった</li> <li>病院の先生方は、的確に判断し、再発しても治療は納得のいくものを準備して下さいました。本当に感謝している</li> <li>主治医の先生はとても相談し易く満足しています 等</li> </ul>
行政への意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が家は母子家庭で、医療費などは区のサポートで本当に助かっている。あとは家事育児のサポートを手厚くして頂けたら、助かる方がたくさんいるのではないかと思う</li> <li>高額医療費の限度額制度をもっと多くの人に知ってもらうことで、病気を治すことに前向きになれるようにする</li> <li>経済的負担が軽減される施策を多くしてほしい 等</li> </ul>

## 第2章 調査結果

### I 東京都がんに関する患者調査